

---

# 怪盗ポケット団 ～デンセツノヒホウ～

黒夜風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

怪盗ポケット団 ～デンセツノヒホウ～

### 【Nコード】

N8136K

### 【作者名】

黒夜風

### 【あらすじ】

家庭用品シェア70%を誇る世界最大の民間企業・財閥連合。彼らは違法な遺伝子実験を繰り返し、ポケモンを改良した生物兵器の開発をおこなっていた。彼らの創り出した「サイエンネット」呼ばれる謎のモノ。それと秘伝技マシン「X」「Y」「Z」。これらが世界を運命を握る。ストーリーが進むと重くなります。コメディ要素が強いのは最初だけです。

## 登場人物（前書き）

ネタバレになる内容が含まれています

登場人物を読む場合は最新話まで読んだ後の方がいいと思います

### 【記号の意味】

|| 味方組織

|| 敵組織

|| 味方

|| 敵

\* || 死亡

## 登場人物

### 【ポケット団】

ポケモンによって構成される集団

ピカチュウ「リーダー」

この小説の主人公と思われる人物

主人公最強系ファンタジー小説の間逆、

つまり主人公最弱系ファンタジー小説の主人公でもいいような人物。

ポッチャマ

なぜかコーラが嫌いな人物

ポケット団では唯一の女キャラ

ナエトル

ポケット団の観葉植物……らしい( ) ?

キモリ

ポケット団の中では最も強い

少し不思議な人物

エルレイド

ヘリコプター操縦士

登場回数が最も少ない

### 【国際政府】

世界の平和と秩序を守る巨大国家

レイズ「PARUM長官」

FFの魔法ではない

PARUM軍の長官

フィールド「PARUM副長官」

リトマス城でポケット団によって負かされて以来、異様な程の憎悪を向けている

ただ単に任務失敗させたからなのだろうか？ それとも他に理由があるからなのか？

真実は未だ不明

アルカリ「將軍」

リトマス城を守備する將軍

ユーロ「中将」

ヨーロッパの通貨単位ではない人である

### 【財閥連合】

家庭用品シェア70%を誇る世界最大の民間企業

その裏では違法な生物実験を繰り返している

支部・本部は全て地下にある

大暗黒帝

???

コマンド「総督」

財閥連合の総督

ハンターA型「生物兵器」

財閥連合が創造した生物兵器

8年前に起きたテトラルシティの戦い時に投入されたハンターと同じ型

## 【その他】

ドルク

一見、ただのナエトルだが実力は伝説ポケモン並み

約1年前にフィールドと出会った

出身地などは不明だが、コスーム大陸から遙か彼方の島。国際政府

や財閥連合の支配が及ばない地

そこからやって来たらしい

## 第1話 秘伝技マシンZ

【ネズミの本拠地】

本拠地とか書いたけどただのピカチュウの家です

ピカチュウ「今日諸君に集まってもらったのはとある用があるからだピカ」

ポッチャマ「大丈夫な用チャマ？」

コイル「どんな用でイル？」

ナエトル（イル！？）

ピカチュウ「実はフランス語を学ぶかイタリア語を学ぶかで迷っているピカ」

ナエトル（え！！！？）

ポッチャマ「まさに人生の分かれ目だチャマ」

ナエトル（ええええ！！！？）

ピカチュウ「あと、ダークシークレット学を学ぶというのもあるピカ」

ナエトル「あの、何です？ ダークシークレット学って？」

ピカチュウ「ダークシークレット学とはダークでシークレットな学問だ」

ナエトル「そのまんまじゃんー！」

キモリ「本題は？」

ピカチュウ「うむ、すぐに話そう」

ヒコザル（本題、まだだったー！）

ピカチュウ「実は今度、政府の城に侵入し、秘伝技マシンZを頂く事にした」

全員「秘伝技マシンZ!?!」

ピカチュウ「そうだ この秘伝技マシンは4000年前、仙人が5秒かけて作った物らしい」

ナエトル「早ッ！」

ピカチュウ「は？ オメー、秘伝技マシンを踏みにじっただろ」

ナエトル「いえ、そんな……」

ピカチュウ「いや、踏みにじった 俺は秘伝技マシン愛好会の会長だぞ」

ナエトル「うわッ、バカみ……！ 凄いですねー」



ピカチュウ「俺は秘伝技マシン愛好会の会長だぜ？ 生徒会の18倍は偉いと思え」

キモリ「キモ」

ピカチュウ「だってさ ナエトル」

ナエトル（お前の事だよ！ 秘伝技マシン狂！！）

### 【政府の城 リトマス城】

別にリトマス紙を生産してる訳じゃないよ

兵士「アルカリ將軍！ 手紙です」

アルカリ「何？ どれどれ」

秘伝技マシンZを今夜頂く

by 秘伝技マシン愛好家

アルカリ「何イイイイ！！！ すぐに警備を厳重にしろッ！」

こうして、戦争が始まった。

ナエトル（戦争！？！？）

第1話 秘伝技マシンZ（後書き）

第2話へ続くと思う

ナエトル（思う！？）

## 第2話 コーラ

アルカリ「どうだ？ 進んでいるか？ ユーロ中将」

ユーロ「勿論です！」

アルカリ「……でどんな仕掛けを設置した？」

ユーロ「えーとですね、落とし穴とケムリ玉と……」

アルカリ「いや、もっと科学的な仕掛けを用意せんか！ 相手は大怪盗だぞ！」

ユーロ（いつ、大怪盗って決まったんだ！？）

### 【ネズミの本拠地】

ピカチュウ「さて、会議を始めようか」

コイル「オーケー」

ポッチャマ「コーラ持って来てエ」

ピカチュウ「黙れ！ ここはピカチュウ様のお膝元だぞ！ コーラなんか飲むな！」

ポッチャマ「え〜！ 酷い！！」

ピカチュウ「もし、飲んだら新作のポケットモンスターホワイト・ブラックには永久に出さんぞ!!」

キモリ「ガラクタにすぎん」

ナエトル「えええ!!?」

キモリ「そんな神ゲーやって楽しいか？」

コイル（この人って新作を否定してんの？ それとも肯定しているの？）

ピカチュウ「オイオイ、あんまり新作をバカにすると最初のジムリーダーがゴリラになるぞ」

ポツチャマ「どんな感じになるかしら？」

ピカチュウ「ま、こんな感じだろ」

カイリユウ「あ、キャベツだ」

ポーマンダ「……それは白菜だろ」

ピカチュウ「……っていう感じだ」

ナエトル「全然関係ないし!!」

ピカチュウ「うるせエ！　すぐに会議を開始するぞ!!」

ポッチャマ「で、何についてですか？」

ピカチュウ「この組織の名前についてだ」

コイル「秘伝技マシン大好きクラブじゃないんですか？」

ナエトル「何ソレ？ どっかで聞いた事が……」

ポッチャマ「それって、ポケモン大好き倶楽部ね」

ナエトル「なぜ、クラブが漢字?!?!?」

ポッチャマ「は？ なんか悪い？ マジ空気読めよ」

ナエトル（えええー!!?!?!?）

コイル「コーラ持って来ました」

ピカチュウ「ためエエエエ!!!! “十三万ボルト”」

ナエトル（十三万ボルト??）

コイル「は？ 今頃、十三万ボルト？ もう、流行ってないでしょ」

ナエトル（流行った事あるの!?!?）

ピカチュウ「ウソオ!? マジかよオ!?!」

ポッチャマ「あー、コーラおいしいな」

ピカチュウ「貴様アア！！ “アイアンデー……”」

キモリ「うるさい テレビの音が聞こえん」

ピカチュウ（えー！？）

テレビ「只今、コーラ半額中です！！」

ピカチュウ「スターデストロイヤー “惑星破壊砲”」

バキッ！

テレビ破壊

全員「あッ！」

ピカチュウ「テレビはしばらく禁止よ！！」

ナエトル（母親か！！ お前は）

## 第2話 コーラ（後書き）

テレビしか破壊できなかった“スターデストロイヤー惑星破壊砲”って……

ピカチュウ「……………」

### 第3話 ポケット団

ピカチュウ「さ、チュウ議院本会議を始めよう」

ナエトル（チュウ議院??）

コイル「議題は組織名でしたね」

ピカチュウ「候補があればどんどん出せ」

ポツチャマ「“コーラ大好きクラブ”はどうよ?」

ピカチュウ「黙れ! アメリカくん 米軍基地の移設先はお前の家にするぞ」

ポツチャマ「は? いめぐん 米軍? お米の軍隊?」

ピカチュウ「違う!! ……もういいわ コレは異世界の話だし」

コイル「では仕切り直して…… 組織名の候補を出して下さい」

ナエトル「“ピカチュウ帝国”」

ピカチュウ「フツー過ぎだろ! つか、国名じゃねえよ!!」

キモリ「ドロボー隊」

ピカチュウ「ただのドロボー組織かよ!!」

ポツチャマ「それならアナタが候補を出しては?」



ピカチュウ「え!!!?」

ポツチャマ「オイ！ 早くしろよ コラ！ 米軍基地こめぐんの移設先をお前まへンちにするぞ」

ピカチュウ「えーと…… “ポケット団”」

ポツチャマ「は？ ポケット団？ ネーミングセンスねえな」

ピカチュウ「うるさい！ これでいいな議長」

議長コイル「いいよー」

ナエトル（いいんだ）

ピカチュウ「よし、我らは“ポケット団”だ!!」

キモリ「ダサ」

ピカチュウ「文句あるのか？ ジュプトル？」

キモリ（まだジュプトルじゃねえし!!）

## 【リトマス城】

ユーロ「アルカリ将軍！ 名探偵レジチルスさんが到着！  
更に怪盗撲滅部隊長官のカビゴンも同じく!!」

アルカリ「うむ 遂に来たか」

夕方、名探偵レジチルスやカビゴン長官などがリトマス城に到着。  
リトマス城は時間が経過するたびに緊張を増していった。

ジバコイル「システム全て作動」

マリル「一階異常ナシです」

ドータクン「二階異常ナシ！」

ミカルゲ「三階異常ナシだぜ」

ルナトーン「屋上異常ナシ……」

ノズパス「城門異常ナシ」

ユーロ「城内は兵士とポケモンが守っています」

アルカリ「うむ」

リトマス城での体制は整った。  
後は襲撃を待つのみであった。

第3話 ポケット団（後書き）

次回、リトマス城に侵入！

## 第4話 フィールド（前書き）

うん、久しぶりですね  
昼寝したのは

ピカチュウ「更新の方では!？」

## 第4話 フィールド

【リトマス城の近くの公園の木の上らへん】

ピカチュウ「アレが政府の特殊部隊パルム P A R U Mの兵士達だ」

ポチャマ「へー」

コイル「数が多いデスネ」

ピカチュウ「相手は我ら怪盗ポケット団だからな」

ポッチャマ「とにかく“アレ”を手に入れるわよ」

ピカチュウ「オウ！」

【リトマス城 秘伝技マシンZのある部屋】

アルカリ「さア…… ロケット団よ！ やって来るがいい！！！」

ユーロ「ポケット団です アルカリ將軍！」

アルカリ「……………！ 勿論知ってたさ ポケット団」

フィールド「アルカリ將軍！ 怪盗撲滅部隊到着しました」

アルカリ「よし、その部隊に命じろ ルパ 三世を捕らえろとな！」

ユーロ「ポケット団です！」

アルカリ「チツ！　うるせえな」

フィールド「間違えたのはお前だ　反省しているのか？」

アルカリ「はいはい　反省してまーす」

フィールド「何だ！　その態度は！！？」

アルカリ「は？　何か悪い？」

PARUM怪盗撲滅兵「申し上げます！！！」

アルカリ「何だ！　遂にカケッコ団の襲来か！？」

ユーロ（また間違えてるし……）

フィールド（頭が逝っているんだろうな）

PARUM怪盗撲滅兵「駅で……」

アルカリ「現れたか！？」

PARUM怪盗撲滅兵「痴漢が現れました」

アルカリ「どーでもええわ！」

PARUM怪盗撲滅兵「そーですか？　重大な気もしますが……」

アルカリ「全然重大じゃないから！ てめエは“PARUM痴漢撲滅部隊”か！！」

PARUM怪盗撲滅兵「いえ、“PARUM変態撲滅部隊”です」

フィールド（アホか）

ユーロ「そういえば、あなたは誰ですか？」

アルカリ「そうだ！ 聞き忘れてた！ お前誰だ！？」

フィールド「私か？ 私は国際政府特殊軍PARUMの副長官だ」

アルカリ「えッ！？ ちょっと…… 嘘ッ！？」

ユーロ「ええッ！？ PARUM撲滅部隊長カビゴンさんではないのですか！？」

フィールド「は？ 私がカビゴンに見えたか？」

アルカリ「いえ、とんでもない……」

PARUM怪盗撲滅兵「申し上げます！ 爆発が起きました！！」

全員「何ッ！？」

【リトマス城 正門】

コイル「何ですか！？ 爆発しましたよ？」

キモリ「俺が準備運動の為に爆弾投げた」

ポツチャマ「あんたバカじゃないのオオ!!」

PARUM怪盗撲滅兵A「誰かいるぞオ!!」

PARUM怪盗撲滅兵B「奴らを捕らえろ!!」

ピカチュウ「かかってこい!!」

ポツチャマ（なぜ挑発!?!）

ピカチュウ「ボクに負けたら“コーラ禁止法”を可決してもらっぞ!!」

キモリ（アホだ コイツ）

コイル「き、来ましたよ!!」

PARUM怪盗撲滅兵A「うらア!!」

ピカチュウ「“十万ボルト”!!」

PARUM怪盗撲滅兵A「うわアッ!!」

ポツチャマ「“バブル光線”!!」

PARUM怪盗撲滅兵B「グエッ!!」



コイル「機械音」

キモリ「もう、倒れたぞ」

コイル「……………」

ピカチュウ「よし、リトマス城に行くぞ！」

全員「おーー!!」

## 第4話 フィールド（後書き）

6月は不定期更新となります  
不定期でスイマセン

## 第5話 ひょうたん島って

### 【リトマス城】

ピカチュウ「ウラウラア！ 宝に向かって爆走じゃアー！」

ナエトル「あら、ピカチュウさん テンション高いですねー

ハイテンションですか？」

ピカチュウ「敗テンションじゃアー！」

ナエトル「あらヤダー これから負けるのー？

ほほほほほほ

ポツチャマ（黙れ）

PARUM怪盗撲滅兵「お前ら反逆者かッ！」

ピカチュウ「“でんきあたく”！」

ポツチャマ（でんきあたく??）

PARUM怪盗撲滅兵「グエツ！」

ピカチュウ「フツ！ 雑魚モンスターが」

コイル「アレ？ モンスターでしたっけ？」

ピカチュウ「フへへへ 宝はもう頂いたも同然だな」

ナエトル「ピカチュウさん 一言だけ言っていいですか？」

ピカチュウ「何だ？」

ナエトル「夫人役辞めていい？」

ポツチャマ「夫人役!??」

ナエトル「もう、疲れたし」

ピカチュウ「ふざけんな！」

ナエトル「……………！」

ピカチュウ「お前は友との約束を忘れたのかよッ！」

\*

とある夏

ナエトル「私はこの国を変えます！」

ムダを削減します！

基地は最低惑星外を目指します！

どうか、私に一票を!!」

\*

ピカチュウ「……ってね」

ナエトル「いや、意味わかんねえよ!!」

何の話だコラ」

キモリ「約束というより公約だな」

PARUM怪盗撲滅兵「死ね!」

ピカチュウ「“でんきあたく”」

PARUM怪盗撲滅兵「ぐえツ!」

ナエトル「でんきあたくって何?」

ピカチュウ「でんきあたくを知らないのか?」

ポツチャマ「誰も知らないと……」

ピカチュウ「うるせえ コーラ」

ポツチャマ(コーラ!?!?)

ピカチュウ「次の時によく見とけ」

ナエトル「は、はア……」

【秘伝技マシンの有る部屋＝最高司令室】

PARUM怪盗防衛兵「罾と兵は全滅しました！」

カビゴン「なにィ？ そんなバカな……」

PARUM怪盗撲滅兵「ウギヤアツ！」

カビゴン「……………！」

ピカチュウ「あー、やっと着いたわ」

ナエトル「で、秘伝技マシンZはドコに……」

ポツチャマ「アレじゃない？」

“特別特殊品最嚴重管理庫”  
さわつちやダメだよ

ナエトル（名前長ッ！）

ポツチャマ（ルビがおかしいでしょ）

ピカチュウ「アレかッ！」

PARUM怪盗撲滅兵「お前らッ！」

PARUM防衛兵「帰って貰おうか……」

PARUM魔物捕獲兵「何人で攻めて来たんだ？ フッフ……」

PARUM特務兵「最高司令室の兵員は100人だぞ？」

ピカチュウ「死ね！ クソ共！ “百万ボルトオ”！！」

ポツチャマ（百万！！？）

PARUM兵全員「ウギャアアア……………！」

カビゴン「……………！」

ピカチュウ「ワシに勝てると思っているのか？ お馬鹿兵」

ナエトル（ワシ？）

ピカチュウ「でんきあたく」

ナエトル（でんきあたくキタ！）

電気電気電気伝記電気電気電気電気電気

ポツチャマ（電気の攻撃だー！！！！）

コイル（一個だけ伝記が…………）

カビゴン「グッ！ オオツ！ グアツ！ グオツ！」

ポツチャマ（かなり効いてるし！）

カビゴンは 倒れた

ピカチュウは 5000の 経験を ゲット した

ポツチャマ（なぜ、ゲーム風に！？）

次回に 続く



第5話 ひょうたん島って(後書き)

サブタイトルと話の内容が関係ないのは勘弁してねww  
思いつかなかったんです！

ピカチュウ「オイ!!」

## 第6話 ドロにあるの？

ピカチュウ「さア〜て、政府のお宝を頂こうかねえ　クククク……」

ナエトル「お前主人公のクセに悪人かよ！」

ピカチュウ「おや？　今頃気づきました？　僕が大統領なのに？」

ナエトル「いや、何の話で!？」

ピカチュウ「ええええい！　うるさい！　お宝を奪うぞ!!」

ナエトル「お、おう」

キモリ「んじゃ開けるぞ」

ポツチャマ「あれ？　南京錠があつた筈だけど」

ナエトル「さつき、キモリがリーフブレードで斬つたよ」

ポツチャマ「フーン……（ええええええ!!？　斬つたの!!?!?!）  
」

????「待て」

キモリ「……………!!」

キモリの首に鋭く尖つた剣が当てられた。

ピカチュウ「……続く」

ポッチャマ「いや、早すぎでしょ!」

???「いや、続きはない」

ピカチュウ「え?」

???「なぜならお前たちはここで死ぬからだ」

ピカチュウ「なに、コイツ? ヤバそうなオーラ放っているじゃん」

ポッチャマ「このステージのボスね 何者かしら?」

キモリ「国際政府軍事機関PARUMの副長官・フィールドだ」

ポッチャマ「あ、ポケモン図鑑にも載っている!」

ポケモン図鑑「コイキング 世界で一番弱いポケモン それ以外  
話すことねーよ」

ナエトル（不良品だー!）

コイル「てか、人ですよね しかも、女性」

ピカチュウ「よし、“でんきあたま……”」

フィールド「“システム・十万ボルト”」

ピカチュウ「グハッ!」

コイル「アレ？ 彼女は人間ですよネ？ 何故十万ボルトを……」

ピカチュウ「喰らえ！ “アイアンテール……”」

フィールド「“システム・メガドレイン”」

ピカチュウ「クツ……」

キモリ（まさか“魔法発生装置”がここまで進化していたとは……！）

フィールド「フッフ…… 最初の威勢はドコに行った？」

ピカチュウ「な、何を…… “雷”」

フィールド「“システム・守る” “システム・クロスポイズン”」

ピカチュウ「グエエツ！」

キモリ「随分面白い装置を使っているなフィールド」

フィールド「…… “システム・ヘッドロ爆弾”」

キモリ「おっと！」

フィールド「“システム・火炎放し……”」

コイル「“雷”！」

ポツチャマ「バブル光線」

フィールド「……………！」

ピカチュウ「コイルとポツチャマの攻撃でアイツが吹っ飛んだぞ！」

ナエトル「や、やったか？」

キモリ「ピカチュウ！ すぐに秘伝技マシンZを！」

ピカチュウ「お、おう！」

ガチャ……………（金庫が開いた音）

ピカチュウ「お！ あったぞ！」

ピカチュウは 秘伝技マシンZを 手に入れた

キモリ「すぐに引き上げるぞ！」

フィールド「させるかッ！」

コイル「まだ生きてた!？」

キモリ「“リーフブレード”！」

フィールド「ウワッ！ き、貴様……………！」

パラパラパラ……………

ピカチュウ「あ！ 来た来た」

ポツチャマ「へ、ヘリコプター？」

ピカチュウ「遅いぞ〜！ エルレイド」

キモリ「だ、誰？」

ピカチュウ「とにかく屋上に行くぞ！ ここから脱出だ！！」

フィールド「行かせるわけエないだろ……」

ピカチュウ（アレ？ キレてね？）

キモリ「メガ・ドレイン”」

ナエトル「おお！ 成功だ！！」

ポツチャマ「じゃお先に〜！」

コイル「あ！ ズルいですヨ〜」

フィールド「ま、待て！ “システム・ハイドロ……”」

キモリ「メガ・ドレイン”」

フィールド「……………！ “システム・シールド”」

キモリ「お前の相手は俺だ」

ピカチュウ「ここで終わるのはお前だ」

フィールド「……………！」

ナエトル「じゃ頑張つて〜！」

コイル「先に乗ってます〜」

ポツチャマ「バイバイ」

ピカチュウ「ああ、先に行ってる（薄情者がッ！！！！）」

続きます

## 第7話 ポケット団VSフィールド

フィールド「本気で勝てるん？」

キモリ「さアな」

ピカチュウ「思う（逃げたい逃げたい逃げたい逃げたい）」

フィールド「死んでも後悔するなよ」

キモリ「お前がな」

ピカチュウ「そのセリフそのまんま返すぜ（ごめんなさーい！）」

フィールド「システム・スピードUP」 “システム・パワーUP”

“システム・物理シールド” “システム・魔法シールド”

「」

キモリ「余計なおもちゃまでつきやかって……」

ピカチュウ「ゴミ同然だよ フィールドくん （やべええええ！）」

「

フィールド「いくぞ！ “システム・火炎放射”！！」

キモリ「グツ……！ “メガドレイン”！！」

ピカチュウ「“でんきあたく” （ヒィィィ！）」



フィールド「システム・ワープ」 “システム・+ファイア”!

ピカチュウ「+ファイア?」

キモリ「奴の全ての攻撃に火属性を追加する魔法だ」

ピカチュウ「何イ! (俺、電気属性だからかんけーねえや)」

フィールド「システム・電気耐性」

ピカチュウ「雷”! (もーヤだ)」

フィールド「フッフ…… お前の攻撃など効かん」

ピカチュウ「な、何ッ! (アレ? マジで効いてないし)」

キモリ(魔法シールドと電気耐性でピカチュウの技はほとんど無効化させたか

そして、+ファイアやパワーUPで攻撃力を上げたか……  
その攻撃の対象はこの俺だな 俺を倒した後でピカチュウ  
を……)

フィールド「システム・ギガドレイン」

キモリ「グッアッ!」

ピカチュウ「キモリ!」

キモリ(自分を回復させる攻撃か……)

(自らのHPを常に高い位置に置いている……)

フィールド「システム・マグニチュード」

ピカチュウ「グハッ！」

キモリ「メガドレイン」！

フィールド「クッ！」

キモリ（……凄まじいマグニチュードだったな　パワーUPのおかげか）

フィールド「システム・破壊光線」！　「システム・ハイドロポンプ」！

「システム・十万ボルト」！　「システム・ハードプラント」！

ピカチュウ「グアアッ！！」

キモリ（まいったな　ここまでか……！）

フィールド「さて、これで終わらせようか……」

キモリ（終わり……か）

フィールド「システム・5連破壊光線」！

ピカチュウ「……」

キモリ「……」

フィールド「……………? “システム・破壊光線”！」

ピカチュウ「……………??」

キモリ「……………??」

フィールド「な、何故だ? システム・破壊光線だ！」

アナウンス「閣下! 魔法発生装置のエネルギーがダウンしました!

補助効果も消滅していきます!」

フィールド「な、何ッ!?!」

キモリ「ピカチュウ! 天井を攻撃しろ!」

ピカチュウ「オ、オウ!(なんで命令されてんの??) “十万ボルト”!」

フィールド「……………?」

キモリ「よし、屋上へ行くぞ!」

フィールド「フン 逃がす訳ない……………」

突然、天井が崩れ瓦礫がフィールドの後頭部に直撃する。  
いや、天井だけでなく他の壁や床まで崩れ始めた。

フィールド「これはッ……………!」

さっきのフィルドの攻撃にマグニチュードがあつた。  
その攻撃で城全体が大きく揺れ崩壊寸前にまで達していた。  
フィルドはそれに気づかずにも後も強力な攻撃をし続けた。  
さっきの十万ボルトによって限界を超えた城は崩壊し始めた。

## 第8話 氷覇山へ

【ポケット団 アジト】

ピカチュウ「諸君！ 前回はご苦勞様であった

ラスボス・フィールドは俺の活躍により倒れたのだ」

キモリ「お前、ほとんどダメージ与えられなかっただろ」

ピカチュウ「ちよつと待てエ！ テメエ、ポケット団のリーダーにお前って言っただろ？」

キモリ「じゃデカネズミ」

ピカチュウ「なッ！ も、もっぺん言ってみろオ！！」

キモリ「デカネズミ デカネズミ デカネズミ デカネズミ デカネズミ デカネズミ  
デカネズミ

デカネズミ デカネズミ デカネズミ デカネズミ デカネズミ ビッ  
グマウス」

ピカチュウ「んぐぐぐウツ！ 決闘だ！ こらア！ こつち来い！！」

キモリ「よかろう 受けて立とう」

バコッ！ バシッ！ ベシッ！

ポツチャマ「……で、コレが秘伝技マシンZ？」

コイル「技マシンでもなく秘伝マシンでもない物ですネ……」

ピピッ！

「メールが届キマシタ」

ポツチャマ「あら？ 誰からかしら」

「財閥連合トイウ反政府組織ガ才宝ヲゲットシタ

本拠地ニ送ル前ニ奪ウベシ

ソレハ現在、氷覇山ノ基地ニアルラシイ

Xヨリ」

ポツチャマ「……………？ Xって誰？」

コイル「さア？」

ピカチュウ「エ、Xは…………俺の…………元カノ…………だ ガクツ」  
決闘してきた

コイル「ひえ〜ッ！ い、医者〜〜！！」

キモリ（彼女いたのかよ）

\*

【リトマス城】

ユーロ「フィールドさん！ 生きてたんですか！！」

フィールド「……アイツらはどこへ？」

アルカリ「それは分かりません」

ユーロ「それより、最近、巨大組織財閥連合が何やら重要な物を手に入れたそうで……」

フィールド「ポケット団はそれを奪うのか？」

ユーロ「さア、それは分かりませんが……」

フィールド「ソレはどこにある？」

ユーロ「氷覇山だそうです」

フィールド「よし、私も氷覇山へ向かう」

アルカリ「ええッ！ マジですか！？」

ユーロ「……………」

フィールド「PARUM長官レイズにはフィールドは氷覇山へ行ったと伝える」

ユーロ「イエッサー！」

\*

ピカチュウ「次の冒険の舞台は氷覇山だ」

ポッチャマ「は、はア……」

コイル「氷覇山って北にあるムチャクチャ寒い所ですよネ？」

ピカチュウ「そう、極寒の世界だ 氷覇山の寒さは世界一ともいわれている」

ナエトル「……で、どうやって行くの？」

ピカチュウ「フッフ…… 勿論、“ヤツ”を呼んだ」

全員「奴？」

ピカチュウ「前回、ヘリコプターを提供したエルレイドだ！」

全員「……………!!」

\*

### 【氷覇山 財閥連合基地】

????「財閥連合総督・コマンドよ 秘伝技マシンXを回収したよ  
うだな」

コマンド「ええ、陛下 遂に回収しました」

????「時期、ポケット団が来る そいつらから“Z”を奪え」

コマンド「……………? ポケット団? 分かりました」



「……フフフ」  
「期待しているよ」

## 第9話 ソライロコイル

### 【氷覇山】

一面に広がる白色の世界。空は灰色でそこから白い粒が大量に落ちてくる。

世界最大の極寒地獄・氷覇山にポケット団は足を踏み入れた。

ピカチュウ「さ、寒い!」

ナエトル「は、早く進まないと……」

コイル「ああ、思考回路がおかしくなりそう」

ポッチャマ「タイプが氷になりそうだ……わ」

エルレイド「じゃ、私は帰ります〜 サヨナラ〜」

ピカチュウ「あ! オイ!!」

パラパラパラ……

ピカチュウ「行っちゃった……」

ポッチャマ「い、いいじゃない ほっときましょう…… ブルブル」

ナエトル「さ、進むもう……」

\*

フィールド「ハア……ハア……」

よるめきながら雪の中を歩くフィールド。

1人用小型の飛空艇でこの氷覇山に来た。

しかし、途中で飛空艇のコンピューターが壊れ不時着したのだ。

フィールド（まさか、途中でコンピューターがイカれるなんて……

ダメだッ！ 目の前が暗くなる こんな所で死ぬのか……

……？）

その場に倒れるフィールド。視界は次第に暗くなっていく。

彼女は意識を失う直前、前方に一匹のナエトルを見た気がした。

フィールド（ナエトル……？）

「……」

\*

ピカチュウ「オーイ！ 待ってくれ〜！」

ポツチャマ「遅いッ！」

ナエトル「あ、あんなネズミほつといて進もう……」

キモリ「何だアレは？」

レジアイス「イイ？ 私達はここでポケット団を仕留める」

ジバコイル「オウ！」

コイル「おっけー」

レアコイル「財閥連合から貰った“ハイテクバズーカ”で奴らはイチコロ」

コイル「うん、そうだよな」

レジアイス「さて、ハイテクバズーカを出して コイル」

コイル「え？ えッ！？ 僕が？」

レジアイス「“えッ！？”ってなあに？ コイル君」

コイル「だ、だって、僕持ってないよ？」

レジアイス「何ソレ？ 死にたいの」

コイル「だってさっきレジアイス団長が持って……」

レジアイス「はア？ 私が持っているだとコラ？」

コイル「……………」

レジアイス「お前がなくなしたんじゃないのか？」

コイル「そ、そんな……………」

レジアイス「よし、ハイテクバズーカを探し出すまでお前の名前は

“ソライロコイル”だ」

コイル「は????」

レジアイス「は？ じゃなくではいだろソライロコイル!!」

コイル「……はい」

コイルは ソライロコイルになった！

ソライロコイル「……グスン」

レジアイス「泣いてんじゃねーよ バカッ!!」

ソライロコイル「……はい」

キモリ「…………」

ポツチャマ「何アレ？」

キモリ「バカだろ ほっとけ」

ピカチュウ「つ、疲れた オイ！ 飯出せ」

ポケット団全員「…………!!」

ソライロコイル「……え？」

ピカチュウ「ん？ 何だお前ら？」

レアコイル「冷風のコウテツキラース」

ジバコイル「オウ！ オウ！」

レジアイス「そうさ、私達はコウテツキラース

って今忙しいから用は後にしな」

コイル「ピカチュウさん 行きますヨ」

ピカチュウ「アレ？ 俺の部下のコイルはコツチか！」

ポツチャマ「お邪魔しました〜 行くよ！」

ピカチュウ「ちょ、引つ張るな……」

レジアイス「さっきの連中は何だろうね？」

レアコイル「さア……」

レジアイス「まア、イイ 早く探しな！ ソライロコイル」

ソライロコイル「はい、団長……」

第10話 強者出現！ その名は……

【ブリズアードシティ

南エリア】

氷覇山にある街・ブリズアードシティ。

一年中雪が降り続けるこの街はとにかく寒い。

ピカチュウ「ま、街だア〜」

キモリ「ふう、流石に疲れたな」

ユキワラシ「……で、僕は見たんだよ ナエトルに運ばれる女の人を」

トドグラ「一匹のナエトルがねえ……」

ユキワラシ「にしてもあの女の人バカだ 防寒対策してない」

トドグラ「多分、南の人間なんだろうね 寒さ知らずの」

ピカチュウ「……ナエトル？」

ナエトル「ん？」

ピカチュウ「女の人って誰だ？」

ナエトル「いや、知らないよ って一緒に行動してたよね」

ピカチュウ「アレ？ そうだっけ？」

ナエトル「そうだろ！ アホネズミ！！」

ピカチュウ「んだとコラ！」

ポッチャマ「誰がコラだ！」

ピカチュウ「誰もコラ言っただねえよ！！」

### 【氷覇山】

ソライロコイル「酷いじゃないですか！ ハイテクバズーカ団長が持っていたなんて」

レジアイス「フン！ たまにはこついう事もあるさ」

レアコイル「どうでもいいがコレから仕留めるポケット団は誰がいるんだ？」

レジアイス「ソライロ！」

ソライロコイル「はい…… えーと、ピカチュウ・キモリ・ポッチャマ・コイル・ナエト……ル」

レジアイス「……………！！」

レアコイル「まさか……………！！」



ジバコイル「オウ！ オーウ！！」

ソライロコイル「さっきの連中ですよね」

レジアイス「ウソでしょオオオ！！！！」

レアコイル「……オイ！ アレを見る！！」

????「ん？」

そこには一匹のナエトルが居た。

レジアイス「んん？ まあ、ナエトルなんてこの地方じゃまず居ない」

レアコイル「ポケット団のナエトルの可能性大だな」

レジアイス「よし、叩きのめせずぞ！！」

ジバコイル「オウ！！」

レアコイル「ハハッ！ 覚悟しろ！！」

ソライロコイル「覚悟して下さい」

????「へー、俺と戦うのか？」

レアコイル「フフフ…… 死ねイ！ “十万ボルト”！！」

???「アルテマ」!

ジバコイル「オウウ！」

レジアイス「……………!!?」

???「エナジーバスター」!

ジバコイル「ウゴツ！」

ジバコイル戦闘不能

レジアイス「な、何アイツ!? 何の技使つてんの!?!」

レアコイル「たぶん、政府の魔法発生装置だ! ちくしょオ! そんなの聞いてないぜ!!」

???「魔法発生装置? 何だそれは?」

レアコイル「……………!!」

レジアイス「まさか……………! いや有り得ない」

???「まあいいや “ファイガ”」

レアコイル「グエエツ！」

レアコイル戦闘不能

レジアイス「何イイ! お前何者だア!!」

ドルク「俺はチーム・ブレイブのドルクだ」

レジアイス「……………？ ドルクウ？ 知らないね」

ドルク「知らないなら教えてやるよ！ “ エナジーバスター ” ！！」

レジアイス「グギギッ！」

ソライロコイル「団長！」

レジアイス「……………！！」

レジアイスの目の先にはハイテクバズーカを持ったソライロコイルの姿があった。

レジアイス「……………ニヤリ」

## 第11話 ブリズアードシティにて

レジアイス「ソライロオ！ それ私にを渡しなア！！」

ソライロコイル「えッ！？ ハイテクバズーカを？」

レジアイス「そうだよ！ 早く！！」

ソライロコイルは慌ててハイテクバズーカを渡す。

レジアイス「喰らえ！ ハイテクバズーカ弾！」

ズドーン

ソライロコイル（効果音しょぼい……）

ドルク「“アルテマ×10”！」

レジアイス「……………！！」

ソライロコイル「……………！！」

極寒のブリズアードシティ外部・氷覇山。悲鳴が響き渡った。

ザマーミロ アハハハハ（？）

【国際政府首都・グリードシティ】

名前通りここは国際政府の首都なのである。

第19エリアのハンバーグ専門店のサラダが美味いらしい。  
え？ ハンバーグ専門店のくせにサラダが美味しいのは何故かっ  
て？

そりゃ、このハンバーグ、財閥連合社の冷凍食品だもん。  
サラダは店長の庭で採れるらしい。(雑草説アリ)

連絡官「財閥連合の秘密軍用支部へ送り込んだネスト・フィルド消  
息不明です」

P A R U M長官レイズ「連絡を絶つてどれくらいに？」

連絡官「12時間です」

レイズ「あつそ。死んだな。ほつとけ」

連絡官「え？ いいんですか？」

レイズ「かまわん。代わりなど腐るほどいる」

連絡官「は、はい……」

【ブリズアードシティ ホテル】

ピカチュウ「さて、作戦を立てようか」

コイル「ところで僕達はここに何しに来たんでシタ？」

ポツチャマ「確か、Xからメールが来て、財閥連合のお宝を奪うん  
だったよね？」

ピカチュウ「そうだ。と言っわけでいい作戦があればドンドン出てくれ」

ナエトル「高校無償化は止めるべきです」

コイル（関係ないでショー！）

ピカチュウ「いいですね」

ポツチャマ「政治とカネの問題をなんとかするべきだと思うよ」

ピカチュウ「なるほど」

コイル（えー！！！？）

キモリ「リーダー・ピカチュウは辞任するべきです」

ピカチュウ「いいですね」

コイル（僕もそう思います！）

ピカチュウ「コラ。コイル君」

コイル「……………！」

ピカチュウ「何で君はコイルなんだ？」

コイル「知りません。って関係ないデスヨネ！」

ピカチュウ「うるさいねエ〜。じめんタイプに弱いはがねタイプの分際で」

コイル「じめんタイプに弱いのはお前もデシヨ〜！！」

ピカチュウ「うるせえ！ ハンドガン」

コイル「何故ハンドガン！？」

キモリ「オイ！ TVの音が聞こえんだろ！ 静かにしろ！！」

主人公「僕が今日お前を倒して世界に平和をもたらす」

魔王「ククク。そんな事は出来ん！ さア、かかって来い！！」

主人公「喰らえ“コーヒーアタック”！」

ピチャ（ コーヒーかけた）

魔王「うおおツ！ グゲエエエツ！ ウゴオオオツ！！」

主人公「終わったか」

コイル「何なんだコレはー！！！」

ピカチュウ「これは“あまのとうりゅうめい天野当流覇頂伝”だな」

コイル「名前が……」

ポッチャマ「今、人気のドラマね」

コイル「ドラマなんですカ!!?」

ナエトル「あ、機械城に行く時間だよ」

コイル「あ、今回初登場ですネ」

ナエトル「うるさいなア！ ほのおタイプに弱いはがねタイプのくせに!!」

コイル「いや、くさタイプの君もほのおに弱いかと……」

ピカチュウ「時間だな！ 行くぞポケット団!!」

ポッチャマ「よし」

キモリ「ああ」

ナエトル「おう!!」

コイル（もう勝手にして下サイ）



## 第12話 氷覇支部への侵入者

【氷覇山】

ピカチュウ「山登りは危険がいつぱい！」

キモリ「例えば？」

ピカチュウ「例えばそうだな。雪だるまのユッキーが結婚詐欺にあつて泣く、とかな」

ナエトル「なるほど」。それはそれは」

コイル（意味分かんネエ）

ピカチュウ「あと、ピエロがゴリラと結婚したりな」

ナエトル「あゝ、想像するだけで怖いね」

キモリ「オイ、関係ないぞ。山登りと」

ピカチュウ「……チツ！」

コイル（舌打ちしたー！！）

【財閥連合 氷覇山支部】

通称、機械城。それ以外書くことはない（酷

アナウンス「正門ニテ異常発生！ 正門ニテ異常発生！ 周辺ノ警備兵八正門ニ向エ」

財閥連合将校「全兵、構え！」

財閥連合兵「はッ！」

大勢の兵が煙の上がる正門に銃口を向ける。  
正門には“何か”がいるらしい。

財閥連合兵「……………」

この時、謎の侵入者は正門に居なかった。  
謎の侵入者は彼らの後ろつまり……

????「サンダガ”！」

財閥連合兵「ウワァ！」

財閥連合兵「グエエ！」

財閥連合兵「ギヤアアア！！！」

財閥連合兵「ガハッ！」

財閥連合兵「ウゲエッ！」

財閥連合将校「貴様！ “システム・龍の波動”！！！」

財閥連合の将校・クロロドンは魔法発生装置と呼ばれる装置を使い、攻撃する。

だが、一瞬にして謎の侵入者の姿は消える。

そして、クロロドンは謎の侵入者の姿を見る事なく攻撃を受けた。

????「アルテマ」!

クロロドン「……………」!

#### 【氷覇山支部 最高司令室】

コマンド「つ、遂にポケット団が来たのか!？」

幹部「いえ、ポケット団のピカチュウ確認出来ません!」

幹部「総督閣下! 侵入者は1名です!！」

幹部「申し上げます! 侵入者はレベル1を突破! レベル2に侵入されました!！」

コマンド「バトルドroidを起動させ追跡せよ!！」

幹部「はッ! 全ドroid起動せよ!！」

#### 【ドroid格納庫】

アナウンス「侵入者有り。追跡セヨ! 逮捕セヨ!」

バトルドroid「攻撃セヨ! 破壊セヨ!」

バトルドroid EX「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

バトルドroid SP「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

### 【氷覇山支部 レベル2】

バトルドroid「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

???「邪魔だ！ “サンダガ”！」

バトルドroid「攻撃セ、セ……ヨ」

バトルドroid「ギ、ギ……！ ……！！！」

強力な電撃によりバトルドroid達は次々と破壊される。  
謎の侵入者に向かうところ敵なし。

バトルドroid EX「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

???「……………！」

バトルドroid EX。両腕にガトリングガンを装備し、バトルドroidよりも耐久力のあるドroidだ。

因みに普通のバトルドroidは連射式アサルトライフルを使用している。

???「“エナジーフレーム”！」

謎の侵入者は緑色の炎を繰り出し、バトルドroid EXを焼き払う。

バトルドroid EXは一瞬で灰へと変貌した。

【氷覇山支部 レベル9 最高司令室】

幹部「コマンド閣下！ 侵入者の正体が分かりました」

コマンド「何ッ！ で何者だ！！」

幹部「は、はい。あの侵入者は種族としてはナエトル」

コマンド「な、何イ！ バカな事を申すな！ ナエトルがあんな強力な技を使えるハズがないッ！！」

幹部「いえ、本当です！ ただあのナエトル、普通ではありません！！！！」

コマンド「どついう事だ！」

幹部「氷覇山に派遣したコウテツキラーズが確認しています！ あのナエトルは魔法を使うドルクです！！」

第12話 氷覇支部への侵入者（後書き）

更新遅くてごめんなさい ><

### 第13話 証拠隠滅機 - 氷覇支部

【氷覇支部 レベル9 最高司令室】

幹部「……コマンド総督！ レベル1からの直通エレベーターが勝手に動いていますー！ー！」

コマンド「何ッ！？ 至急エレベーター前に兵を集結させろー！ー！」

幹部「はッー！」

【レベル9 エレベーター前】

エレベーターがゆっくりと開く。

財閥連合兵「……いない？」

財閥連合兵「どうなっている？」

「???」「こつちだ」

財閥連合兵「……え??？」

財閥連合兵は後ろを向く。その途端、財閥連合兵は次々と倒れる。彼らの後ろにいたのはマシンガンを持った1人の女性だった。

財閥連合兵「グエッ！」

財閥連合兵「ギャアッ！」

????「ドルク！」

ドルク「おう！ 喰らえ！ “エナジーバスター”！！」

財閥連合兵「グアアアッ！」

【氷覇支部 最高司令室】

幹部「コマンド総督！ 侵入者2名がすぐそこまで……」

コマンド「何ッ!?!」

その途端、最高司令室の扉が開く。

コマンド「……………!」

ドルク「ここが最高司令室のようだな。フィールド」

フィールド「らしいな。どっかのバカ総督の顔がある」

コマンド「ネスト・フィールド……………!」

幹部「か、閣下…………… どうします?」

コマンド「フィールドは逃がすなよ…………… 奴は8年前テトラルシティから脱出した連中の……………」



フィールド「……………」

コマンド「一人だ！ 何としても殺せッ！！」

幹部達「はッ！」

幹部達は一齐にマグナムガンを取り出し、発砲する。

ドルク「おっと、危ねえ！」

ドルクはマグナム弾をギリギリよける。

普通のポケモンなら間違いなく当たっている。

フィールド「喰らえ！」

ドルク「アルテマ！」

幹部「ギヤアアッ！」

幹部「ウツ！ ガアッ！！」

幹部「グギヤアアッ！」

幹部「この野郎ッ！」

フィールド「邪魔だ」

フィールドは接近してきた幹部を斬る。

幹部「グフッ！」

幹部「ポケモンなら……」

ドルク「お前なんかにはやられるか！ “エナジーバスター”」

幹部「ギャヤアツ！」

ドルクのエナジーバスターによって幹部は吹き飛ばされた。

### 【氷覇支部 緊急脱出廊下】

ヘリポートにあるヘリを指指して一人の男が走る。

財閥連合総督・コマンドだ。

コマンド「フッフッフ…… あのナエトルは知らんがネスト・フイルド…… よく知ってるさ

テトラル脱出組の一人…… つまり生物兵器ハンターの追撃を振り切ったのだろう

そんな超人にあの幹部共が勝てるはずない。時間稼ぎぐらいだな」

コマンドはポケットからリモコンを取り出す。

そこにはこう書かれていた。

“証拠隠滅機 - 氷覇支部”

コマンド「32089……っと」

その数字を入力した途端、カウントダウンが始まる。

コマンド「バカ総督？　じゃ、アンタはバカ軍人だな」

コマンドはへりの扉を開け、乗り込む。

財閥連合兵「あ、コマンド総督」

へりには一人の財閥連合兵がいた。

コマンド「最高司令室はどうなった？」

財閥連合兵「ほとんどの幹部がやられていますますがまだ戦いが続いているようです」

コマンド「……へりを飛ばせ」

財閥連合兵「イエッサー」

へりは動き始め、僅かな時間で空中に飛び出す。

コマンド「フッフッフ……　終わりだ」

氷覇支部の外に飛び出し、へりは吹雪の中を進む。

その後ろの氷覇支部では時限爆弾が作動し、爆発した。

何もかもが吹き飛び、全ては炎の中に消えていった……

コマンド「念の為に聞くが氷覇支部から脱出した者は？」

財閥連合兵「誰もいません」

コマンド「そうか、テトラルシティの脱出組一名死亡、だな

フッフッフ、ハッハッハッハ！！』

財閥連合総督・コマンド。

彼の笑い声がへりに響き渡った。

第13話 証拠隠滅機 - 氷覇支部 (後書き)

バットエンドって好きですか？

自分の小説バットエンドみたいな感じのが多いです  
でもハッピーエンドも書きたいなあ

## 第14話 ヘリ大暴走

### 【氷覇山】

ここではポケット団が山登りをしていた。

ピカチュウ「なあ、知っているか？」

キモリ「何が？」

ピカチュウ「実はクリームガンって銃の名前だぜ」

キモリ「ウソつけ」

ピカチュウ「いや、ホントだって。ホラ、ハンド“ガン”とかマグナム“ガン”とかガトリング“ガン”だってぶっちゃけ銃だろ？」

キモリ「お前、名前の最後に“ガン”がつけば何でも銃になると思っているんだろ」

ピカチュウ「思っているよ。だって“ガン”だもの」

キモリ「じゃ、“スローガン”も銃か？」

ピカチュウ「……じゃないの？ 遅いハンドガン、みたいな」

キモリ「ハッ！ バカが」

ピカチュウ「あー、はいはい、すいませんね。バカで」

そう言った途端、遠くで爆発が起こる。

キモリ「ん？ 何だ、今のは？」

ピカチュウ「ん？？ アレは何だ？ 雪が流れて……」

キモリ「……………！ 雪崩だ！！」

ピカチュウ「何イイイ！！」

氷覇支部の爆発によって雪崩が発生したらしい。

ピカチュウ「なぜ、雪崩がアア！！」

キモリ「まずいな！」

キモリは上空を見る。空を飛ぶ一機のヘリが見える。

キモリ「よし！ “ツルの鞭”！」

キモリはつたを繰り出し、ヘリに巻きつける。

そして、ピカチュウを連れ、登って行った。

### 【ヘリ内部】

ヘリでは財閥連合兵がコマンドにハンドガン突きつけていた。

コマンド「な、何を……………！」

財閥連合兵「動かないで頂きたい」

コマンド「貴様……！ 何者だ……！」

財閥連合兵はヘルメットを脱ぐ。

コマンド「なッ……！」

フィールド「国際政府のネスト・フィールド。バカ総督」

ドルク「俺はナエトルのドルクだ」

いつの間にかコマンドの後ろにはドルクがいた。

コマンド「バ、バカな……！ 幹部共と戦っていたハズじゃ」

フィールド「幹部は弱すぎて時間稼ぎにもならなかったな」

ドルク「残念だったな」

ドンッ！

突然、ヘリの扉が叩かれる。

コマンド「……？」

フィールド「……？」

ドルク「……？」



フィールドは扉の窓を見る。  
そこにはピカチュウとキモリがいた。

ピカチュウ「……………」

キモリ「……………！……………！！」

ピカチュウ「……………？……………」

キモリ「……………！！」

ドルク「アイツら何言ってるんだ？」

フィールド「さアね」

そう言うとフィールドはハンドガンを持って窓を開ける。

ピカチュウ「あ、どもー、入れて下さい」

キモリ「やはりネスト・フィールド！ 何でコイツが……………！！」

フィールド「バイバイ」

そう言うとピカチュウの頭にハンドガン突きつける。

ピカチュウ「あ、ハンドガン。なア、クリムガンっていう銃あるか？」

キモリ「それどころではないだろ……………」

フィールド「残念だけどないでしょうね」

そう言った途端にキモリは蔓つるの鞭でフィールドの顔を打つ。

フィールドはその衝撃で倒れ、その隙にピカチュウ達はへりに入る。

ピカチュウ「……………キモリ大先生。女性の顔を鞭で打っていいのですよ  
うか？」

キモリ「知るか」

フィールド「クツ！ こいつら……………」

ドルク「フィールド！ 大丈夫か！？」

コマンド「ま、またポケモンが……………」

ピカチュウ「このへりは頂いていくぞ」

ドルク「させるか！ “エナジーバスター”！」

ドルクはエナジーバスターで攻撃する。

ピカチュウ「グハアッ！」

コマンド「フッフッフ、死ねイ！」

いつの間にかコマンドはマグナムガンを持ち、銃口を前方に向けている。

ピカチュウ「あ、マグナムガ……」

マグナム弾が放たれる。それは一直線に進み、操作システムが集中する所に当たった。

コマンドはジェット機を背負い、扉を開け、飛び出して行った。

アナウンス「ビーツ！ ビーツ！ システムエラー発生！ システムエラー発生！」

フィールド「……………！」

アナウンス「コントロール不能！ コントロール不能！」

へりは急にスピードを上げ、上へ下へとメチャクチャに動く。

ピカチュウ「うわア！」

ドルク「やばいぞ！」

キモリ「クツ……………！」

へりは飛ぶ。激しく。もう、このへりは誰にも操作出来ない。

暴走へりは彼らを乗せて“幽霊島”へと飛ぶ……

第15話 到着！ 幽霊島（前書き）

（世界の歴史）

【星暦 159年】

・世界初の民主国家・国際政府が誕生

## 第15話 到着！ 幽霊島

【????島 浜辺】

墜落したへり。もう暴走しないだろう。だが、それはもう動かせない事も意味する。

大きな島の浜辺。そこに倒れているのはキモリとフィールド。

キモリ「……………ッ！ ここは……………？」

キモリは辺りを見回す。壊れたへりと気絶しているフィールド。

キモリ（ピカチュウとあのナエトルがいない……………）

【????島 森の洋館】

豪華な洋館。そこから一人の海賊が飛び出す。

海賊「クソッ！ この洋館、普通じゃねえ！」

????「グオオオオ！」

海賊「……………！ まさか、まだ俺を追いかけて」

洋館から黒服の大男が飛び出す。

海賊「ヒッ……………！」

????「ゲオオオ！」

海賊「ギヤアツ！」

【????島 森】

ここにはドルクとピカチュウが倒れていた。

ピカチュウ「一体どこ何だ？　ここは？」

ドルク「知るか。俺に聞くな」

ピカチュウ「ん？　君、このワタクシに向かって暴言を吐いたな？」

ドルク「だからなんだよ」

ピカチュウ「ええい！　天罰を喰らわてやるー！　“十万ボルト”ー！！」

ドルク「“アルテマ”！」

ピカチュウ「ギヤアアア……！！」

森に哀れなポケモンの声が響いた。

【浜辺】

フィールド「……キモリだったな、やってくれるじゃないか」

そう言い、フィールドはキモリを睨む。

キモリ「こうでもしないと殺されかねないので」

フィールドは浜辺にあったヤシの木に蔓でくくりつけられていた。

フィールド「殺す？ 当たり前だろ。 “大怪盗ジュプトル”の息子よ」

キモリ「……………」

キモリは黙って歩く。森の方へと。

フィールド「チツ……………！ これじゃ身動きが取れないな」

#### 【財閥連合 グラスト支部】

星暦 2010/08/03 11:34:09

財閥連合グラスト支部/所員数:1

地下23階 - BG2エリア/検索室

生命反応:有り「1」/クロア・コマンド「ユーザID:

A00001」

「チツ…………… これじゃ身動きが取れないな

チツ コレジャミウゴキガトレナイナ」

グラスト支部。ここの誰かが人工衛星から撮影し、声を録音した。

????」……………」

「ネスト・フィールド適合率・音声：87% / 映像：92%」

????「フッフッフ……」

不気味に笑う人物。財閥連合のコマンドであった。

コマンド「“幽霊島”からは逃がしはせんぞ……」

### 【幽霊島 森】

ピカチュウ「……………」

ヤミラミ「キキキッ！ この島に入った者よ、呪い殺してくれん」

ゴース「覚悟しろ」

ドルク「それはコッチのセリフだ……」

サマヨール「ん？ なんかコイツむっちゃ強そうだが……」

カゲボウズ「黒いオーラ、だね。腹黒なのかもね……」

ピカチュウ「その通り、俺は腹黒。真っ黒なのだ！ だから俺と戦うのは止めとけ」

カゲボウズ「アンタじゃないの。横のナエトルだよ……」

ピカチュウ「あ、そう（なんか章が進むたびに俺の地位が下がって



いるような)」

ゴース「全員でコイツらを呪え〜 呪い殺してしまえ〜」

サマヨール「ふふふ、お前の人生も終わりだ」

ドルク「俺の人生が終わり？ 終わるのはお前らだ！ “アルテマ”！」

サマヨール「ギアアアア！」

ゴース「グエエツ！」

ヤミラミ「グハアツ！」

コスーム大陸南に位置する幽霊島。  
ここで本日2度目の悲鳴が上がった。

第15話 到着！ 幽霊島（後書き）

【184】

・ 国際政府がコスーム大陸全土を統一する

第16話 再び登場のコマンド（前書き）

【1943】

・国際企業“財閥連合”が誕生。本部は氷霸王に設立  
また総督の地位にはパネルが就任

## 第16話 再び登場のコマンド

【幽霊島 森の洋館 前】

ピカチュウ「あ、家だ」

キモリ「ここは古い洋館だな」

いつの間にかピカチュウとドルクの後ろにいたキモリ。

ドルク「フィールドはどうした？」

キモリ「……さアな」

ドルク「……………」

ピカチュウ「おじゃましてーす」

そういつてピカチュウは洋館に入る。

キモリ&ドルク「オイ！」

【洋館 1F】

ピカチュウ「洋館に用かん？」

ドルク（黙れ）

キモリ「……………」

キモリは辺りを見回す。暗く明かりが少ない。そして誰かの絵が飾られている。暗くて顔は分からないが。彼らは気づかなかつたが天井には監視カメラが取り付けられていた。

1階 - A1エリア / 広間

生命反応：有り「3」 / 全生命体ユーザータナシ

『非常事態LEVEL3』

ピカチュウ「なア、あの女（フィールド）とはどんな関係なんだ？」

キモリ&ドルク「ああ、フィールドとは…………ん？」

キモリ「……………」

ドルク「……………」

ピカチュウ「ああ、俺はドルクに聞いたんだよ。キモリ、お前じゃねーよ。マジキモいわぁ。キモリなだけに」

キモリ「ああ、それは悪かった…………ってオイ！ デカネズミ！！」

????「フフフフ…………俺に聞いてみようかフィールドとの関係」

ドルク「お前は…………！」

ピカチュウ「誰だ？ あのおっさん」

キモリ「確かアイツは……」

ピカチュウ「あ、思い出した。この前TVで見たぞ！」

数日前

ピカチュウの言うおっさん「我が社の新発売したダイエット食品は人間・ポケモンに有効です！」

おっさんの横にいた女の人「既に発売されていますので近くの薬局でお買い求めください」

ピカチュウの言うおっさん「“財閥連合”社の総督であるこの私“\*\*\*”が責任持ってお薦めします」

現在

ピカチュウ「アイツは\*\*\*だ！」

キモリ「答えに成っていないが十分だ。財閥連合総督はただ一人、奴はコマ㇏」

ドルク「コマンドだな」

キモリ「……………」

ピカチュウ「プッ！先に言われてるし」

コマンド「フハハハ！その通り！私はコマンドだ……！」

ピカチュウ「なッ……!!」

コマンド「フッフフ、驚いたかね？」

ピカチュウ「総督直々に押し売り!？」

コマンド「違うわ!!」

ピカチュウ「商品売れないんですか!？」

コマンド「黙れ!!」

ピカチュウ「もしかして会社破綻!？」

コマンド「黙れー!!」

ピカチュウ「タウリン買って上げますよ!」

コマンド「お買い上げ有難う御座います」 ￥3500になりま  
す」

ドルク「いつまでやってんだ? (怒)」

コマンド「はッ! そうだった! 本来の用を忘れる所だった」

ドルク「忘れる」

コマンド「イエッサー……違うわ! 殺れ、“ハンターA型”」

突然、絵が壊れ、大男が飛び出して来た。

ハンター「グオオオオオオオオ!!」

コマンド「フハハハ! この“ハンターA型”は8年前にあのフィールドを半殺しにした実力を持っているのだ!」

8年前

あれは“まあまあ寒い日”の夜だった。

【財閥連合本部パスリユール】

フィールド（当時16）「コマンド! 今日お前を倒す!!」

コマンド（当時26）「今日はお前の命日となる。行け! “ハンターA型”!!」

ハンター「グオオオオオオ!」

ボコッ!（殴られた音）

フィールド「ガハ……ッ!」

大暗黒帝（当時?歳）「ククク、よくやった、コマンド」

第8話に登場した男と同じ

コマンド「有難う御座います」

フィールド「貴様ツ! 絶対許さないぞ!!」



その後、フィールドはヘリを奪い、逃げた。ヘリドロボーだな。窃盗罪だ。

現在

コマンド「フハハハ！ コイツはそれぐらい凄い“生物兵器”なのだ！！」

ピカチュウ「今の回想編に一言」

コマンド「ん？」

ピカチュウ「大暗黒帝とかマジでウケねエ？ ネーミングセンス0丸出しじゃんw」

第16話 再び登場のコマンド（後書き）

因みにコマンドの回想は80%が？です

ピカチュウ「オイ！」

【1968】

・財閥連合は世界最大の民間企業に成長

第17話 VSハンターA型（前書き）

【1972】

- ・ 国際政府総帥にトメルラーが就任
- ・ テトラルシティに財閥連合・テトラル支部を設立
- ・ 財閥連合が本部を移設する。新本部はパスリユー

## 第17話 VSハンターA型

コマンド「大暗黒帝陛下のネーミングセンスの無さは置いとけ。それよりも今日、お前達は死ぬのだ」

ハンター「グオオオオ！」

低く、太い声で叫ぶハンター。

彼は持っていたロケットランチャーの砲口をピカチュウ達に向ける。

ドルク「まずい！ 伏せろ！！」

ドルクの言うとおりに伏せるピカチュウとキモリ。

ハンターの放ったロケット弾はドルクの頭上を通過し、外に飛び出す。

そして、外に有った噴水を木っ端微塵に砕いた。

ピカチュウ「ハア！！？」

キモリ「なんとという威力だ……」

コマンド「ハハハ！ ハンターA型よ！ ソイツらを殺しておけ」

そう言い、コマンドはエレベータで下りて行った。

ハンター「グオオオオ！」

ピカチュウ「あー、コレはアレだ。倒さないと先に進めないってパ

ターンだ」

キモリ「…………… エナジーボール”！」

ドルク「喰らえ！ “ エナジーバスター””！！」

ピカチュウ（あー、コレはアレだ）

エナジーバスターとエナジーボールはハンターの胸に当たる。

ピカチュウ（俺は完全に脇役と化すってパターンだ）

ハンター「グオオオオ！！」

ドルク「 “ アルテマ””！！」

キモリ「 “ リーフブレード””！！」

攻撃を続けるドルクとキモリ。

だが、ハンターは何度でも立ち上がる。

ハンター「グルルウウ…………… ポケット団ッ！！」

かなり低い声で声を発するハンター。

再びロケットランチャーの砲口を向ける。

今度はピカチュウの方に。

ピカチュウ「ターゲット俺！？」

ハンター「グオオオオ！！」

ロケット弾が放たれようとしたその瞬間、ハンターのロケットランチャーは二本の蔓に奪い取られる。

そして、ロケットランチャーはキモリの手に渡る。

キモリ「これでお前は」

ハンター「グオオオオオオオオオオ!!」

ロケットランチャーを奪われた事に怒っているのか、ハンター大声で叫ぶ。

更に、壁を殴り破壊する。

ピカチュウ「何イ！ 殴っただけで壁崩壊!？」

ハンターは大き目の石を拾いそれをキモリに投げつける。

キモリ「……………!!」

あまりのスピードに動けないキモリ。

だが、突如石の塊は木っ端微塵になる。

ドルク「大丈夫か？ キモリ」

キモリ「ああ大丈夫だ。助かった」

ハンター「グオオオオオ!!」

キモリ「これで終わりだ!」

キモリは奪い取ったロケットランチャーからロケット弾を放つ。  
ロケット弾は真つ直ぐ飛び、ハンターの胸に直撃。  
空気を振動させる凄まじい爆音と共にハンターは燃え上がり、壁  
を突き破り、隣の部屋に吹き飛んだ。

星曆 2010 / 08 / 03 16 : 14 : 52

財閥連合グラスト支部 / 所員数 : 1

地下28階 - DF2エリア / 生物極秘実験室

生命反応 : 有り「1」 / クロア・コマンド「ユーザID :  
A00001」

筒状の大型水槽が並ぶ生物極秘実験室。

中には得体の知れない謎の生物が入っている物もあれば、普通の  
人間が入った物もある。

また、ハンターA型のような大男が入った水槽もあった。

コマンドは普通の人が入った水槽を見ていた。

コマンド「N - 117は順調だな」

コマンドは不気味な笑みを浮かべる。

机の上には何枚かの紙が置いてあった。

そこにはこう書かれていた。

## 第17話 VSハンターA型（後書き）

今回は机の上にあった紙に書かれていた内容のみになります

【1975】

- ・財閥連合・ラスガン支部を設立
- ・財閥連合・サフェルト支部を設立
- ・財閥連合・光没支部を設立



第18話 主任研究員の日記（前書き）

【1976】

・財閥連合が対テロ組織対策の為、警備軍を編成

## 第18話 主任研究員の日記

主任研究員の日記 (一部のみをコピー)

2009/3/4

例のサイエンネット計画は順調だ。

N-038には期待が出来そうだ。

2009/3/24

結局、N-038は失敗に終わった。

肉体の変異した為硬くなり、全身が黒くなった。

そして、知能を失った。

2009/4/17

今日、コマンド総督から驚くべき事を聞かされた。

なんと、ラドー支部が襲撃されたのだ。

犯人は今は無きテトラルシティから脱出したネスト・フィールド。

更にチルス・ヒューズ。あとナエトルが一匹、らしい。

警備兵やバトルドロイドは主にナエトルが吹っ飛ばしたって話だ。

バカバカしい。ナエトルごときポケモンに重装備の兵士とバトルドロイドがやられるワケ無いだろ。

この情報はなんかの間違いだ。

2009/4/19

一体なんだってんだ！

先日のラドー支部襲撃によってサイエンネットの「X」と「Z」が奪われたって話だ！！

しかもそれだけに留まらず「ハンターB型」もやられたそうだ！

イライラするなあ！ 腹いせに失敗作のサイエンネット共を射殺

してやるのかな

2009/4/20

大変なことになった。

腹いせにサイエンネット共を殺そうとしたら逆に殺されかけた。

まさか、あんなに素早い動きをするとは。

俺を助ける為に3人の兵士が死亡した。

更に7人が重症。後の災いを避ける為に全員殺した。

問題はここからだ。

この事が本部に知れたら……

2009/4/21

この件を知った可能性がある者は全員殺した。

だが、本部ははずれ突然居なくなつた者達の行方を捜しだす。

バレたら俺の命は……

2009/5/17

今日はいい天気。

どうやら本部にはバレなかつたらしい。

よかつたよかつた。

2009/5/19

今日はN・039の観察した。

たぶん失敗。でもがんばろー！

2009/6/3

俺は日記を読み返し、背筋が凍る。

本部にばれて一番怖いのは俺が“実験台”にされる事だ。

サイエンネットの攻撃は威力が高い。

そして、毒を体内に入れる。

その毒は知能低下を引き起こす。  
自分は無意識の内に幼稚な事をいつているのではないのだろうか？  
今日の日記は大丈夫だ。何時間も見直したから。

2009/7/26

変な事発見。

研究の指揮を執っているのは本部から来た研究員のリーネ。  
俺の指揮、研究員みんな無視。  
どうなっている？

2009/8/2

今日は俺の指揮を無視するので指揮棒を使って指揮した。  
みんな大爆笑。俺、芸人になろうかな。

2009/8/3

サイエンネット計画主任研究員であるハズの俺の名前が無い。  
っというより、リーネの名前がある  
ハハハ。間違えたな。

2009/8/28

めんどくさい。

俺の言うことみんな無視。  
明日から部屋に閉じこもる。  
ボイコットだ。

2009/8/31

腹は減る。お腹が減っては戦は出来ぬ。  
だから求職の時間、食堂行く。

2009/9/6

日記書くのめんどい。  
もう辞めようかな。

2009/9/11  
試験管の中にあつた緑の液体飲んだ。  
体あつたかい。

2009/9/30  
昔の日記読んだ。  
意味分らない。なんだよサイエンネットって。

2009/10/7  
俺誰だっけ？  
おわり

2009/10/13  
朝、リーなんとかに起こされた。  
そいつによると俺、実験に使われるって話。  
理由は分からないけど怖かったからソイツ、後ろむいた時にハン  
ドガンで撃った。

彼女はどっかいった。

2009/10/14  
俺はリーなんとかを倒したのだ。  
何で俺ここにいるんだ？  
分かな

第18話 主任研究員の日記（後書き）

【1979】

・財閥連合が戦闘用人型ロボット・バトルドロイドの開発に成功

第19話 T387BT (前書き)

【1982】

・財閥連合・グラスト支部設立

第19話 T387BT

【洋館 1F】

倒れた巨体。体のアチコチから煙が出ている。  
その体は突如、上半身を起こし、動き始めた。

【財閥連合 グラスト支部】

星曆2010/08/03 11:34:09

財閥連合グラスト支部/所員数:1

地下28階 - DF2エリア/生物極秘実験室

生命反応:有り「4」/一部生命体ユーザータナシ・ク

ロア・コマンド「ユーザーID:A00001」

エレベーターの扉は開き、中からドルク・ピカチユウ・キモリが  
出てくる。

キモリ「何だ? この部屋は……?」

ドルク「水槽に入っているのは見た事もない生物ばかりだな」

青いゴリラのような生物。異様にゴツゴツした真つ黒の生物。

長い舌を垂らした生物。鋭い爪を持った生物。

その他にも色々な生物が入っている。

コマンド「もう来たか……」



ピカチュウ「ええ、押し売りに来ました」

コマンド「フッフ、そんな冗談も言えなくしてやろう」

そう言うとコマンドは一本の試験管を取り出す。中の液体はキレイな紫色をしている。

それを手から離す。試験管は回転しながら空气中を進み、遂には床に落ち、コナゴナに砕け、液体が飛び散った。

コマンドは素早く奥の扉から出てカギを閉めてしまう。

ドルク「……なんだ？ コレは？」

T387BT薬品 確認

『非常事態LEVEL5』

ピカチュウ「たぶん、メロンジュースだな」

【グラスト支部 地下へリポート】

コマンド「……よし、お前は回収したN-117をパスリユールに運び込め」

バトルロイド「イエッサー！」

そう言い、バトルロイド達は大型飛空艇に乗り込み出発させる。内部にN-117を乗せて……

コマンド「さて、もうココには用は無い。消えて頂こう」

コマンドは内ポケットからリモコンを取り出す。  
そこには「証拠隠滅機・グラスト支部」と書かれていた。  
そのリモコンの赤いボタンを押す。するとカウントダウンが始まる。

「19:52」（残り19分52秒で爆破）

コマンド「さて、アイツらは死んだかな」

コマンドはノートパソコンを操作し、監視カメラからのデータを  
確認する。

地下28階・DF2エリア/生物極秘実験室

生命反応：なし／

コマンド「猛毒の薬によって死んだか。ははは、あっけない」

ピカチュウ「あ、コマンド」

コマンド「おう、無事でなによりだ……ってオイ!!」

コマンドは通ってきた道を見る。そこにはドルクとキモリもいた。

コマンド「何故生きてる!!? アレは猛毒のはずなのに……!!」

そう言いながらパソコンでT387BT薬品を検索する。すると  
こんな事が書いてあった。

T387BT

猛毒の薬で液体が体内に入れば数秒で死亡する。

また、液体は空気中の酸素と混ざると化学変化を起こし、毒素となる。

この毒素を吸引すると1分で死亡する。

この毒素は人間のみ有効

コマンド「なるホド。ポケモンには無効なのか……は？　？だろ？」

ドルク「残念だが俺たちはピンピンしているぜ」

キモリ「覚悟した方がいいな」

第19話 T387BT(後書き)

【1984】

・財閥連合・砂風関支部を設立

第20話 生物兵器コマンド(前書き)

【1991】

・財閥連合が新型のバトルドロイドであるバトルドロイドEXを開  
発

## 第20話 生物兵器コマンド

コマンド「クッ……」

コマンドは震える手で内ポケットにある物を握る。  
この時、脳裏にある光景が蘇っていた。

\*

【財閥連合本部パスリユール】

大暗黒帝「コマンドよ、氷覇支部と引き換えにフィルド殺害計画を  
実行したようだな」

コマンド「……………」

大暗黒帝「だが、結果はどうだった？ ヨの目にはまだ生きている  
ように見えるが……………」

コマンド「申し訳有りません。まさかへり墜落でも生きているとは」

大暗黒帝「しかもグラスト支部を有する島だ。やつらが落ちたのは」

コマンド「すぐにN-117と全兵士・研究員を回収して来ます」

大暗黒帝「いや、それだけでなくヤツらを殺せ」

コマンド「しかし、自分の力ではなんとも……………」

大暗黒帝「ならコレを使うがいい」

そう言つて大暗黒帝は一本の試験管を渡した。  
藍色の液体が入つた試験管である。

\*

コマンド「フッフッフ。こうなつたら使うしかあるまい」

コマンドは藍色の液体が入つた試験管を取り出し、栓を取り液体を飲む。

ドルク「何をした？」

ピカチュウ「さア？ 喉渴いたんじゃね？」

コマンド「ウオオ！！」

ドルク「……………？」

突然、叫び始めたコマンド。

その体は突如巨大化し、しかも指は長く鋭い爪へと変異する。  
それだけでなく、肌の色は濃い緑へと変化し、目は赤色になる。

コマンド「お前“だけ”は殺してやる」

赤く鋭い目は3人の誰かを睨みつける。

キモリ「怪物と化したか……………」

コマンド「ウオオオ!!」

コマンドは雄叫びを上げながら爪を触手のように伸ばし貫こうとする。

先端は尖っている。刺されば即死であろう。

ドルク「アルテマ」!

キモリ「エナジーボール」!

二人の激しい攻撃はコマンドの爪を砕く。  
彼の爪の破片が地面に散らばる。

コマンド「……長い間、俺の人生を壊すのはフィールドだと思っていた」

ピカチュウ「でんきあたく」!

ピカチュウの電撃はコマンドの肩を貫く。

コマンド「だが、違った」

穴の開いた肩からは煙が出ている。

コマンド「俺を壊すのはこの世界の生物全てだ! ドルク、ヒューズそしてポケット団」

キモリ「くたばれ! “メガドレイン”!!」

コマンド「後から後から現れるのだ! 邪魔者が! コミの」



「!!」

コマンドの碎けた爪は再び伸び、鋭い部分でキモリを斬りつける。キモリは頭から血を流し、その場でよろける。

コマンド「俺は神となる者は大暗黒帝陛下だけだと思っていた」

ピカチュウ「十万ボルト」!

コマンド「だがそれも違う! 神は俺がなる! 俺が大暗黒帝となるのだ!!」

コマンドは素早く動き、ピカチュウに接近する。そして、かなり強い力で蹴り飛ばす。

コマンド「フハハハ! 大暗黒帝のヤツめえ、なんて物を渡したんだ!!」

ドルク「エナジーバ……」

コマンドはエナジーバスターが放たれる直前にドルクを殴り地面に叩きつける。

コマンド「無限の力が湧いてくるわ! フハハハハ! 俺は無限生物兵器コマンドだ!!」

コマンドはドルクを掴み、長い爪で刺し殺そうとする。

コマンド「まずは一人目だ!」

ドルク「クッ！」

????「無限生物兵器？」

「コマンド」……………?」

「コマンドが顔を上げた瞬間、コマンドの首に注射器が刺さり、内部の薬品が投与される。」

その注射器には「T387BT」と書かれていた。

## 第20話 生物兵器コマンド（後書き）

【1995】

- ・財閥連合がバトルドロイドSPを開発
  - ・財閥連合・サレリール支部を設立
  - ・財閥連合・パスリユー本部を大型化
  - ・財閥連合総督パネル病死
- 息子のコマンドが総督の地位に就く

第21話 グラスト支部 消滅(前書き)

【1998】

- ・財閥連合がバトルドロイドXXを開発
- ・トロイア主導の「サイエンネット」計画指導

T387BT

猛毒の薬で液体が体内に入れば数秒で死亡する。

また、液体は空気中の酸素と混ざると化学変化を起こし、毒素となる。

この毒素を吸引すると1分で死亡する。

この毒素は人間のみに有効

## 第21話 グラスト支部 消滅

コマンド「フツ！ グウウツツ！！」

コマンドは刺さった注射器を抜き、地面に投げ捨てる。  
注射器は音を立てて落ち、粉々になる。中には一滴もない。

コマンド「ウアツ！ だ、誰だ！」

コマンドは注射器の飛んで来た方向に見る。  
そこにいたのは全身に傷を負ったフィールドだった。  
彼女の後ろには倒れている生物兵器ハンターの姿もある。  
恐らく戦いながらココまで来たのだろう。

フィールド「ドルク！ 大丈夫か！！」

ドルク「フィールド！」

フィールドはドルクの下に駆け寄り、優しく抱きかかえる。

コマンド「フ、フィールドオオオ！！」

フィールド「“システム・破壊光線”！」

強烈な光線がコマンドの胸に直撃し、凄まじい音を立てる。

コマンド「オノレ……！！」

ドルクはフィールドの腕から飛び出し、空中へと舞い上がる。

ドルク「これで終わりだ！ コマンド！ “アルテマア”！！」

爆風と大きな音。コマンドの巨体は空中に飛び、また地面に落ちる。

コマンド「……バカな、無限だった……のに。ガフツ……！！」

フィルド「お前が無限生物兵器？ たいした生物兵器だな」

「ビーツ！ ビーツ！ ビーツ！」

時限爆弾作動まで5分です。至急総員退避せよ」

ドルク「時限爆弾！？」

フィルド「奴は氷覇支部でやった事を繰り返す気だ」

ドルク「それってヤバイじゃん！」

フィルド「大丈夫だ。さっき通信システムを使って救援を頼んだからな。……ほら来た」

へりの音と共にドルクは上を見上げる。

軍用のへりとは違うへりだ。

フィルド「ヒューズ、遅かったな」

ヒューズ「スイマセンね、何しろゲームが終わらなくてな。ホラ、梯子下ろしたぜ」

フィールドはドルクを抱きかかえると梯子を上ろうとする。

ドルク「あ、ちょっと待ってくれ」

フィールド「どうした？」

ドルク「あいつらも一緒に乗せてってくれよ」

ドルクは倒れたピカチュウとキモリを指す。

僅かな時間ではあったが共に戦った者達。

ドルクは彼らを助けたかった。

フィールド「ダメだ。ヤツらはとんでもない犯罪者だ」

ドルク「……………！」

フィールド「行くぞ。ここは時期に消滅する」

フィールドはドルクを引っ張るようにしてへりの中に入る。

ヒューズ「おお、フィールドにドルク。無事でよかったぜ」

ヒューズはへりを飛ばす。

僅かな時間でへりは空の果てへと進み、やがて見えなくなった。

ピカチュウ「……………やっと行ったか」

気絶していたハズのピカチュウが起き上がる。

それと同時に倒れていたキモリも起き上がった。

キモリ「作戦名は“死んだフリ”かよ」

ピカチュウ「だってフィールドとは極力戦いたくないじゃん」

キモリ「……まア、確かにそうだけどな」

そう言いながらキモリはへりを操作し、動かし始める。

ピカチュウ「アレ？ キモリ、それは何だ？」

キモリの持つ謎のメモリーカード。

ピカチュウはそれについて聞く。

キモリ「コマンドの近くに落ちていたヤツだ。帰ったら詳しく教えてやる」

ピカチュウとキモリを乗せたへりはポケット団の本拠地を目指して飛ぶ。

数分後。誰もいなくなったグラスト支部は時限爆弾が作動し、爆発する。

凄まじい爆発。一瞬の内にグラスト支部は消滅したのだった。



第21話 グラスト支部 消滅（後書き）

【2001】

- ・財閥連合のハミックが親衛ドロイドを開発する

第22話 悪夢（前書き）

【2002】

5 / 20

・ 国際政府はフィールドとクオットを氷覇支部に派遣  
暗殺されそうになるも脱出する

『救世主を迎える門』

バトルシティ

『第1話〜第2話』

## 第22話 悪夢

【財閥連合 パスリユー本部】

コスーム大陸北西。極寒の地の最果て。白銀の山々の地下。猛吹雪の地下。

そこに存在する超巨大地下要塞。そこそが世界最大の民間企業・財閥連合の本部であった。

兵力三十万人。武器・弾薬は余る程。更にハイテクな防衛トラップ。最新鋭の研究所。

その最深部に財閥連合のリーダー・大暗黒帝が君臨していた。

大暗黒帝「サイエンネット計画はヨの直轄で行う

主任研究員、及び計画長官は任命しない

今後はヨの命令通り計画を進める」

幹部A「陛下、主任研究員と計画長官は任命するべきで」

大暗黒帝は目にも止まらぬ速さでマグナムガンを取り出す。

そして、間髪入れずに反論した幹部の頭に向け、発砲する。

乾いた音と共に赤い血が飛び、その幹部は倒れる。銀色の床は赤い水滴が散る。

大暗黒帝「他に質問は？」

幹部B「陛下、死亡したコマンド総督の後任はどくなされますか？」

大暗黒帝「新総督はパルト・ティワードとする」

幹部C「陛下、ポケット団及びフィールドはどうかですか？」

大暗黒帝「ポケット団にはメタルメカを向かわせる」

メタルメカ「イエッサー！」

大暗黒帝「フィールドにはナード、プロパネ、ケイレイトを向ける」

ナード「はい、陛下」

プロパネ「お任せを」

ケイレイト「フッフ、楽しみだわ……」

大暗黒帝「N-117は本部に保管せよ。いいな？」

全員「はッ！」

\*

【ポケット団 本拠地】

俺はピカチユウ。間違いなく世界初最強だ。

……ここはドコだ？ こんな暗く廃墟と化した街なんか知らん。壊れた建物、壊れた車。死んだポケモンや人間。戦争でもしちまつたか？

バトルドロイド「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

ヤバッ！ あの機械音は財閥連合のバトルドロイド。

みんな逃げないとヤバくね？ 勝てるのか？

バトルドroid「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

機械音は大きくなり、姿が見えし始めた。

多い。何十体という。その全てが連射式の銃、アサルトライフルを持っている。

ヤバイ。早く逃げようぜ？ 全員何で突っ立ってんだ？

バトルドroid「攻撃セヨ！」

バトルドroidのアサルトライフルから放たれた弾。

それが真っ直ぐ進み、俺の仲間のコイルに当たった！！  
無表情で血を流し地面に落ちる。何でよけないんだ！？

バトルドroid「破壊セヨ！」

まだ撃ってくるのか！？ ああ！ 今度はポツチャマに……！！  
アイツも声もなく無表情で仰向けに倒れやがる。

バトルドroid「グガッ！」

突然、バトルドroidの軍勢は倒れる。

今度は何があったんだ？

ヤツらの後ろからは少し大きいバトルドroidが現れる。

バトルドroidEX「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

腕に取り付けられたアサルトライフルから弾が連射される。  
連射速度はさっきよりもずっと速く、しかも正確だ。

だから、俺の仲間が、エルレイドが、ナエトルが！！  
体に幾つもの穴を開け倒れていく。

だが、バトルロイドEXの体にも穴が開き、後ろから別の連中  
が来た。

バトルロイドSP「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

両腕に装備されているのはガトリングガン。

これも連射式の銃。だが、威力はアサルトライフルを超える。  
キモリが撃たれる。みんなと同じように地面に横たわる。

今度はバトルロイドSPは射撃を止め、倒れていく。  
次に現れたのはグラスト支部にいたハンター！。

おれの後ろからはフィールドやドルク達。

フィールド「……………」

無言でハンターを斬りつけるフィールド。

だが、一瞬にしてハンターのロケットランチャーの餌食となる。  
フィールドは一瞬で消えてしまった。

ハンターは倒れる。理由は分からない。

ピカチュウ「どうなっているんだ……………」

正面の奥の方からサングラスをかけた男が両手にマグナムガンを持  
って歩いて来る。

ドルクやアルカリ将軍、ユーロ中將はソイツに攻撃する。エナジ  
ーバスターやハンドガンで。

だが、全く効いていないのか彼の体は攻撃を受けた部分が黒く歪  
むだけですぐに戻る。

「?????」

サングラスの男はマグナム弾を放ち、3人を簡単に殺してしまっ  
た。

ピカチュウ「誰だよ！ お前エー！」

「?????」サイエンネット計画は完了した。ヨは無敵となった」

は？ 何言ってるんだ？ なんだよ、サイエンネットって！！

\*

ピカチュウは全身から汗を流しながら起きる。  
どうやらさっきのは夢だったようだ。

ピカチュウ「……………」

窓のカーテンをめくると、朝日が昇るポートシティ。  
その美しい姿を見る事が出来る。ピカチュウはそれを見る。

ピカチュウ（まア、あの夢は現実にはならないよな）

壊れた車。死んだ人々やポケモン。壊れた大量のバトルロイド。  
あの光景が本当になる事はまずないだろう。

ピカチュウは自分にそう言い聞かせる。

ピカチュウ（……………国際政府と財閥連合が世界大戦でも起こさない限  
りありえないだろ）

ピカチュウは自室から出て行った。



第22話 悪夢（後書き）

【2002】

5 / 21

- ・ テトラルシティを占領
- ・ 国際政府、国民に秘密で討伐軍を派遣

『救世主を迎える門』

バトルシティ

『第3話』第4話

第23話 ポケット団本拠地にて（前書き）

【2002】

5 / 22

- ・ フィルド、クオット、ツタージャがホウメシティに到着
- ・ フィルド、ツタージャがテトラルシティに戻る
- ・ 財閥連合の七星士、出撃する

『救世主を迎える門

バトルシティ

』第4話〜第7話

前回長かったので今回は短いです

## 第23話 ポケット団本拠地にて

ピカチュウ「諸君！ 私はグラスト支部より奇跡の生還を遂げた！」

コイル「で、何を持って帰ったんです？」

ピカチュウ「うむ。素晴らしいと思ったたらあんま凄くない質問だな」

ナエトル「で、何を手に入れたの？」

ピカチュウ「うるさい、観葉植物」

ナエトル「!?!?!?!」

ピカチュウ「あ、そう言えばお前に似た奴がいたぜ。お前ほど強くないけど」

ポツチャマ「これが、“秘伝技マシンX”ねえ」

キモリ「たぶんだけどな」

ピカチュウ「テメエ！ それは俺のモンだろうがァァ!」

エルレイド「……手紙が来たよ」

ピカチュウ「展開速いわ！ 誰に来たんだよ!」

エルレイド「僕に、だ」

ピカチュウ「じゃ言うな!!」

『スピード・エルレイド様へ』

明日、スピード・サーナイト卿と共にパーティを行う事になりました。

財閥連合“創始者メンバー”の末裔であるハート・ココロモリ卿。同じくクローバー・フーディン卿も参加されますので是非参加して下さい。

ダイヤ・メタグロス

追伸

クロア・コマンド卿は急ぎよ来ることが出来なくなりました。

ピカチュウ「どんな内容？ 見せてー」

エルレイド「人の手紙を読まないでよ」

エルレイドはそう言って、手紙を折りたたむ。

エルレイド「僕は明日、用事があるから来れない」

ピカチュウ「ほとんど来てないじゃん」

エルレイド「仕事があるんだよ。創始者メンバーの末裔として」

ピカチュウ「あっそ。ポケット団創始者メンバーなのに」

キモリ「なア、ピカチュウ。ちょっといいか？」

ピカチュウ「ん？ 君、このポケット団創始者メンバーの一人を呼びつけるのかい？」

キモリ「アホかテメエ。お前が創始者メンバーの一人なら俺もそうだろうが」

ピカチュウ「あーはいはい。すみませんねえ。キモリ大先生

で、ご用件はなんでしょうかねえ」

キモリ「今、調べて得た情報だが、明日、財閥連合主催のパーティーがあるらしい」

ピカチュウ「マジで？ 食い放題じゃん」

キモリ「そうじゃないだろ。あの財閥連合だ。何かあるかも知れん」

ピカチュウ「で、どうするんだ？」

キモリ「行く」

ピカチュウ「だよな。食い放題バイキングだろうし」

キモリ「いや、違うわー!!」

ピカチュウは意気揚々と自室に向かう。

一方、キモリはパソコンの画面を見ていた。

『クロア・コマンド 謎の失踪！？』

『新総督はパルト・ティワード』』

『財閥連合、豪華客船でパーティーを開催決定』』

『ネスト・フィールドPARUM副長官、無事帰還』』

第23話 ポケット団本拠地にて（後書き）

【2002】

5 / 23

- ・テトラルシティにて市民が暴動を起こす
- テトラルシティの戦い勃発
- ・テトラル支部・ラスガン支部にてトロイアとハミックが反逆を  
起こす

研究員や警備兵を皆殺しに

『救世主を迎える門

バトルシティ

』 第8話

『守りたいモノ

ラスト・テトラル

』 プロローグ

## 第24話 エスパ号にて（前書き）

【2002】

5 / 24

- ・ 新型生物兵器「ハンターA型」が投入される
- ・ 「ハンターA型」が市民軍の幹部らを全員抹殺する
- ・ レストル、行動を開始する
- ・ 財閥連合の特殊部隊は地下のテトラル支部に潜入
  - 毒ガスによりほとんどが死亡する
- ・ 大暗黒帝、行動を開始する
- ・ ツタージャ・フィルドがテトラルシティに潜入
- ・ レストルと大暗黒帝が出会う
  - 大暗黒帝はパトフォーと名乗る
- ・ フィルド、ヒューズと出会う
- ・ 七星土壊滅
- ・ レストル、カツミレ、フウロ、パトフォーはテトラル支部に潜入
- ・ トロイアVSパトフォー
  - パトフォーは追い詰めるもレストルらによって助け出される
- ・ トロイア死亡
- ・ 「ハンターA型」はフィルドらによって倒される
- ・ リニューアル行動を開始する
- ・ テトラルシティ消滅
- ・ テイル・ツタージャ・アリナス死亡
- ・ テトラルシティから数人が脱出に成功する（脱出成功者は下記を参考に）

姓・名前（脱出後向かった先）



ネスト・フィールド（レインシティ）  
チルス・ヒューズ（レインシティ）  
マグフェルト・パトフォー（ラスガン支部）  
ガド・シャガ（ラスガン支部）  
サレーン・レストル（ラスガン支部）  
マドー・カツミレ（ラスガン支部）  
コマート・アララギ（ラスガン支部）  
パペード・リユール（ラスガン支部）

『救世主を迎える門』 バトルシティ 第9話、第17話  
『守りたいモノ』 ラスト・テトラル 第1話、第15話

## 第24話 エスパ号にて

【豪華客船 エスパ号】

この船で開催されるパーティーに招待されたのは財閥連合創始者メンバーの末裔23人。

国際政府元老院議員32人。国際政府傘下の諸国の王族や要人120人。財閥連合高官20人。

これらのパーティー参加者を護衛するのは国際政府親衛兵600人。

指揮官は長官にネスト・フィールド。副長官にアルカリとユーロ。更に財閥連合兵500人。指揮官は長官にメタルメカ。副長官にナードとプロパネ。

パーティーの主催者はダイヤ・メタグロスとスピード・サーナイト。

この2人はいずれも財閥連合創始者メンバーの末裔達であった。

エルレイド「あ、サーナイトさん」

サーナイト「おや、エルレイド君じゃありませんか。お久しぶりですな」

エルレイド「こちらこそお久しぶりです」

サーナイト「……知っているとは思っけどクロア卿が来れなくなっ  
たそうで」

エルレイド「……………？ はい、知っていますが」

サーナイト「あなたは大変ですね」

エルレイド「え、ええ（何の話をしているんだろう？）」

サーナイト「では頑張ってください」

エルレイド「は、はい」

サーナイトは廊下を歩いて行ってしまった。

その直後、ちょうどダイヤ・メタグロスが現れた。

メタグロス「やア、エルレイド君」

エルレイド「あ、こんばんわ。ダイヤ卿」

メタグロス「実は単刀直入に申し上げるが、クロア卿が謎の失踪により来れなくなった」

エルレイド「ええ、知っていますよ」

メタグロス「で、君にクロア卿の代理をやってほしいのだ」

エルレイド「ええ！？ 僕がですか!？」

メタグロス「うむ」

エルレイド「な、なんで僕が……」

メタグロス「勿論、理由も話そう。主のクロア卿が参加出来なかった時はスペード一族の当主が主役をやるんだ。これは知っているだろう」

エルレイド「ええ、勿論」

メタグロス「今回、クロア卿が参加できない。だからスペード家の当主が主役をやるのだ」

エルレイド「ええ」

メタグロス「だが、スペード家の当主、サーナイト様は今年、パーティーの主催者。パーティー中もとても忙しくなる」

エルレイド「だから頼めないんですね。主役には」

メタグロス「そうなんだ。だから副当主のアナタに……」

エルレイド「分かりましたよ、ダイヤ卿。なんとか頑張ってみます」

メタグロス「すまん…… まさかクロア卿が失踪なさるとは」

#### 【エスパ号 エルレイド自室】

エルレイド「ハア……」

エルレイドは自室に戻って以来ため息ばかりしていた。

仕方なく引き受けた主役。だが、その役を今すぐにも破棄したかった。

エルレイドの心は緊張と不安で埋め尽くされ、今にも押しつぶされそうだった。

時間を見る。現在6:30。いつもより時間の流れが早いような気がした。

???「お邪魔しても宜しいでしょうか？」

ドアをノックする音と知らない人の声。

エルレイドは慌てて返事を返す。

エルレイド「あ、いいですよ」

???「お邪魔します」

エルレイド「はい、どうぞ」

フィールド「私は国際政府親衛軍の長官を務めさせて頂くネスト・フィールドと申します

エルレイド様が主役とお聞きしましたので挨拶に参りました」

そう言って入ってきたのはフィールド達だった。

第24話 エスパ号にて（後書き）

【2003】

- ・財閥連合はコスーム大陸内に17つの支部を設立する

第25話 OTTEKOPと書いて……？（前書き）

【2006】

- ・財閥連合が「ハンターB型」計画を始動
- ・国際政府総帥トメルラーが暗殺される  
グラン・ダイレイが総帥に

第25話 OTTEKOPと書いて……？

【エスパ号 とある部屋】

メタルメカ「陛下、ポケット団及びネスト・フィールドが乗船しました」

大暗黒帝（映像）「よし、計画通りだな。今後も計画通りに事を進めろ」

メタルメカ「はい、陛下。お任せを」

【エスパ号 エルレイド自室】

この部屋にはフィールド達がいた。

エルレイド「……では警備宜しくお願いします」

フィールド「私がいる限り安全は命に代えても守ります。ドルク」

ドルク「ん？ なんだ？」

フィールド「スピード卿をお守りしろ」

ドルク「ああ、分かった」

フィールド「では私はこれで……」



僅かに頭を下げ、礼をするフィールド。  
彼女はその後、すぐに部屋から出て行く。

【廊下】

フィールド（財閥連合創始者メンバーのスペード卿か。アイツも警戒しないとな）

フィールドは華やかな装飾が施された廊下を歩く。

赤・ピンク系の色が大半を占める廊下。そこを彼女は歩く。

【OTT EKOP 団 自室】

モンスターボールを販売するOTT EKOP社。

20世紀初頭には全世界で80%以上の供給を誇る世界最大の民間企業となっていた。

モンスターボール・スーパーボール・ハイパーボール。そして、マスターボール。

日に何百万というボールを生産し、販売するこの会社は今後財閥連合を抜き、世界経済を独占するとまで豪語している。

因みに上記の情報はある者がある女に伝えた内容で？かホントかは不明である。

そして、社名のOTT EKOP。これを逆にするとPOCKETT O。ポケット。ポケット団。

ピカチュウ「いや、俺の？は世界一だな」

キモリ「アホ！ 普通の人間だったら相手にせんわ！！」

ポツチャマ「とにかく、これで食べ放題バイキングは確保できたね」  
ナエトル「楽しみですね」

コイル「あ、“あの人”が戻ってきましたヨ！」

扉が開き、一人の女性が入ってくる。

謎の女性「みんなあゝ。もうすぐパーティーが始まるそうよ」

キモリ「なア、お前の名前は？」

ピカチュウ「人に名前を聞くときは自分から名乗る。それが礼儀だ  
る？」

キモリ「……ああ、そうだな（初対面の人間に？ついた奴が何を言  
いやがる！）」

ケイレ「私はケイレ。ケイレンと呼んで」

ピカチュウ「痙攣<sup>けいれん</sup>？」

ケイレ「……違うから」

### 【パーティー会場】

ケイレ「……欲しいのは？」

キモリ「いや、自分で取ってくるからいい」

ピカチュウ「俺、パイ100コにワイン50本」

キモリ「自分で行きやがれ！」

ケイレ「いや、私が持って来るよ。全部はムリだけど」

コイル「あ、私は電気が欲しいデス」

ポッチャマ「私、メロンジュース」

ナエトル「野菜を少し……」

ケイレ「オツケー！ 順番に持って来るよ」

\*

フィールド「へえ〜 これがおボンの実を使って作られたジュースか。なかなか美味だな」

国際政府精鋭兵「あ、あの、長官。警備は……」

フィールド「わかってるって。あ、このワインもなかなかだぞ」

ヒューズ「お前、さっきから飲んでばっかだな」

フィールド「息抜きだ。お前もどうだ？」

ヒューズ「ふむ、俺はワインを貰おうかな」

フィルド「……すまん。ちょっとトイレに行つて来る」

ヒューズ「オイオイ……」

【女性用トイレ】

フィルド「ふーッ！ すつきりした。では警備に…… ん？」

????「ちよつと失礼」

突然現れた女はフィルドにスプレーを吹き付ける。

フィルド「……………！？ 何を……………！」

フィルドの意識はまたたく間に薄れていった。

第25話 OTTEKOPと書いて……？（後書き）

【2007】

・サイエンネット破壊を企んだフィルドが単独で財閥連合・グラス  
ト支部を襲撃  
失敗に終わる

第26話 犯罪は 笑って流そう ヤハハハハ（前書き）

【2008】

- ・襲撃を恐れサイエネットのデータは3つに分けられる
  - 「X」「Y」「Z」
- ・「ハンターB型」が完成

## 第26話 犯罪は 笑って流そう ヤハハハハ

ヒューズ「遅いなあ」

アルカリ「ムムツ！ 事件の二オイがせんカネ？ ユーロ中将」

ユーロ「しますね！ プンポンと!!」

アルカリ「これはあのリトマス城襲撃事件以来だ！」

ユーロ「同感です！」

アルカリ「よし、早速ワナを準備するぞ！」

ユーロ「イエッサー！ ……落とし穴でいいですか？」

アルカリ「オイ！ 前回お前が登場した時に言った事を忘れたか！」

### 第2話 参照

ユーロ「……………！」

アルカリ「“犯罪は 笑って流そう ヤハハハハ”」

ユーロ「何の話ですかー!!?」

アルカリ「簡単にすればハイテク・トラップが必要だって事だ!!」

ユーロ「意味が分らないのですがー!!」

アルカリ「うるさいね。君の名前は今後ソライロユーロにするぞ」

ユーロ「ソライロコイルのパクリではー！？」

アルカリ「ソライロコイルっていいよねー。誰が考えたんだろうっねー」

ヒューズ「なあ、フィールド遅くないか？」

アルカリ「そうだな、ショートコントが100回できる時間が経ったのにな」

ユーロ「いや、100回もできないでしょうが！」

アルカリ「よし、女子トイレに潜入するぞ」

ユーロ「ただの変態ではー！！？」

アルカリ「いや、変態と言われようともやるぞ。ミーは」

ミーはアルカリ。女子トイレ潜入部隊・Z・T・S・Bの隊長だ。

兵士「閣下！扉のロックを解除しました」

アルカリ「内部状態は？」



兵士「汚物、未確認。電気供給は平常通り。人体なし。安全です」  
アルカリ「よし、トイレに潜入するぞ」

兵士「はッ！」

ユーロ「……ダメですよ、ヒューズさん。連絡が取れません」

アルカリ「アレ？ ミーの迫真の演技無視！？ ド派手なアクション映画だったのに」

ユーロ「アクション有りませんでしたか！？」

アルカリ「あー！もう、フィールド搜索はナシッ！！！」

ユーロ「ええッ！！？」

アルカリ「トイレで溺れちまえ！ あんな奴」

ユーロ「え、ええ！？」

\*

ケイレ「よし、みんなドンドン食べてね」

ピカチュウ「ああ、どうも〜 ウハハハハハ」

キモリ「いやア〜 ワリイな。何もかも持ってきて貰って」

ナエトル「あ、主役の挨拶が始まるようだ」

拍手と共に一匹のエルレイドが入ってくる。

エルレイド「どうも、本日は」

ピカチュウ「アレエー！！？ アイツ何でココに居るんだー！  
！？」

ピカチュウの大声で会場は静まりかえる。

エルレイド「……………！ ほ、ほん、本日は……………（何でココにいるんだ！？）」

\*

挨拶が終わり、エルレイドとドルクはピカチュウ達の所に向かっていた。

ドルク「あのピカチュウってポケット団のピカチュウだよな？ 何でココにいるんだ？」

エルレイド「さ、さア？」

ナエトル「ああ、もう。何で僕がピカチュウのジュースを持って来ないといけないんだ！」

ドルク「ん？」

ナエトル「ん？」

エルレイド「あッ！」

三人は何事も無かったかのように歩く。

ドルク（俺と同じナエトルだな）

ナエトル（僕と同じナエトルだ）

エルレイド（このナエトルってポケット団のナエトルだよ……）

三人はピカチュウ達のテーブルに着くまで無言だった。

第26話 犯罪は 笑って流そう ヤハハハハ（後書き）

【2009】

- ・ポケモン・ナエトルのドルクとフィールドが会う
- ・フィールドとヒューズとドルクが財閥連合・ラドー支部を襲撃  
サイエンネット「X」と「Z」を奪われる
- ・財閥連合が大暗黒帝主導の「ハンターC型」計画を始動する

## 第27話 探偵ポケット団（前書き）

【2010】

- ・怪盗組織「ポケット団」が誕生。リーダーはピカチュウ
- ・ポケット団、リトマス城を襲撃
  - 「秘伝技マシンZ」が盗まれる
- ・フィールド・ドルクが財閥連合・氷覇支部を襲撃
  - コマンドによって氷覇支部は消滅する
- ・ポケット団のキモリとピカチュウはフィールド・ドルク・コマンドを乗せたヘリに侵入
  - 隙をついてコマンド脱出。ヘリは「幽霊島（正式名称グラスト島）」に向かう
- ・ドルクらがグラスト支部にて「ハンターA型」を破壊する

（以下略）

## 第27話 探偵ポケット団

ピカチュウ「なあ、エルレイド。なんで挨拶なんかしてたんだ？」

エルレイド「だから、“創始者メンバー”の末裔として……」

ピカチュウ「またか！ なんの末裔なんだ!？」

エルレイド「ぎ……」

乗客「殺人だ……!?!?!」

ピカチュウ「よっしゃア！ 俺に任せろ!?!」

コイル「いや、アナタなんか任せられないですヨ……!?!」

\*

### 【とある部屋】

ここに大勢の人々が集まっていた。

乗客A「見るよ」

乗客B「犯人は捕まったのか？」

ピカチュウ「おお……」

ポツチャマ「確かに死んでる」

乗客C「これは酷いな」

国際政府精鋭兵「アルカリ将軍、殺された男性はこの船のコックだと判明しました」

アルカリ「死因は？」

国際政府精鋭兵「まだ、わかりません」

アルカリ「そうか」

ドルク「見た感じ外傷はないな」

ヒューズ「フム、これは毒殺だな」

ユーロ「根拠は？」

ヒューズ「じゃ、外傷なくして人を殺す方法、挙げてみるや」

ユーロ「……………！」

アルカリ「首のホネを折るとか」

ヒューズ「あ、そう」

ドルク「第一発見者はダレ何だ？」

国際政府精鋭兵「第一発見者はクローバー・フリーディンさんです」

フーデイン「俺が見つけた。俺が部屋に入ったら死んでいたのだ」

ドルク「オイオイ、何でお前はこの部屋に入ったんだ？」

フーデイン「ここは俺の部屋だ」

ドルク「なるホド」

アルカリ「まだ犯人はこの船にいるハズだ」

ユーロ「注意しろ！」

国際政府精鋭兵「はッ！」

\*

深夜2時

【第8客室エリア 廊下】

一人の人間が暗い廊下を歩く。腰には剣が装備されている。

この船には客室にトイレ・洗面所等が付いているため、真夜中に部屋からは出る必要はない。

ではこの人物は何の為に出没しているのだろうか？ 何をするつもりなのだろうか？

????「フッフ……」

その人間はとある客室の電子ロックシステムをハッキングし、キーロックを解除する。



キーロツクを解除し、その人物は中へと入って行った。

\*

朝8時

職員「殺人だー！ー！」

ピカチユウ「え？」

キモリ「何！？」

ポツチャマ「また！？」

【第8客室エリア とある部屋】

ベッドに横たわる男性の死体。

胸にナイフが突き刺さっていた。

ピカチユウ「ムムム…… これはナイフで心臓をやられましたな」

国際政府精鋭兵「この男性は国際政府精鋭兵の一人です」

ユーロ「うむ。どうしましょうか？ アルカリ將軍」

アルカリ「名探偵の方いませんかー！？」

ユーロ「いや、名探偵を呼ぶんかいー！」

ピカチュウ「私が名探偵です」

アルカリ「よし、頼んだ」

ユーロ「頼むなッ！」

ピカチュウ「ほっほっほ、私にかかればこんな事件、国際政府を滅ぼすより簡単だ」

コイル「いや、当たり前デシヨ！」

アルカリ「あなたは誰ですか？」

コイル「あ、私は助手のコイルデス」

ポツチャマ「私は秘書のポツチャマ」

キモリ「俺は探偵のボディガードだ」

ナエトル「僕は情報を集める係りです」

アルカリ「おお！　なんと頼もしい！　組織名はあるんですか？」

ピカチュウ「我々は“探偵ポケット団”です」

アルカリ「ポケット団ですね。本日はお願いします」

ユーロ「アレ？　ポケット団ってどっかで聞いた事があるような…  
…？」

ピカチュウ「……………！」

アルカリ「彼らは世界的有名だから聞いた事があるんだろう。なァ、諸君？」

国際政府精鋭兵「え、ええ（そんな組織あつたけ？）」

乗客「です……………ね（ポケット団??）」

財閥連合兵「はい、アルカリさん（何だっけ？ ポケット団って）」

ピカチュウ「では捜査を開始します」

アルカリ「おお！ さっそくお願いします!!」

探偵ポケット団は動き始めた。

## 第27話 探偵ポケット団（後書き）

ピカチュウ「しばらく更新しなかった理由の言いなさい」

体調不良&データベース編成作業&アフリカでスパイ活動

コイル「最後おかしいデシヨォー!!」

スパイ活動はウソですw

## 第28話 ライブセレクション（前書き）

【財閥連合】 No. 1

家庭用品シェア60パーセントを誇る世界最大の民間企業で裏では強力な軍事力をも隠し持つ。クロア・コマンドの失踪以来、全権を担う総督の地位はパルト・ティワードが握っている。この巨大組織のリーダーは「大暗黒帝」と呼ばれる男でその正体は不明。上級幹部のみが知っている。

市民の間で流行っているウワサでは密かに「サイエンネット計画」が進行し、この計画が完成すると世界のバランスが変わるらしい。だが、サイエンネット計画はウワサではなく実際に進んでいる計画なのだ。しかし、サイエンネットとは何なのか？ 一説では「人間の進化」を促すらしいが……？

## 第28話 ライブセレクション

ピカチュウ「ふむ、このナイフは……」

ピカチュウは突き刺さっているナイフを見る。

ピカチュウ「分ったぞ！ このナイフは……！」

ライブ・セレクション No.1

コイル（何か始まったー！！）

このナイフの正体は……？

- ・ゾロアークが化けている
- ・財閥連合社製のナイフ
- ・古代の遺跡から発掘された物

ピカチュウ「これは……」

アルカリ「何なんですか？」

ピカチュウ「これは“財閥連合社製のナイフ”だ！」

アルカリ「なるほど、確かに財閥連合社のマークが入ってます」

ピカチュウ「よし、次ッ！」

コイル（ってかさっきの“ライブ・セレクション”って何だったん

だ???)

\*

ピカチュウ「ムムツ！ 電子ロックが深夜に解除されている!!」

アルカリ「何ですと!? この部屋に最初に入ったのは午前8時のハズ!!」

ライブ・セレクション No.2

ナエトル「また始まった!」

犯人は誰?

ナエトル「この事件の核心を突く質問だー!!」

- ・ケイレ
- ・ナエトル
- ・ピカチュウ
- ・アルカリ

ピカチュウ「うむ、よしよし。また明日結論を出そう」

キモリ「いや、今出せよ!」

ピカチュウ「急がば回れじゃ。昨日の算数の授業で教えたじゃろ?」

キモリ「受けた覚えねえよ! つか、算数で習つかアホ!」

ピカチュウ「学習指導要領が大きく変わって……」

キモリ「黙れ！」

【エスパ号 コンテナ保管室】

まあ、アレだね。

コンテナがいっぱい有る薄暗いエリアだね。

なんとなく感じているかもしれないけど悪人がいるのね。こじ。

メタルメカ「作戦は順調か？」

全身を鋼の鎧で覆う謎の男、メタルメカは別の男達に言う。

ナード「ああ、順調さ」

プロパネ「ネスト・フィールドはケイレイトが捕らえた」

メタルメカ「上階での殺人事件については？」

プロパネ「ケイレイトの作業さ。バレそうになったらしくてな」

メタルメカ「まあ、問題ないな。ゴミが減っただけだ」

ナード「我らの任務はフィールド殺害とポケット団を抹殺し、「X」

「Y」「Z」を奪う」

プロパネ「ふふふ、楽だな。陛下は何を恐れるのだ？」



ナード「我らに加え「ハンターB型」までつけるとは……」

ナードは奥に立つ大男をちらりと見る。外見はハンターA型と変わりないが……

ナード「まあいい。さっさとフィールドの血液を採取し、首を切つちまおうぜ」

プロパネ「そうだな。こういう事はさっさと終わらすに限る」

メタルメカ「よし、俺は今夜ポケット団を始末する。フィールドは頼んだぞ」

プロパネ「ああ、任せておけ」

そう言つと3人は別れる。ポケット団の知らないところで財閥連合の魔の手は動く。

## 第28話 ライブセレクション（後書き）

【財閥連合】 No.2

実はこの組織、国際政府高官と繋がりがあるといわれている。そういわれ出したのは8年前の「テトラル事件」からである。この事件は今は無き「テトラルシティ」で起きたとある事件の事をいう。一般的には大量の魔物が市内に侵入し、市民のほとんどが殺され、生存は絶望的と判断した国際政府は全ての魔物を殺す為に、核ミサイルを使い、街と魔物を消し去った、とされる。

だが、真実は全く違い、テトラルシティに侵入したのは財閥連合の軍隊であった。では、何故国際政府は侵攻した者達（＝財閥連合）を魔物に変えたのか？ 何故そのような情報操作を行ったのか？

これは財閥連合がその後の責任を恐れ、国際政府高官に情報操作を依頼したと推測される。ここでまた別の疑問が浮上する。何故、国際政府はそのような依頼を受け入れたのか？ 財閥連合との全面戦争を恐れたのか？ それとも国際政府の高官の中に、財閥連合の人間が潜んでいるのだろうか？ 財閥連合の黒幕、「大暗黒帝」の本名。これが分かればもしかしたらこの謎を明かせるかも知れない。

## 第29話 失敗（前書き）

【財閥連合】 N O . 3

財閥連合が開発した食料品や素材はほとんどが違法とされる「遺伝子組み換え」によるもの。たがそんな物はほんの序の口でしかない。裏で行っている高個体値の無知的ポケモンの販売や違法武器の販売も「アレ」と比べればカワイイ物である。「アレ」とはポケモンを機械化し、戦闘兵器とした物、つまり「生物兵器」の開発である。この生物兵器となったポケモンは「意志」と「限界」を失う。意志を失うについては説明するほどではないだろう。そのまんま所有者の奴隷、いや道具となるのである。では「限界」を失うとは何なのか？ これは体力が尽き、死ぬまで戦い続ける事を意味するだけではなく、本来、そのポケモンが覚える事の出来ない技を習得するという事も意味する。つまり、本来「跳ねる」「体当たり」「じたばた」しか覚えないコイキングに「破壊光線」や「十万ボルト」を覚えさせる事も可能になるのだ。まさに生体を無視した限界突破である。だが、それによつて肉体にかかる苦痛は想像を絶する物である。しかし、財閥連合の研究員はそんな事、眼中にないのである。ところで財閥連合は何故莫大な費用を使つてまで生物兵器開発を始めたのか？ 生物兵器開発は自分達の保身や販売の為では絶対ない。一説には「大暗黒帝」の命令だといわれている。彼らはいや、大暗黒帝は「何か」を始める気であろう。でも一体何を……？

## 第29話 失敗

【エスパ号 客室エリア】

真夜中のエスパ号。廊下を歩く一人の男。財閥連合のメタルメカだ。

行き先はポケット団の部屋。彼らを暗殺し、「X」「Y」「Z」奪回の為に歩く。

メタルメカ「……………」

メタルメカはマスターキーを使い、ロックを解除する。そして、部屋に足を踏み入れたのだった。

ツルツ ドテツ！

メタルメカは滑って転んだ。

メタルメカ「なッ!? 一体何だコレは!!!?」

その声と共にピカチュウ達ポケット団はムクリと起き上がる。

ピカチュウ「一体何なんだと聞かれれば答えて上げるが世のなさ…」

キモリ「そこに撒いたのは油だ」

メタルメカ「何ッ!」

アルカリ「作戦成功ですな！ 探偵殿！！」

メタルメカ「クソッ！ 捕まってたまるか」

メタルメカは何とか廊下に飛び出すとそのまま逃走する。

アルカリ「追いましょう！ 探偵殿！！」

アルカリは素早く油が撒かれて居る所にマットを敷き、その上を歩いて廊下に飛び出す。

ポケット団も同じく、マットの上を歩いて廊下に出る。

【エスパ号 廊下】

逃げるメタルメカ。

だが、行く手は突如塞がれる。

ヒューズ「お客さん、廊下は走らないで頂きたい」

ドルク「こんな時間にどうしたんだ？」

ユーロ「問題発生ですかね？」

メタルメカ「クソッ！ ココにもかッ！！」

アルカリ「おらおら〜！ その鎧マスクマン、顔を見せな」

メタルメカ「死ねッ！ “システム・冷凍ビーム”」

魔法発生装置を使い、冷凍ビームを放つメタルメカ。  
だが、アルカリは高く飛び冷凍ビームを回避する。

アルカリ「ビックリパンチ”!”」

アルカリの強力なパンチはメタルメカの腹部の鎧を砕き、拳は直接、中の肉体に当たる。

メタルメカはヒューズらを越えて吹き飛び、壁に激突する。

メタルメカ「ゴフツ……!”」

震える手でメタルメカは小型の爆弾を取り出し、それを投げる。

一瞬の閃光。視界は真っ白になり、音は消える。数秒で聴覚・視覚は元に戻る。

だが、メタルメカの姿は消えていた。

アルカリ「チツ！ 閃光弾か」

ユーロ「しかし、ヤツが出てきたのはエスパ号のコンテナ保管エリアです」

アルカリ「すぐにそこに向かうぞ」

ヒューズ「へへッ！ ヤツも俺とドルクとユーロでコンテナ保管エリアから出てきたのを見られたのは誤算だったろうな」

ドルク「今度こそ逃がさないぜ！ 財閥連合」

彼らはコンテナ保管エリアに向かって走り始めた。

決戦の時は近い。財閥連合幹部であるメタルメカらを捕らえれば

財閥連合を窮地に陥れれる。

だが、こんなことわざがあるのをご存知だろうか？

“窮鼠猫を噛む”

追い詰められた者の抵抗は恐ろしいホドの力を持つのだ。

## 第29話 失敗（後書き）

### 【財閥連合】 No. 4

生物兵器は機械ポケモン以外に「ハンター」と呼ばれる物もある。このハンターは狩り人を意味するがその巨体と、動きからは到底狩り人とは想像出来ない。恐らく、敵の指揮官や何らかの生体をターゲットにした“狩り人”ではない。では何を狩るのか？ このハンター計画の目的もまた闇に隠され、我々が知る事は出来ない。ただ、ハンターA型は8年前のテトラルシテイの戦いでも投入され、財閥連合は戦闘データを取っている。そこから得たデータで新たなハンターを作り出した。（「ハンターB型」彼らは「何か」を作りたいのだ。ハンターから「何か」を。余談だがハンター計画の研究者とサイエンネット計画の研究者は結構仲がいい。



### 第30話 再び登場（前書き）

【財閥連合】 No. 5

財閥連合の悩みのタネに「テトラルの生き残り」がある。以前説明したテトラル事件の生き残りである。テトラルシティから脱出したのは僅か数人。それ以外の市民は全て死亡した。財閥連合が恐れるのは生き残りが真実を世界に伝える事である。幸い国際政府がテトラル関係の情報は操作しているから大丈夫なのだが……。

ところでネスト・フィールドもテトラルの生き残りの一人である。彼女だけは脱出後、財閥連合によつて身柄を拘束され、パスリユーに連行された。だが、彼女は殺されず脱出した。その時の記憶を彼女は脱出時しか覚えていない。何故なのだろうか？ 単に眠らされていただけなのか？ それとも記憶を「消された」のか？

最も理解出来ないのが、何故パスリユーに連行されたのが彼女「だけ」なのか？ テトラルの生き残りはヒューズやレストルなど他にもいる。何故彼女だけが？ そして、パスリユーで何をされたのか？ また何故、パスリユーから逃げられたのか？ もしかすれば彼女は財閥連合から「逃がされた」のかも知れない。

### 第30話 再び登場

【コンテナ保管エリア】

プロパネ「コレでよし」

ナード「じゃ、さっさと首をチョンパしますかね」

フィールド「クッ……」

メタルメカ「グエエエツ!!」

プロパネ「……………!?!」

ナード「な、何だ?」

フィールド「……………?」

????「世界の支配を企み蛇のごとく動き、善を滅ぼす、それがお前達財閥連合の真の姿」

プロパネ「何者だ!?!」

????「俺はそんなお前達を決して許さない」

フィールド「あいつは……………」

ナード「何なんだ、貴様は!」

ピカチュウ「正義の英雄、ピカチュウ」

アルカリ「同じく、アルカリ」

コイル（このカツコイイ登場の仕方は何なんだー！）

アルカリ「さあ、行きましょう。名探偵殿。いや、光の英雄よ」

ピカチュウ「勿論です」

キモリ「“リーフブレード”」

メタルメカ「グアアア！」

ピカチュウ「いや、何故俺より先に行動開始!？」

ナード「まア、アレだな」

プロパネ「ここでぶっ殺し放題だな……」

ナード「ここでなら暴れるよな？ メタルメカ」

メタルメカ「ああ…… 客室エリアとは違うからねえ…… さて  
反撃を始めようか」

ヒューズ「アレ!? あそこにいるのってフィールドじゃねえか!」

ドルク「アイツらに捕まっていたのか!？」

ケイレ「ピカチュウさん! 頑張つて〜!」

ピカチュウ「おう」

フィールド「……………！ ドルク！ アイツは財閥連合のケイ……………！」

ナード「おつとつと」 何を言いつつもりだ？」

ナードはフィールドの眉間にマグナムを突きつける。  
発砲されれば……………

フィールド「……………！」

プロパネ「……………これでよし。“ハンターB型”起動！」

ポツチャマ「B？ 何それ？」

奥のコンテナが開き、青いサングラスをした一人の人間が出て来る。

その大きさは2メートルを越えている。

ドルク（あのハンターA型に似ているな違いはサングラスの色だけか？）

ピカチュウ「アレ？ この前のアイツとそっくりじゃん。メガネが赤から青になってるけど」

ケイレ「アイツ強そうだね」

アルカリ「……………！」

フィールド「……………？」

ドルク「止めるッ！ “エネルギーボール”！」

ドルクは突如エネルギーボールを放つ。

飛んだ先はケイレの方だった。

ケイレ「……………！！」

ケイレは素早く避け、ナードら財閥連合メンバーの居る方に飛ぶ。

ナード「オイオイ…………… 失敗かよ。「ケイレイト」さんよ」

ピカチュウ「え？ ええ？」

アルカリ「なるホド、アイツは敵の人間だったのか」

ケイレイト「でも“アレ”は回収した」

プロパネ「……………ならいいかな？」

メタルメカ「よし、アレを回収したらヤツラは用済みだな」

プロパネ「 “ハンターA型-1”！ ポケット団のポツチャマとナエトルを殺せ」

その声と共にコンテナから赤いメガネをしたハンターA型が2体も現れる。

プロパネ「 “ハンターA型-2” はポケット団のコイルとエルレイ

ドを消せ」

ケイレイト「じゃ、私はあのピカチュウを消すわ」

ピカチュウ（えー！！）

メタルメカ「ならば俺は国際政府將軍アルカリを始末しよう」

ナード「あのヒューズとユーロは任せてもらおうか……」

プロパネ「“ハンターB型”はドルクを消せ。俺はキモリを消す」

???「ではフィルドの始末は私らの仕事ね」

プロパネ「ああ、任せた」

ピカチュウ「アイツは……!!」

レジアイス「“冷風のコウテツキラース”だ!!」

### 第30話 再び登場（後書き）

#### 【ピカチュウ】

ポケット団を率いる人物。といっても能力はかなり低い。（低いといっても野生型ピカチュウよりかは強く、下級PARUM兵を倒した事もある）フィールドと戦った事もあるがかなり圧倒されている。ポケット団のアジトにて「ラスボス・フィールドは俺の活躍により倒れたのだ」という内容の発言をしているがキモリに突っ込まれて終わった。

#### 『怪盗ポケット団 〜デンセツノヒホウ〜』

リトマスシティを襲撃し、「秘伝技マシンZ」を奪った。またこの事により「秘伝技マシンZ」警備に任務に当たっていたフィールドから憎悪を向けられる事になる。（本人は気づいていない）本人曰く「クリムガンは銃」。最後に“ガン”と付くものは全て銃だと信じている。本人曰く「スローガンは遅いハンドガン」

### 第31話 ハイテクボム（前書き）

【キモリ】

ポケット団の団員。大怪盗ジユプトルの息子。

『怪盗ポケット団 ～デンセツノヒボウ～』

ポケット団の団員としてピカチュウと行動している。リトマスシテイ襲撃のときにはフィールドと戦い辛うじて勝利している。

リトマスシテイ襲撃の後、財閥連合・氷覇支部に向かうときは雪崩にあつたが、蔓の鞭を使って上空を飛ぶへりに巻き付き、中に乗る事に成功した。

その後向かった財閥連合グラスト支部ではハンターA型やコマンドと戦いなんとか勝利している。



### 第31話 ハイテクボム

コンテナの影から現れたのはあのコウテツキラーズだった！

ジバコイル「オウ！ オウ！」

レアコイル「久しぶり〜！」

レジアイス「今度は容赦しないよ！ さア、“ハイテクボム”を出しな！ コイル」

コイル（コウテツキラーズ）「えッ！？ さっきレジアイス団長が持ってたんじゃ」

レジアイス「は？ 何それ？ “また”死にたいの」

コイル「死んだ事ないですけど……」

レジアイス「うるさい！ 今日からお前は“ナゾイロコイル”だ」

ナゾイロコイル「ハイ……」

フィールド「コントは終わりでいいか？」

レアコイル「何ッ!？」

レジアイス「アイツ、いつの間に拘束を解いた!？」

フィールド「その“ケース”の中身返して貰っぞ」

レジアイス「ん？」

パカ（ケースを開ける）

レアコイル「おッ！」

ハイテクバズーカを取り出す

レジアイス「おお！ ハイテクバズーカ今頃になって……」

パタン（ケースを閉める）

フィルド「あ、間違えた。奥のケースだ」

レジアイス「ん？」

パカ（ケースを開ける）

レアコイル「おッ！」

中には赤い液体の入った試験管5本とメモリーカード2枚が入っていた。

パタン（ケースを閉める）

レジアイス「チッ！」

レアコイル（何故舌打ち！？）

フィールド「コントは終わりでいいな？」

レジアイス「ん？ ああ、いいとも」

【コンテナ保管エリア 食品区】

ポツチャマ「キヤアアア！」

ナエトル「何故僕達があんなヤツとオオ！！」

ハンターA型「グオオオツ！」

逃げるポケット団と追うハンターA型。

ポツチャマ「クツ！ 何とかしないと」

ハンターA型「グオオツ！」

ナエトル「アレ？ 何か持っている」

ポツチャマ「あ、ホントだ。何だろうね？ あの鉄の筒みたいなのは」

ドンツ！（鉄の筒から弾発射）

ポツチャマ「キヤアアア！」

ナエトル「ウワアアア！」

二人は慌てて避け、弾は後方のコンテナに直撃する。コンテナは木っ端微塵になった。

ポツチャマ「ハア、ハア…… あの筒はロケットランチャーね」

ナエトル「危なかった……」

ハンターA型「グオオオ！」

ポツチャマ「クツ！ あのロケットランチャーを何とかしないと」

【コンテナ保管エリア 武器区】

コイル「誰かお助け……！」

エルレイド「“サイコカッター”！」

ハンターA型「グオ！？」

コイル「倒しまシタ？」

ハンターA型「グオオオ！」

エルレイド「やっぱりダメだ！」

コイル「しかもアイツ、ロケットランチャーを持っていきます！」

エルレイド「何だって!？」

ドンッ！（ロケット弾発射）

エルレイド「ウワァアッ！」

【コンテナ保管エリア 予備品区】

ユーロ「うえいッ！」

高い金属音と共に火花が散り、ユーロとナードの剣が触れ合う。

ナード「なかなかやるではないか……」

ヒューズ「喰らえッ！」

ヒューズはハンドガンを使い少し離れた所からナードを狙い撃つ。だが、ナードはそれをよけてしまう。

ハンドガンの弾は回転しながらナードの目の前を通り過ぎ、コンテナに直撃するだけ。

しかも、ナードは弾をよけながらヒューズに接近し、僅かな隙を突いて彼の首を掴み持ち上げる。

首を掴まれ近くのコンテナに押し付けられた彼は危機に陥ってしまった。

ナード「あの忌まわしきテトラル事件の生き残りよ、ここで終わるだ」

ヒューズ「グッ……！」

ヒューズは自分の首を締め、押さえるナードの手を振りほどこう

と必死に抵抗するがビクともしない。

既にナードの左手にはナイフが握られていた。これでヒューズを刺し殺す事は容易に想像出来る。

ユーロ「止めるオ！」

ユーロは剣を片手にナードに飛びかかって行く。だが、その行動をナードは利用した。

ヒューズを捕まえていた右手でマグナムを取り出し、発砲したのだ。

マグナム弾は一直線に真っ直ぐ進み、ユーロを狙う。

一方ユーロはナードの僅かな準備の動きでとっさに動きを変えた為、心臓に直撃はしなかった。

だが、右太股にマグナム弾は食い込み、骨を砕き、肉体を貫き、貫通した。

そして、ナードはマグナム銃口をヒューズに向けたのだった。

### 第31話 ハイテクボム（後書き）

【チルス・ヒューズ】

テトラルシティから脱出した数少ない人の一人。

元々はテトラルシティに住んでいたがテトラルシティの戦いに巻き込まれ、フィールドと共にテトラルシティから脱出した。

『救世主を迎える門 バトルシティ』

テトラルシティの戦いで家を失い、市内を移動していたが、フィールド達と出会い、行動を共にする。

やがて、テトラル保安連帯本部の屋上で財閥連合とハンターA型と戦い、ヘリを奪うのに成功し、フィールドと共にテトラルシティから脱出する。

『怪盗ポケット団 〜デンセツノヒホウ〜』

テトラルシティの事を世界に伝える為、財閥連合ラドラー支部をフィールド、ドルクと共に襲撃する。（この襲撃は失敗に終わる）

2010年にはフィールドからの救援に応じ、グラスト支部に向かう。その後、フィールドと共にエスパ号の警備に参加する。

### 第32話 エルレイドの作戦（前書き）

【エルレイド】

ポケット団と財閥連合に所属するポケモン

『怪盗ポケット団 ～デンセツノヒホウ～』

ポケット団の団員でありながら一番出現回数が少ない。その理由は彼が財閥連合の創始者メンバーの末裔であり幹部であるからである。財閥連合幹部だということは当初ポケット団員は誰一人知らなかった。



### 第32話 エルレイドの作戦

【エスパ号 大浴場】

ピカチュウ「待て！ 話合えばきっと分かり合える！」

ケイレイト「フッフ、そうかしら？ でもあなたはコマンドを消したのでしょ？」

ピカチュウ「いや、あれも事情があつて……」

普通の二倍は有る大型のブーメランを持ち、ゆっくりと近づいてくるケイレイト。

ピカチュウは大浴場の奥に後退を続ける。

ケイレイト「アナタのせいでコマンドは死んだ。それが事実よ」

ピカチュウ「それは分かっている！ でも話をしたい！」

ピカチュウは浴槽に入り、なおも後退する。

ピカチュウ「うわッ！ 水冷たッ！！」

ケイレイト「アナタを切り刻んだ後は水は海に流しておくわ。安心しなさい」

ピカチュウ「いや、話をオオ！！」

【コンテナ保管エリア 食料区】

ポツチャマ「いい？ あのロケットランチャーには大量の弾が入っている」

ナエトル「そりゃ分かっているよ」

ポツチャマ「つまり、あの中にコレ」

そう言つてポツチャマはワインのビンとマツチを渡す。

ポツチャマ「コレをあのロケットランチャーに突っ込む」

ナエトル「フムフム」

ポツチャマ「ロケットランチャーは大爆発、アイツは死ぬ」

ナエトル「ナルホド」

ポツチャマ「私がアイツの注意を引くから後は宜しくッ！」

ナエトル「つまり、えー、僕がアイツに接近してこの作業を行うのね」

ポツチャマ「そういう事！ じゃ、頑張つて！」

そう言つとポツチャマはどこかへ走つて行つた。

ナエトル「アイツに接近してコレをアレに入れる…… っ僕  
の危険度高すぎでしょうが……」

【コンテナ保管エリア 武器区】

エルレイド「この辺りは弾薬の入ったコンテナが多くあるから……」

コイル「あの、火は……」

エルレイド「このダイナマイトで一個のコンテナに火をつけられれば……」

コイル「その作戦は……」

エルレイド「コンテナの上部は僕のIEDを使えば開くから……」

コイル「問題が……」

エルレイド「少し開けてダイナマイト入れればいいから」

コイル「まア、確かにアイツは倒せるけど……」

エルレイド「じゃ、お互い頑張ろう」

そう言ってエルレイドは去っていった。

コイル「巻き添えを喰らったらどうすんの!？」

ハンターA型「グオオオツ!」

コイル「出たアアア!!!」

ポイツ！（ダイナマイト投げる）

ハンターA型「……………！」

パクッ！（ハンターA型の口にダイナマイトが入る）  
ドッカーン（ダイナマイト爆発音）

コイル「効果音しょぼいけどやった！」

ハンターA型「グッ！　グオッ！　グオッ！」

コイル「……………！」

カチャ（ロケットランチャーの砲口向ける）  
ドンッ（ロケット弾発砲）

コイル「ギャアアアッ！！！」（誰かの悲鳴）

エルレイド（誰かってコイル君しかいないけどね……………）

ハンターA型「グッ！」

エルレイド「……………！」

かなり弱っている！　チャンスだ！！！」

エルレイドは素早くコンテナの蓋を開け、中にダイナマイトを入れる。  
そして、素早くその場を離れる。

エルレイド「あ、コイル君忘れてた」

ドッカーン (コンテナが吹き飛ぶ)

ハンターA型「ゲアアアオオオ……!!」 (断末魔)

コイル「ギャアアア!!」 (遺言)

エルレイド「ゴメンツ!!」 (謝罪)

コイル「ギャアア! 誰が遺言だアアア! エルレイド、テメエエ!!」 (暴言)

続きます

第32話 エルレイドの作戦（後書き）

【コイル】

ポケット団員の一人。

『怪盗ポケット団 〜デンセツノヒホウ〜』

チームの中ではあまり活躍する場面もない。だが、地味に登場回数が多い。（ヒューズやエルレイドに比べて）

基本突っ込み役で、あまりポケを言うキャラではない。

「冷風のコウテツキラーズ」に所属するコイルと間違われる事がある。

### 第33話 ナードVSヒューズ、ユーロ（前書き）

【セル・アルカリ】

国際政府に所属する将軍。

『怪盗ポケット団 ～デンセツノヒホウ～』

ポケット団の襲撃が財閥連合の命令によるものだと思ったフィールドの命令でリトマス城に派遣された。（フィールドから直接命令を受けたワケではない）

だが、リトマス城にあった「Z」の警備に失敗し、それを奪われてしまった。その為、彼は部下のユーロ共々停職処分になった。

それ故、フィールドが財閥連合・氷覇支部に向かった時、同行する事が出来なかった。

### 第33話 ナードVSヒューズ、ユーロ

【コンテナ保管エリア 食品区】

ナエトル「……………」

ポツチャマ「おバカー！ コツチだー！」

ハンターA型「グオオオツ！」

コンテナの上でハンターA型の気を引くのはポツチャマ。

コンテナの下からそれを見て、ロケット弾を飛ばすのはハンターA型。

コンテナの陰からそれを見て、チャンスを狙うのはナエトル。

ハンターA型「グオオツ！」

ナエトル「ダメだツ！ 怖すぎる」

ポツチャマ「ナエトル君。燃やすよ（怒）」

ナエトル「ヒイイイツ！（アイツも怖ツ！）」

ナエトルは走りだした。ハンターA型のロケットランチャーを狙って遂に！

ハンターA型は幸い気づいていない。火炎瓶かえんびんをロケットランチャーに入れれば勝ちだが。

ポツチャマ「（来たか……）オラア！ デツカイ黒服〜！ 似合っ



てないぞ〜！」

ハンターA型「グオオオツ！」

ハンターA型はロケットランチャーを肩に乗せ、ポツチャマに標準を合わせ始めた。

その瞬間、ナエトルはハンターA型の頭に飛び乗り、火炎瓶をロケットランチャーの中に突っ込む。

ハンターA型「……………！」

ハンターA型がナエトルに気づいた時、すでに彼はハンターA型の頭から飛び下り、その場を離れるべく走っていた。

そんな彼をハンターA型は狙う。……火炎瓶の入られたロケットランチャーで。

僅かな時間。それがハンターA型の余命だった。

ロケット弾を放とうとした途端、ロケットランチャー内部で火炎瓶が爆発。装弾されていたロケット弾と所持していたロケット弾は全て爆発した。

爆発時、ロケットランチャーを肩に乗せていた為、無防備な頭へのダメージは大きかった。

ハンターA型はその場に倒れ、それっきり動かなくなったのだった。

【コンテナ保管エリア 予備区】

ナード「ハツハツハツ！ 消えるッ！」

ユーロ「システム・冷凍ビーム」！」

薄い青色を含ませたレーザーのような光線が飛び、ナードのわき腹に当たる。

ナード「ゲアッ！」

ユーロ「死ねッ！ “システム・十万ボルト” ！！！」

光り輝く黄色の電撃はナードを狙い飛ぶ。だが、今度はナードは避ける。

いや、避けただけではない。避けて、距離を縮め、ユーロに接近したのだ。

ユーロ「……………！！！」

ナード「邪魔だッ！ 消え失せるッ！！！」

ナードはユーロを真つ二つに斬り殺そうと剣を振り上げる。

ヒューズ「テトラルの仇だ！ 喰らいやがれッ！！！」

ヒューズは剣を振り上げている瞬間に両手に持った特殊なマグナムで発砲する。

マグナム弾はナードを狙って飛ぶ。

ナード「……………！！！」

超人的な能力を持つ、ナードはそれを片方だけ避けれた。だが、もう片方は肩を貫く。

よろけるナード。ユーロはそのチャンスを見逃さない。魔法発生

装置の全エネルギーを動員し、最後の攻撃に出た。

ユーロ「MAX・クロスサンダー”!!!”」

ナード「ク、クソツ……！」

巨大な雷の塊。それは通常のクロスサンダーの威力を遥かに上回る。

それは天から一気に落下し、ナードの体を包み込んだ。

爆音。衝撃。それらと共に辺りのコンテナは砕け、あるコンテナはゴミのごとく宙を舞ったのだった。

### 第33話 ナードVSヒューズ、ユーロ（後書き）

【イー・ユーロ】

国際政府に所属する軍人。

『怪盗ポケット団 〜デンセツノヒホウ〜』

アルカリと共にリトマス城を警備したが失敗。停職処分にされる。  
その後はアルカリと共にエスパ号の警備に加わり、財閥連合の幹部・  
ナードと戦う。

第34話 逃げるが勝ち？（前書き）

逃げれば勝てます……たぶん

### 第34話 逃げるが勝ち？

【コンテナ保管エリア 中央区】

メタルメカ「システム・ハイドロポンプ」！！」

魔法発生装置を使い、大量の水で攻撃するメタルメカ。

アルカリ「レッド・パンチ “血の覇拳”」

一瞬でメタルメカの近くに接近し、素早く、力強い拳で鎧を砕く。  
メタルメカは吹っ飛び、コンテナに叩き付けられる。

メタルメカ「グエエッ！」

アルカリ「フフフフ…… 俺は国際政府の將軍。お前は暗殺者のよ  
うだな」

メタルメカ「ク、クソ…… “システム・破壊光線”！」

最後の力を振り絞り、破壊光線を発動するメタルメカ。  
だが、その攻撃を避け、再びメタルメカに接近する。

アルカリ「ターゲットを暗闇で消す事では俺に勝るかもしれんが」

アルカリはメタルメカを空中に打ち上げ、アルカリ自身はそれに  
続いて飛ぶ。

メタルメカ「……………！！」

アルカリ「正々堂々1VS1の戦いでは俺の方が遥かに強い！」  
クリティカル・パンチ  
急所への破拳”!!!”

メタルメカの腹部を凄まじいパワーで叩く。

上昇していたメタルメカの体は急降下し、コンテナに叩きつけられる。そのコンテナは少し、潰れかけた。

アルカリ「さて、名探偵はご無事かな？」

【 에스 파 호 大浴場 】

ピカチュウ「いや、マテ！」

ケイレイト「もう十分待ったわよ」

ピカチュウ「いや、後2、3分だ」

ケイレイト「ムリね」

ピカチュウ「犯罪はマズイって！」

ケイレイト「泥棒のあなたはどのなの？」

ピカチュウ「いや、怪盗です」

ケイレイト「同じ、じゃない？」

ピカチュウ「まあ、おっしゃる通りですね。違いはお茶とアイステ

「イーぐらいですね」

国際政府精鋭兵A「いたぞ！」

国際政府精鋭兵B「そこまでだ！」

国際政府精鋭兵C「名探偵殿をお守りしろ！」

ケイレイト「……………！」

ピカチュウ「よ、よし、時間稼ぎ成功……………（してたつもり無いけど）」

国際政府精鋭兵D「アルカリ將軍の命令でケイレイト容疑者を逮捕する！」

ケイレイト「フッフ…………… 陛下にコレは渡しておくわ」

そう言って、ケイレイトは二枚のメモリーカードを見せる。秘伝技マシンZとX。

ピカチュウ「そ、それは俺の……………！」

ピカチュウの言葉が終わらぬ内にケイレイトは窓から飛び出す。

国際政府精鋭兵E「逃げたぞ！」

国際政府精鋭兵F「バカな！ あの窓の下は海じゃ……………！」

モーターボートの音が聞こえたのはそれから数秒後の事だった。



【海上】

ケイレイト「コレが「X」と「Z」なのね……　コレで何を  
するのやら」

そう言いながらケイレイトは暗闇の海を進んで行った。

### 第34話 逃げるが勝ち? (後書き)

『財閥連合VS色んなヤツら』(?)

【第32話】 ×ハンターA型VSエルレイド・コイル

【第33話】 ×ハンターA型VSナエトル・ポツチャマ

【第33話】 ×ナードVSヒューズ・ユーロ

【第34話】 ×メタルメカVSアルカリ

【第34話】 (逃げた)ケイレイトVSピカチュウ

【第??話】 コウテツキラーズVSフィールド

【第??話】 ハンターB型VSドルク

【第??話】 プロパネVSキモリ

### 第35話 大怪盗ジユプトルの登場！（前書き）

#### 【コウテツキラーズ】

財閥連合に雇われた傭兵部隊の一つ。構成員はレジアイスを筆頭に4体。いずれも喋るポケモンなのだが何故かジバコイルだけは喋れない。でも言語は理解し、喋ろうとしている。いつも「オウ！」としか言っていないが……

主な任務はターゲットの暗殺。ターゲットをより暗殺しやすいように「ハイテクバズーカ」が支給されている。

### 第35話 大怪盗ジユプトルの登場！

【コンテナ保管エリア 緊急用品区】

フィルド「私に勝てるかッ！ “クロス・フレイム”」

レアコイル「ギャアア！」

ナゾイロコイル「団長〜！！」

ジバコイル「オ〜ウ（泣）」

コイル族の3人は瞬殺された。

レジアイス「はッ！ 残りはアタシだけかよ」

フィルド「どうする？ 降伏か？」

レジアイス「バカ言ってるんじゃないよ！ アタシにはまだハイテクバズーカという兵器があるんだよ」

そう言っつてハイテクバズーカを取り出す。

レジアイス「うわ、重ッ！」

フィルド「新型兵器か……」

レジアイス「さて、死ね！！」

特殊弾が飛ばされる。

レジアイス「それは追跡弾だ！ 消せ！！」

フィールド「クッ！」

フィールドは避ける。また特殊弾は戻ってくる。  
当たりたくないのでまた避ける。追跡弾なのでまた戻る。  
避ける。戻る。避ける。戻る。避ける。戻る。避ける。戻る。避ける。戻る。避ける。……

追跡弾のエネルギーは切れ、弾は床に転がる。

フィールド「……………」

レジアイス「んなにイ！ こうなったら2発目エ！！」

フィールド「喰らえッ！」

フィールドは落ちた追跡弾を拾い、それを野球ボールのように投げる。

追跡弾はレジアイスらコウテツキラーズに当たり、彼らは吹き飛んだ。

レジアイス「やな感じ〜！」

ナゾイロコイル「それはロケット団のマネですね〜！ 団長〜！！」

レジアイス「うるさい！ 今日からお前はナナイロコイルだ！」

ナナイロコイル（ナナイロ!?）

レアコイル「ハイテクバズーカの弾って結構遅いな……」

ジバコイル「オウ……」

彼らコウテツキラーズは空の遙か彼方に飛んでいった。

????「ひゅ〜 おめでと〜！ 君の勝利〜」

フィルド「お前は……！」

突然、コンテナの陰から一匹のジュプトルが姿を現す。

フィルド「大怪盗ジュプトル！」

ジュプトル「やあ！ 久しぶりかな？」

フィルド「今日からずっと一緒にでもいいぞ？」

そう言つとフィルドはマグナムを銃口を向ける。

ジュプトル「おっとと〜！」

危険を感じたジュプトルは慌てて身を隠す。

ジュプトル「いやあ〜 危ない危ない」

フィルド「あまりふざけているとぶっ殺すぞ」

ジュプトル「うわお！ これは失礼。お前って昔から怖いよなあ〜。

特にテトラル事件以来まるで氷のハート状態だな」

その時、マグナムの銃口から乾いた音と共に弾が飛び出し、コンテナに当たる。

ジュプトル「うお！ 怖ッ！」

フィルド「他に言いたい事は？」

ジュプトル「プロパネを倒したぜ」

フィルド「息子を助けたのか？」

ジュプトル「それが半分。アイツ、驚いていたけど俺の事知らないのかな？ まあ俺が旅を始めた時、アイツは3歳だったからな」

フィルド「……もう半分は？」

ジュプトル「プロパネのヤツは特殊能力を持っているんだがそれが相当厄介でな。使われる前に倒したかった」

フィルド「他に用がないのなら捕まえていいか？」

ジュプトル「一度言いたかったのだがお前“信頼できる仲間”いる？」

フィルド「……………」

ジュプトル「俺の予想ではない、合ってるだろ？」

フィールド「……だから？」

ジュプトル「お前はテトラル事件以前は普通の人間だった。ちょっとクールすぎたような気がするけど」

フィールド「……………」

ジュプトル「ところがあの事件以後だ。そんな感じになったのは。冷たい炎をまとい、周囲の人間を疑い、敵とわかれば徹底的に叩く」

フィールド「……………！」

ジュプトル「たぶん、お前がそんな感じになった原因は2つある。

1つはテトラルシテイで守ることが出来なかった仲間

2つ目はテトラル消滅の真実が世界に受け入れられなかった事」

フィールド「だから？　だから何？　私が孤独な人間だと嘲笑いたい？」

ジュプトル「いや、別に。まあ、仲間を得る事へのトラウマみたいなのはヤバイんじゃないの？」

フィールド「仲間はいらない。私一人でテトラルの仇をとる」

ジュプトル「あそ。最後に一つ。テトラル事件の発端となった人物がいる」

フィールド「何!？」



ジュプトル「制御室にいた」

### 第35話 大怪盗ジユプトルの登場！（後書き）

テトラル事件については重要な部分のみ書こうかなと思っています  
一応、簡単に説明しますと……

テトラルシティという都市があつてそこに財閥連合がやつて来てウ  
ハウハしてウホウホしてノホノホしている内に核ミサイルがやつて  
来て全部吹っ飛んだ

……てな感じです。お分かり頂けたでしょうか？

ピカチュウ「わかるかア！！」

### 第36話 ハンターB型

【コンテナ保管エリア 中央区】

ハンターB型「グオオオッ！」

ドルク「こいつ叫ぶことしかできねえのか？ “アルテマ”！」

ドルクの放ったアルテマはハンターB型に命中する。

ハンターB型は膝を付く。早くもダウンなのか？

ドルク「こいつハンターA型より弱くないか（汗）」

【コンテナ保管エリア 制御室】

制御室では誰かがコンピューターを見ていた。

????「ククク…… プラント博士、計画通りだな」

プラント「ええ、閣下。ハンターB型計画は順調です」

????「あのナエトル（＝ドルク）も異常な能力を持っているようだがハンターB型はやがてその力に耐性をつける」

プラント「あのナエトルはどうします？」

????「ハンターB型計画の予定通り一定の“進化”が終われば殺せ。そして死体から血液のサンプルを採取しろ」

プラント「……………」

「分らんのか？ ハンターC型計画に使うのだ」

プラント「ではフィルドは？」

「あの女よりあのナエトルの方が優秀そうだ。最もヒトとポケモンのDNAがうまく交わればいいのだが」

ハンターC型計画……………ハンターA型もB型も全てはこのハンターC型の為に開発された人間生物兵器であった。

意思を持たないが知能はある。素体出来る人間が多い。それがハンターA型。

A型と同じく意思はないが知能はある。特殊技を使う。素体出来る人間が少ない。そして“進化”する。それがハンターB型。

プラント「実験材料のナエトルよ、せいぜい抵抗し、Bの耐性を強化してやってくれ……………」

「ダメージに注意しろ。ヤツは無敵じゃない。あくまで耐性が強化されるだけだ」

プラント「分っていますよ！ 黙ってて下さい！！」

【コンテナ保管エリア 中央区】

ハンターB型「グウウ……………」

ドルク「ん？ まだ戦えるのか？」

ハンターB型「グオオオツ！！！」

ハンターB型は立ち上がり低い、唸り声を上げ、ドルクを目掛けて走って来る。

ドルク「……………！ だったらもう一度、“アルテマ”！」

再びアルテマを放つ。威力は同じだった。

だがハンターB型はその攻撃を受けたにも関わらず止まらない……………

ドルク「何ッ！？」

爆炎の中から右手に炎をまとい、走ってくる。

プラント（ふははは…………… 殺せ！ ハンターB型！！）

ドルク「うわ、危ねえ！」

ドルクは慌てて避ける。ハンターB型の右手はドルクの体には当たらず床に当たる。

その床にハンターB型の右手はめり込む。赤い火の粉が巻き上がる。

ハンターB型「グオオ……………」

ドルク（どうなっている？ 何でアルテマが効かない？）

ハンターB型「グオオオツ！」

ドルク「アルテマが効かないのなら…… “エナジーバスター”」

タイプ一致のポケモンではドルクしか使えない技、エナジーバスター。

それがハンターB型の顔に直撃する。ハンターB型は吹っ飛び、一回転して倒れる。

ドルク「今度こそやったか？」

### 【制御室】

プラント「またまた…… 有り難いよなあ…… ハンターB型」

????「……………」

プラント「はっはっはっは……」

### 【中央区】

ドルク「……………!!?」

重い体を持ち上げ、再び立ち上がるハンターB型。冷たい暗黒の瞳はドルクを映す。

頭では命令が巡る……

“ドルクヲ殺セ、ドルクト戦イ耐性ヲ増ヤセ、進化シロ、ドルクヲ殺セ、殺セ、破壊シロ”

ハンターB型「グオオオ!!」

ドルク「どうなっている？」

エナジーバスターに対する耐性を得、また進化したハンターB型。  
無表情でドルク睨んでいたのだった。

### 第36話 ハンターB型（後書き）

ハンターB型の「B」は血液型ではありませんW



### 第37話 暴走するハンターB型（前書き）

#### 【ハンターA型】

高い耐久力とある一定の知性を持ち、簡単な命令（\*\*を殺せなど）を遂行できる完成度の高い生物兵器。ヒトの遺伝子とボスゴドラの遺伝子を組み合わせ創り出された。その為か姿は人間だが、肌の色が灰色でかなり大きい。

この生物兵器は完成後莫大な費用をかけて量産された。しかし、素早さがかなり遅い為、財閥連合の秘密軍事部隊の強兵程度にしかならなかった。

### 第37話 暴走するハンターB型

生物は進化する……

そして新たな技を習得し、他の生物を超えていく。

過酷なる生存競争

それに負ければ生き抜けない。

ドルク「何でだ？ “エナジーバスター” ！！」

ドルクはエナジーバスターを次々と撃ち込んでいく。

だが、もう倒れない。“進化する死神”はゆっくりと近づいてくる。

ハンターB型「グオオオオオッ！」

ドルク「クッ！ “ファイガ”！ “メテオ”！！」

魔法を使うドルク。炎を繰り出し、ハンターB型は巨大な炎の塊と化す。低い声で悲鳴を上げ、炎は辺りの物に火をつけていく。

その間にもハンターB型の頭上から隕石が降り注ぎ、数秒でハンターB型は岩の山に埋まる。その岩山からは黒い煙が立ち上った。

ドルク「今度こそやったか？」

火の粉が蔓延する。炎の弾ける音以外は何も聞こえなかったが……

……岩山が音を立てて崩れる。

少しずつだったが確実に崩れていく。中で何かが動いている。何かとは言ってもない。

ハンターB型「グルオオオ……」

低い雄叫び。その声と共に岩山は音を立てて崩れた。中からハンターB型。

防弾用の黒いコートは殆ど焼け落ちて、火傷の跡が数多く残る皮膚は完全に露出していた。

だが、ドルクは目を見張る。腕が、ハンターB型の腕は4本に増えていた。指は変形し、巨大な鎌のように変形している。

しかも、背中からは8本の細い触手を生やしている。それは激しく蠢く。

ドルク「……………!?!」

ハンターB型「ギャイアアアアアア!?!」

泣き声は低い声から高く、鋭い声に変化している。超音波なのか耳がかすかに痛い。

### 【コンテナ保管エリア 制御室】

プラント「な、何でだ？ 何で姿が変わってしまっているんだ!?!」

????「どうなっている？ どこまで進化したんだ?」

プラント「……………! 閣下! ハンターB型が命令を受け付けてくれません!?!」

????「何ッ!?!」

プリント「ま、まさか…… これは暴走……？」

その時、ハンターB型はゆっくりと監視カメラの方を向く。この監視カメラの映像はプリントらのパソコンに通じていた。

プリント「え……？」

????「我々に気づいている？」

口を歪ませ、ニヤリと笑った。意思を持たないハズのハンターB型が……

プリント「う、うあわあ……」

????「プリント？」

プリント「ぎあはあ……」

謎の男は思わず後ずさりする。

プリント「ぱとふぉー…… かつかあ……」

パトフォーとはこの男の本名だった。

パトフォー「ヨの事は大暗黒帝と呼べと……」

プリントは腕を前にゆっくりと近づいて来る。まるでゾンビのよう  
に。

プリント「くははは…… あたまたが われ……つぶね、くるし、閣下

のばわー、たすけ……!!」

パトフォー「く、来るな」

その時、プラントの目から耳から口から……赤い液体があふれ出る。更にはプラントの顔にはひび割れのように赤いラインが入っていく。

そこからも血。あふれ出てくる。流れ出る。銀色の床は赤く変色していく。止まらない……

画面に向かって口を歪め、顔全体で不気味なピエロのように笑うハンターB型。彼には表情がもうあった。

パトフォー「ウワアアア!!」

パトフォーはプラントを放置し、制御室の扉を蹴破り、外に飛び出す。

出た時、何かが崩れ去る音が聞えた。ただ、それは一個の個体が倒れる音ではなく、何かがバラバラになって落ちた音と非常に似ていた。

その後、プラントを見た者はいない。画面の向こうではハンターB型の不気味な笑顔だけが映っていた。

### 第37話 暴走するハンターB型（後書き）

#### 【ハンターB型】

ハンターA型の強化バージョン。「A」と同じくある一定の知性を持つが学習する事が出来る為、複雑な命令（\*\*の部屋にある右から6番目の\*\*を取って来いなど）を遂行できる。

また、冷凍ビームや十万ボルトといった特殊技を繰り出す事も出来る。

攻撃を受けると細胞が変異し、その技の耐性を身に付ける。その為一度使った技ではダメージがほとんど与えられなくなり、相手は苦戦を強いられる。ただ、自己再生はしないのでダメージは蓄積される。

このハンターB型の遺伝子と“誰か”の遺伝子とを組み合わせる「ハンターC型」を創りだそうとしている。

この生物兵器の問題点は変異が続くとシステムによるコントロールが効かなくなり暴走する。暴走の危険性を考慮し、量産はされなかった。（つまり、エスパ号に投入されたハンターB型しか存在しない）

第38話 封鎖（前書き）

【プリント】

ハンター計画の副主任研究員。暴走したハンターB型の超能力で死亡した。





ヒューズが出入り口のロックを解除しようと試みるが全く反応しない。

そこにポツチャマやナエトルらがやって来る。

ポツチャマ「あ、政府の軍人」

ナエトル「ど、どうしたんですか？」

ヒューズ「やべえぞ。ロック解除できない」

コイル「パ、パスワードは!?!」

ユーロ「何回も打ち込んでいるけど開かない!?!」

エルレイド「こうなったら僕のマスターコードを使いましょう」

エルレイドはパネルのボタン使いマスターコードを入力していく。

「ユーザID：M165294

コード：\*\*\*\*\*」

エルレイド「どうだ？」

「バイオハザード発生につきロック解除は出来ません」

ヒューズ「こうなったらぶち壊してやる!」

ヒューズはマグナムに弾を詰め、何発も撃つ。だが、扉は頑丈に出来ているのか傷すらつかない。

ヒューズ「クツ！」

「コンテナ保管エリアにて火災が発生しました  
発生区は食料保管区・中央区・武器保管区・予備品区です  
消火活動を開始します」

エルレイド「火災まで起きるなんて……」

「ビーツ！ ビーツ！ ビーツ！ ビーツ！

バイオハザード発生につき消火活動は断念します」

コイル「そんな……！」

ユーロ「何でだ？ バイオハザードとどう関係があるんだ？」

【エスパ号 客室エリア】

ピカチュウ「バイオって何だ!？」

アルカリ「名探偵殿！ お急ぎを!！」

客A「ウワァア！」

客B「逃げるオ」

客C「火災だア！」

国際政府精鋭兵A「落ち着いて避難を！」

客D「船底には近づくなア！」

客E「キヤーーー!!!」

国際政府精鋭兵B「まだ、大丈夫です！ 冷静に!!!」

国際政府精鋭兵C「押さないで下さい！」

客F「急いで逃げろオ！」

財閥連合兵「助けてくれえ！」

ピカチュウ「ハザードって危険だっけ？」

【コンテナ保管エリア 制御室】

フィールド「……………!？」

フィールドは口を手で抑え、制御室から後ずさる。  
見てはいけないモノがそこにあった。

フィールド「な、なに……………? これは」

震える脚。心の中で激しくサイレンが鳴り響く。

ヒューズ「オイ！ フィールド！ どうし……………!」

後からやって来たヒューズもまた驚く。

ヒューズ「何だ……？ 惨殺されたのか……？」

制御室の中にあつたのはズタズタにされ、肉塊と化した物体だつた。

これが何らかの生物だつたということは分かるが元は何なのかは分からない。

いや、考えれば分かるのだがそれをあえて考えたくはなかった。

ヒューズ「クツ……！」

ヒューズは出来る限り“赤い池”と“生物の欠片”を見ないように進む。

フィルドは制御室の外で座り込んだみ、呆然としていた。

### 第38話 封鎖（後書き）

#### 【バイオハザード】

有害な生物による危険性の意（生物災害）。コンテナ保管エリアのバイオハザードはハンターB型の放った大量かつ強力な毒液が原因で発生した。

### 第39話 ドルクVSハンターB型（前書き）

【ドルク】

ナエトル族のポケモン。しかし、本来のナエトルとは比べ物にならない程のパワーを持っている。魔法攻撃を駆使し、その威力はそうとう高い。出身地は不明だが年齢は14前後らしい。

いつ頃からフィールドと同行するようになったのかは定かではないが数ヶ月前、財閥連合社の管理・運営するラドー支部襲撃事件の際、フィールドらと共にその姿が確認されている。

一説では彼は異世界からやって来て、しかも元人間だという。その世界で彼は世界支配を企む者達と戦い野望を阻止しているらしい。余談だがフィールドが信頼している人の一人（もう一人はヒューズ）



ダメージが大きいのか苦しみの声を上げるハンターB型。  
体のほとんどが火傷によって黒く変色している。

ドルク「俺は探検隊ブレイブのドルク！ よく覚えておけ！ “ル  
インガ”！！」

ハンターB型「ゴオオオー！！」

ハンターB型の低い唸り声。強力な魔法攻撃。

攻撃の衝撃で積まれていた炎のコンテナがハンターB型の体に降  
り注ぐ。

ドルクは素早くコンテナをよけて安全な場所に避難する。

その後、しばらくハンターB型と戦った所を見ていたがもうハン  
ターB型が出て来る事はなかった。

ドルク「終わったか……」

コンテナ保管エリアで行われた激戦。勝者はドルク。

彼の顔は赤く熱い灼熱の炎に照らされ、オレンジ色になっていた。

アルカリ「ドアロック解除！ 全兵レッツゴー！」

ユーロ「生き残りを救助し、財閥連合幹部を逮捕せよ！」

国際政府精鋭全兵士「イエッサー！！！！」

ようやくドアロックを解除し、国際政府の兵士がコンテナ保管エ  
リアに入って来る。

それをドルクは高く積み上げられたコンテナの上から見ていた。  
その表情は安心したのか柔らかい表情を浮かべていたのだった。



【エスパ号 テラス】

????「ええ、確かに送りましたよ。戦闘データ」

「……やはり、ハンターB型ハ暴走ノ危険性が高いデスネ」

エスパ号の船上で男はコンピューターと話す。

「デハ“ハンターC型”ハ完全管理下トシタ方ガイイデスネ」

????「同感だよ。“オーロラ”」

財閥連合メインコンピューター・オーロラ。

彼女(?)は最先端の“人工知能”であった。

「デハココマデニシマシヨウカ。後ハオーロラ支部デ……」

????「ああ、その方がよさそうだな。船も港に付いたようだし……」

「デハ、“ネストール”閣下、オ気ヲツケテ……」

ネストール「ああ、大丈夫だ」

財閥連合副総督・ハンター計画主任研究員、テイトス・ネストール。

彼はノートパソコンとケースを持ち、エスパ号を降りて行った。

ネストール「フフフ…… 私が信頼出来るのはオーロラだけだ」

### 第39話 ドルクVSハンターB型（後書き）

【テイトス・ネストール】

ハンター計画の中心にいる人物。メインコンピューター・オーロラの管理権を有し、パトフォーにとって変わろうと企む人物でもある。今の所、それ以外は不明。

第40話 元老院議長（前書き）

気づきました？

エスパ号をちよつと変えると「エスパ―」

あんまり登場しなかったですが財閥連合創始者メンバーの末裔達

スピード・エルレイド かくとうノエスパ―

スピード・サーナイト エスパ―

ハート・ココロモリ ひこうノエスパ―

クローバー・フーデイン エスパ―

ダイヤ・メタグロス はがねノエスパ―

彼らは全員「エスパ―」タイプを含んでいるんです！

という訳で船の名前はエスパ号ですw

## 第40話 元老院議長

エスパ号の事件から数日後……

【フィルド邸】

フィルドはコーヒーを飲みながらテレビを見る。

「予定していた番組を変更して緊急特番をお伝えします。」

あの世界最大の民間企業、財閥連合社の幹部が3人も逮捕されました。

国際政府の説明によりますとアルカリ將軍ら数名の殺害を企み……」

「エスパ号の事件により財閥連合社は社会的信頼を失い……」

「国際政府は逃走中のケイレイト容疑者を指名手配する方針で……」

「エスパ号で多くの市民を守ろうと戦ったピカチュウさんらポケッタ団員を政府は表彰する事を発表しました」

「……とても勇気ある行動です。普通の人にはとてもマネできません  
はい、有難う御座いました。以上、ポケモン専門家の……」

「先程、政府総帥のグラン・ダイレイ氏は財閥連合社に厳しい処分を下すと公表し……」

「財閥連合社の解体を求める世論は97%に達し、株価は大暴落すると考えられます……」

「臨時ニュースです！ 財閥連合総督のパルト・ティワード氏が辞任を発表しました！」

つい先程の記者会見での発表です！ その発言で会場は混乱しており……」

「こちらはポートシティの財閥連合社の支部ですが今、大勢の市民がデモを起こして財閥連合社に抗議しています！」

財閥連合社は出て行け！ 遺伝子実験の実体を明らかにしろ！

テトラルシティ崩壊の真相を公表しろ！ 財閥連合社のウソを許すな！

今、世界各地でこのようなデモが多発しており、政府の即時対応が求められます！」

フィールドはテレビを電源を切ると立ち上がる。

まだ、やらねばならない。財閥連合を徹底的に叩きのめす。もう逃がしはしない。彼女はそう強く思った。

しかし、現実はずまくいかない。決定的証拠がなかなか見つからない。どこを探しても生物兵器やそのデータが見つからない。

何故なのか？ それはデータは全て“オーロラ支部”にあるからだ。また生物兵器や軍用兵器は誰にも知られていない財閥連合本部パスリューにある。

それゆえ、どの支部を捜しても出て来ないのだ。そんな中、フィールドの元に一つの情報がもたらされる。

【国際政府首都グリードシティ インタータワー】

フィールド「マグフェルト元老院議長閣下、お呼びでしょうか？」

マグフェルト「ああ、PARUM副長官のネスト・フィールドだったな。今日はいい情報が入った」

フィールド「いい情報ですか？」

マグフェルト「……あの財閥連合の事だ」

フィールド「……………！」

マグフェルト「コスーム大陸北方のコールド地方にヤツらの支部があるらしい」

フィールド「あんな北の地に？」

マグフェルト「しかも、その周辺で生物兵器らしきモノを見たという情報がある」

フィールド「……………」

マグフェルト「恐らく、その地にあるのさ。財閥連合の“見られてはいけない伝説”がな」

フィールド「遺伝子実験や生物兵器の……………」

マグフェルト「そう、我らにとっては秘宝ともいえる物がな……………」

フィールド「すぐに向かいます」

マグフェルト「勿論、そうしてくれ。あの元老院には私から言っておこう」

フィールド「有難う御座います」

マグフェルト「うむ、多くのポケモンと人を救ってやってくれ」

フィールド「あ、すみません」

マグフェルト「何だ？」

フィールド「そのコールド地方の情報はどこから入手したのですか？」

マグフェルト「……それは君が気にする事ではない」

フィールド「失礼しました」

マグフェルト「ああ、大丈夫だ。それよりも早く3人（＝ドルク、ヒューズ、フィールド）揃って行って来てくれ」

フィールド「それは……」

マグフェルト「………？」

フィールド「残念ながら……」

マグフェルト「何かあったのか？」

フィールド「数日前の事ですが……」



その言ってフィルムは語り出した。

第40話 元老院議長（後書き）

次回からフィルドの過去編です  
かなり短いですが……

## 第41話 軍人失格

数日前……

【グリードシティ PARUM本部 フィルド邸】

ヒューズ「今日から5月か…… 俺はこの月は嫌いなんだよなあ」

ドルク「どうしてだ？ 何かあるのか？」

フィルド「あまり、話たくないが5月は……」

ヒューズ「とある街が消えた月なんだよ」

ドルク「消えた？ どういう事だ？」

ヒューズ「そのまんまだ」

ドルク「街が消えるなんて有り得るのか？」

フィルド「今から8年前の事だ……」

\*

コスーム大陸の中央からやや東に行った所にある街があった。その街の周りは自然が豊かで魔物も多く居た。

それがあの街の不幸を呼んだのかも知れない。

市民A「ゲエツ！」

市民B「ギャアアッ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

人型の何かが普通の市民を次々と撃って行く。私はそれに対してを内心、恐れながら叫んだ。

フィールド「何だ！ 何をしている！？」

ツタージャ「危ない！」

突然、ツタージャによって押し倒される。それとほぼ同時に銃弾が飛ぶ。

立っていたら間違いなく当たっていただろう。

フィールド「こ、ここは一体何なんだ…… 普通じゃない」

押し倒されたまま、街を眺める。

市民C「今こそ立ち上がれ！」

市民D「戦うぞ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

あの人型ロボットは財閥連合の軍用兵器の一つ、バトルドロイドだ。

何で市民を撃っているんだろうか？ 狙いは一体なんだろうか？

ツタージャ「早く立って！ フィルドさん!!」

フィルド「え、ああ」

ツタージャ「あの機械の兵士がやって来る!!」

フィルド「わ、分ってる……」

そう言っつて私は立ち上がり、一目散に逃げる。

軍人が市民を見捨てて逃げるなど普通はしてはいけない行為なのだが……

【テトラルショッピングモール 出入口口 前】

???「このッ！ この野郎!!」

フィルド「アレは……!!」

一人の大男と明らかに殺されそうな男性が一人。

私は無意識の内にマグナムを取り出す。そして、気づいたら発砲していた。

もし、大男が普通の人間なら死んでいたであろう。

大男「ウツグッ!!」

だが、大男は生きている。つまり、普通の人間ではないのだ。  
今だから分るのだが、アレはエスパ号にもいた“ハンターA型”  
だ。

????「アンタ！ ダメだ！ 逃げるぞ！ 俺の車に乗れ！！」

その男の言う通りハンターA型は再び立ち上がる。私は恐怖を感じて、車に飛び乗る。

市民見捨てるといい、出会った男（「ハンターA型」）を射撃する  
といい、市民の車に乗って逃げるといい、完全に軍人失格であろう。

ヒューズ「俺はヒューズだ。さっきは有難うよ」

フィールド「わ、私はフィールド……」

ツタージャ「僕はツタージャです」

これが長く続くことになるヒューズとの出会いであった。

## 第41話 軍人失格（後書き）

テトラルシティの話は次回で終わります  
そして、第6章に入っていきます

ヒューズ「俺らの過去話ってそんなに軽くやって終わりかよー！」

## 第42話 テトラルシティ消滅

ヒューズと出会い、私はどこか安心していた。

やっと普通の人間に会えた。なにしろ、この街で見えてきた人間は武器を持ち、財閥連合と戦って恐怖すら感じた。コレが戦場というものか。

13歳の時に軍に入りシュミレーションや訓練は行ってきたがどこか“画面”の向こうの世界としか感じてなかったのかもしれない。そして、私はしばらくの間意識を失う事になる。

ジバコイル「アナタハネスト・フィールド。ターゲットデスネ

……オ二人ハノーターゲットデスネ」

突然、出会ったポケモンは私を“ターゲット”といい、電磁砲と思われるモノを撃ち込む。

私の意識はもうろうとしていく……

フィールド「がッ……！ はッ……！！！」

ツタージャ「フィル……ん！」

ヒューズ「オメ……子供……何し……だ？」

聞こえなくなる声。ふらつく足。遠ざかる意識。

ヒューズ「止め……お前……！！！」

ジバコイル「死……ナ……！」



ヒューズ「……やが……」

こうして私は何もすることなくテトラルでの仕事を終えた。  
つまり、意識を失い倒れた。

数時間なのか？ それとも数分か？

私は激しい銃撃音で目を覚ました。目覚ましが銃撃音とはずいぶん変わっている。

財閥連合兵A「うわア！」

財閥連合兵B「グエエツ！」

財閥連合兵C「ギヤアツ！」

フィールド「……………！！？」

あのショッピングセンターで見た大男。つまりハンターA型が財閥連合兵を射殺していく。

アイツは財閥連合の生物兵器ではなかったのか？ 何があった？

指揮官つばい人「な！！？ そんなバカな！！」

いかにも指揮官、という感じの男が慌ててハンターから離れた所にあつたへりに乗り込む。

私、いや私達は死んだ兵士の武器を奪い戦闘に加わる。ただ、ヒューズだけは指揮官の乗ったへりに飛び込む。

これは後にヒューズから聞いた話なのだが、指揮官はパルト・テイルという男でヒューズがへりに乗ったのはその男を倒す為だった

らしい。

運転手「閣下！ 準備完了です！！！」

テイル「よし、急いで飛ばせ！」

???「いや、それはムリです」

後ろから運転手以外の声にテイルは振り返る。そこにはヒューズが立っていた。

ヒューズ「荷物が多すぎます」

こうしてテイルを殴り倒し、気絶に追いやったらしい。

一方、私はまだ完全に体が動く状態ではなかった為、流れ弾が脚に当たりその場に倒れていた。

結局、最後の最後まで何もする事はなかった。いや、出来なかった。

その後、ヘリに乗せられ、ヒューズと共に街を脱出したのだった。他の仲間はいない。ターゲットを含む仲間はハンターA型を倒す為に街に残ったのだ。いや、もしかしたら私とヒューズを逃がす為だったのかもしれない。

そして、彼らはテトラルシティから帰ってこなかった。生きていると信じたいが、それは有り得ない。

街は脱出した直後に消えたのだ。国際政府軍の放った核ミサイルにより人も財閥連合の生物兵器も建物も全て……

あの日、ヘリでテトラルシティから脱出する途中に飛んでいく核ミサイルを見た。

日の昇り始めた東から西のテトラルシティ目掛けて飛んでいく核ミサイルを……

ヒューズ「な、何だ？ 今のは？」

フィルド「テトラル除去計画が実行された……」

ヒューズ「え？ い、今なんて？」

こうしてテトラルシティの“仲間”という名の秘宝は消えた無くなつたのだった……

**第42話 テトラルシティ消滅（後書き）**

次回から第6章です

誰かがいなくなりますw

## 第43話 侵入

【グリードシティ フィルド邸】

ドルク「8年前にそんな事があったのか……」

フィルド「テトラルシティは財閥連合によって消えた」

ヒューズ「でも、今度消えるのは財閥連合だ。長かったけどよ、もう逃がさねえ！」

【グリードシティ PARUM軍 長官室】

レイズ「フィィルド」 この私のブラックリストナンバーワン  
「！」

この男はPARUM軍の長官であるバコ・レイズ。

レイズ「全く、あの女（＝フィルド）は顔はいいのに性格が良くないねえ」

もう少し、私に対する態度を良くして欲しいよねえ」

そういった直後、扉が勢いよく開かれる。

PARUM親衛兵「申し上げます！」

レイズ「何だ！ 貴様！ ノックをしやがれ！！」

PARUM親衛兵「あ、失礼しました！ それよりも緊急事態で……！」

レイズ「緊急事態だと……？」

【グリードシティ 軍事総本部】

警報が鳴り響き、大勢の兵士が動き回る。

国際政府精鋭兵「侵入者だ！」

国際政府精鋭大佐「南東のBブロックに侵入者あり！」

PARUM中佐「逃げ！ 捕らえろ！！！」

レイズ「PARUM総員に告ぐ！ 南東Bブロックに侵入者あり！  
ただちに捕らえよ！！！」

PARUM鎮圧兵「居たぞ！」

????「キャハハハ」

ユーロ「何者だ！」

サルリファス「アタシはサルリファス！」

サレファト「ボクはサレファト」

ユーロ「ああ、そうかい。ココは子供の来るところではないんでね。

おとなしく付いて来て貰おうか」

サレファト「え〜？ そんな事知ってるよ〜」

サルリファス「アハハ、アタシ達門番に止められたもん」

ユーロ「……………!？」

サレファト「ま、やっつけたけどね」

ユーロ「何だと!？」

PARUM大尉「政府正門警備隊は精鋭兵なのに……………!」

サレファト「次は誰と遊ぼうかな〜」

デロー「ふざけんな！ クソガキイ!!」

国際政府精鋭軍のデロー准将が鋼の大斧を振りかざす。

だが、サレファトはその攻撃をかわし、拳を握る。その拳は光っていた。

サレファト「“ライトニングボム”」

拳を突き出した途端、そこから光の球体が飛び、一瞬でデロー准将の胸に当たる。

デロー「グエエエッ!」

PARUM迫撃兵「デロー准将!?!？」

国際政府精鋭軍曹「まさか、特殊能力者パーフェクターじゃないのか……!!」

ユーロ「油断するな! 魔法発生装置を使ってない!」

国際政府精鋭准尉「じゃア、彼は特殊能力者パーフェクターなんですか!？」

ユーロ「間違いなく……」

サルリファス「よっ……と」

ユーロ「……………」

国際政府精鋭兵「……………?」

PARUM准尉「……………?」

サルリファス「バイバイ」

カヌー「までコラア!」

サルリファス「ん?」

PARUM電撃兵「おお! PARUM軍のカヌー准将!!」

カヌー「……………」

サルリファス「お仕事頑張っつてね」

国際政府精鋭兵「何したんだ?」



PARUM少尉「オイ！ ユーロ中将もカヌー准将も全く“動かない”ぞ！！」

全員「は！！？」

確かにユーロもカヌーも全く動かない。まるで色つき石像のようだ。

いや、二人だけ時間が止まっているようにも見える。

サルリファス「……私は時間と空間の特殊能力者<sup>パーフェクター</sup>」

サレファト「ボクは電気の特殊能力者<sup>パーフェクター</sup>さ」

全員「……………！！？」

サレファト「僕達はここに用があるんだ」

サルリファス「そう、ここにいる“異世界人”に、ね」

## 第44話 進撃

その集団のTOPの判断でその集団は死ぬ事も、活躍する事もある。

優秀なTOPは状況を素早く判断し、集団を右にも左にも動かす。

勝つも負けるも全てTOPにかかっているのである。

ヨの送り込んだ刺客。

彼らの対処法を間違えれば仲間を再び失う事になるであろう

……

【軍事総本部 レベル7】

PARUM特務兵「レベル少将！」

レベル「ゲウ…… わ、私がアナタ達を……」

サレファト「アハハ、じゃお休み “エレキハンドガン”」

サレファトが人差し指をレベル少将に向け、電気弾を飛ばす。  
血が空中を舞い、床に落ちる。

サルリファス「邪魔は止めて下さい」と

PARUM親衛兵「この野郎ッ」

そのPARUM親衛兵の動きが止まる。  
やはり、サルリファスの能力によるものである。

サルリファス「サレファト」　なんかいっぱい来たよ」

サレファト「任せて姉さん！　“エレキガトリングガン”」

サレファトの十本の指から大量の電気弾が飛び、兵士や将校は次々と倒れていく。

そして、フィルドの家まで後僅かであった。

#### 【軍事総本部 フィルド邸】

フィルド「何の騒ぎだ？」

ヒューズ「侵入者がどうのって言うてるけどなあ」

ドルク「でも、騒ぎ声がさっきより大きくなっている」

フィルド「……誰か様子を見て来い」

PARUM親衛兵「イエッサー！」

その親衛兵は武器を持って出て行く。

【軍事総本部 レベル8 軍部高官居住区】

政府首都警備軍長官「居住区に侵入！ 至急援軍を！！」

レイズ「大型兵器を作動させて侵入者を討て！」

政府首都警備軍長官「はッ！」

サルリファス「やつほー」

政府首都警備軍長官「……………！」

PARUM少佐「しまった！」

サルリファス「タ〜イムストップ」

その場で慌しく動いていた兵士や将校らが全員動かなくなる。

サレファト「……………これなら任務もすぐに終わりそうだね」

サルリファス「あの財閥連合の幹部やウワサの生物兵器とやらも私達にかかれば一瞬かもね」

サレファト「あ、姉さん！ 見えたよ」

サルリファス「アレね。フィールドの家は」

PARUM親衛兵A「侵入者だ！」

PARUM親衛兵B「ホントに来たぞ」

PARUM親衛兵C「全兵でフィールド閣下をお守りしろ」

サレファト「エレキロケットランチャー”」

PARUM親衛兵D「ウワアアツ！」

PARUM親衛兵E「グアアアツ！」

PARUM親衛兵F「ガハアアツ！」

腕から放たれた一発の電撃ロケットランチャー。  
普通のロケットランチャーより威力は高く、早かった。

【軍事総本部 レベル8 フィールド邸】

PARUM親衛兵A「い、今の音は一体……？」

PARUM親衛兵B「フィールド閣下、退避した方が……」

フィールド「……もう、逃げはしないさ」

サレファト「なんか扉開けるのメンドクサイね。壊していい？」

サルリファス「いいよー」

サレファト「エレキロケットランチャー”！」

フィールドの家を目掛けてロケットランチャーを撃つサレファト。

爆音と共にフィルドの家の一部が吹き飛ばす。

ヒューズ「うおっ！ いったん、逃げるぞー!!」

フィルド「私はここに残る」

PARUM親衛兵A「閣下！ 至急非難をお願いしますー!!」

ヒューズ「敵はすぐそこに迫っている！」

PARUM親衛兵B「ギャアツ！」

サレファト「……クス」

PARUM親衛兵C「我々が防ぎますので！」

フィルド「私も戦う！」

ヒューズ「バカ言っな！ アイツら間違パーフェクターいなく特殊能力人だ！」

PARUM親衛兵A「止まれ！ お前た……!!」

PARUM親衛兵C「グエツ！」

ヒューズ「俺達凡人が勝てる相手じゃないんだよー!!」

サルリファス「そうアナタ達凡人共には勝てない」

サレファト「僕らは優秀な“パーフェクター”だからね」

## 第45話 残り1時間

ヒューズ「優秀な”パーフェクター”？」

フィールド「あのプロパネやナードと同じ特殊能力者の事だ」

サルリファス「ん？ ナードやプロパネと同じ？」

サレファト「アハハハ！ 笑わさないでくれるかな？」

ドルク「どういう事だ？」

サレファト「ボクらはね、“鍛え上げられたパーフェクター”な  
さ」

サルリファス「つまり、素の能力だけに頼ったプロパネ達と同じに  
しないでくれるかな？」

サレファト「ボクと姉さんは能力を最大限にまで上げ、それを生か  
せる戦術を学んだんだ」

サルリファス「さてと、始めるかな」

ヒューズ「……………！」

フィールド「何をする気だ……………！？」

ドルク「俺はいつも通りぶっ潰すだけだ」

サルリファス「ワールド・リターン」

サルリファスの手から不思議な色をした球体が放たれ、それは飛ぶ。

その球体が向かった先は……ドルクだった。

ドルク「うわッ！ 何だ、コレは!？」

ヒューズ「……何も変化が起きないぞ」

サレファト「その技は“異世界から来た生物”のみに使えるのさ」

ヒューズ「何だと!？」

サレファト「姉さんの大技だよ。使われた生物は強制的にこの世界から元の世界に……」

フィールド「ま、まさか……!」

ヒューズ「このツテメエら……!」

サルリファス「ハ、ハハ。もう分ったんじゃないか?」

PARUM親衛兵「どういう事だ?」

国際政府親衛兵「さ、サア?」

サルリファス「あのまさか、よ。ドルクはこの世界から元の世界に戻される! 強制的に!」



サレファト「そして、もう二度とこの世界に来ることはできなくなる」

ドルク「……………!!」

ヒューズ「キサマアア!!」

ヒューズはサルリファスに向かって突進する。  
サルリファスは後方に吹っ飛ばす。

サルリファス「ゲハッ……………!!」

サレファト「姉さん!!」

サルリファス「む、無理ね。私を殺してももう手遅れ」

サレファト「さっき逃げたおけば……………」

フィールド「そ、そんな……………」

ヒューズ「黙りやがれエ!“システム・火炎放射”!!」

サレファト「おっとつと……………!!」

ヒューズの怒りの攻撃はかわされてしまう。

サルリファス「ああ、疲れた。さっさと帰ろう」

フィールド「私のせいで……………」

ヒューズ「……………！」

サレファト「うん。任務は終わったんだし帰ろう」

PARUM親衛兵A「帰れると思っているのか！」

国際政府親衛兵「ここでぶっ殺してやる！」

PARUM中佐「覚悟しやがれ！」

PARUM親衛兵B「よくもドルクさんを……………！」

国際政府精鋭曹長「貴様ら大概にしろ！」

大勢の政府兵士の凄まじい怒りと憎悪が二人に向けられる。  
流星のサルリファスとサレファトも恐れを感じていた。

ヒューズ「今更、“ゴメン”じゃ済まされねえぞ……………」

サレファト「す、凄い殺気だね」

サルリファス「ん？」

フィールド「私のせいで………… ドルクを………… また私の……………」

サルリファス（あの人は精神状態があまりよくないと聞いていたが、  
確かにそうだね

テトラルシティの事件以来、仲間を作ることへの恐怖を抱いていると聞いていたけど）

フィールド「また仲間を失う……」

サルリファス（なるほど、精神的に追い詰めるものいいねえ）

あのおっさん（「ヒューズ」だな。アイツを殺せば

……

“あのお方”から莫大な金がもらえそうだね）

## 第46話 フィルドの冷たい炎（前書き）

### 【サレファト】

ワールドシティ出身で13歳（星暦2010年）。電気を操る特殊能力者。フェクター財閥連合の暗殺部隊員に所属している。（暗殺部隊長官）好きな暗殺対象者はドラゴン系。理由はスリルがあるから、らしい。ターゲット

## 第46話 フィルドの冷たい炎

ヒューズ「喰らえッ！ “フレイムハンドガン 火炎拳銃弾” ！！！」

サレファト「危ないなあ〜……………」

アルカリ「全兵！ 罪人二名を逮捕しろ！」

サルリファス「サレファト、政府軍は頼んだよ」

サレファト「うん、わかった」

アルカリ「かかれ！ かかれ！！」

銃撃、爆音、悲鳴……………」

大勢の兵士を相手にサレファトは電撃で次々となぎ払う。

サルリファス「さて、ドルクにヒューズ、そしてフィルド

財閥連合の天敵集合といったところかな？」

ドルク「俺は絶対にお前を倒す」

サルリファス「アハハハ、その絆が引き裂かれるのも時間の問題、  
ね」

ドルク「その前にお前達をぜってえブツ潰ス」

サルリファス「そんなに怒らなくてもいいじゃん〜 元の世界に仲間がいるんでしょ？」

ドルク「……………！」

ドルクは一瞬、元の世界にいる仲間の事を考えてしまった。もう、別れてからもうすぐ一年が経とうとしている。

サルリファス「はい！ 隙だらけ！」

サルリファスはハンドガンでドルクを射殺しようとする。

彼女達の任務は「ドルクをこの世界から消す事」つまり“消す”のは“殺す”でもいいのだ。

だが、ドルク的能力はとても高い。それは素早さでも言える。銃弾を避けたのだ。

ドルク「危ねえ！ かすりやがった！」

サルリファス「あら、残念」

ヒューズ「オメエ…… ホンマに頭が腐ってやがるな」

サルリファス「だから、何？」

ヒューズ「まあいいんだ…… ところで弟さんがヤバイけど？ 死んでるぜ？」

サルリファス「……………！！？ サレファト！！？」

サルリファスは慌てて振り返る。そこには何千という政府軍の兵士を相手に戦っているサレファト。

騙された！ そう思ったとき、銃弾が飛ぶ音がした。

慌てて横に飛ぶが間に合わない。ハンドガンの銃弾は手の甲に当たり、貫いた。

サルリファス「なッ！ お、ウアッ！ お前エッ！！」

ヒューズ「人生の経験値が足りないようだな！ たかが、15、16年生きただけで優秀といわないでくれるかな！」

サルリファス「こ、殺しッ！ 殺してやるッ！！」

サルリファスはハンドガンを右手に持ち、ヒューズを射殺しようとする。

ドルク「させるか！ “エナジーボール”！！」

サルリファス「ええい！ 死ねッ！ “システム・クロスフレイム”」

ヒューズ「しまった！」

ドルク「……………！！」

巨大な炎の雷がドルクとヒューズに襲い掛かった ……

\*

PARUM親衛兵「閣下！ 今のうちに避難を」

フィールド「……………！！」

フィールドはハツと我に返る。

そして、飛び込んできた光景はボロボロになりながらドルクとヒューズがサレファトと戦う姿だった。

サレファト「喰らえ！ “エレキガトリング”！！」

ヒューズ「グアッ！」

ドルク「“エナジーバスター”！」

サルリファス「ハア、ハア…… やってくれるよ……」

サレファト！ 早くヒューズを殺せ！ ドルクは後  
20分で消える！！」

フィールド「クッ！ アイツ……！！」

PARUM親衛兵「閣下、お急ぎを」

フィールド「……兵はどうした？」

PARUM親衛兵「この辺りの兵はほとんどやられました」

フィールド「何ッ！？」

PARUM親衛兵「もうすぐに精鋭軍本部から援軍が来ますので……」

……」

フィールド「その必要はない…… 私がアイツを倒す！！」

PARUM親衛兵「え？ 閣下！？」



た。  
フィールドは剣を取って立ち上がる。その目は冷たき炎が宿っ  
てい

## 第46話 フィルドの冷たい炎（後書き）

### 【サルリファス】

コールドシティ出身で15歳（星暦2010年）。時間と空間を操る特殊能力者。パーフェクター弟のサレファトと共に財閥連合の暗殺部隊に所属している。ターゲット好きな暗殺対象者はやはりドラゴン系。理由も姉と同じだと推測される。

## 第47話 フィルドVSサルリファス

フィルド「サルリファス！」

サレファト「……………！？」

ヒューズ「……………！」

ドルク「フィルド！？」

サルリファス「……………なに？」

フィルド「私はお前を許さない！」

サルリファス「へえ、正気に戻ったんだ。つまんないね」

フィルド「手加減はしないぞ」

サルリファス「うん、それは酷いね。手ケガしているのに」

フィルド「だったらすぐに楽にしてやるよッ！」

フィルドはアサルトソードを使い、サルリファスを斬ろうとする。だが、サルリファスは素早くよける。

サルリファス「ウフフ、武器使わせて貰うよ」

そうとうと彼女はマシンピストルを2つ取り出す。連射速度がかなり速く、装弾数も多いが弾の消費が激しいピスト

ルだ。

フィールド「システム・シールド」！

フィールドは魔法発生装置で物理耐久を向上させる。

その際に、サルリファスのマシンピストルから大量の弾が発せられた。

凄まじい音と共に大量の弾がフィールドを襲う。

フィールド「クッ……！」

サルリファス「大丈夫ですか？」

フィールド「こんな攻撃で……！」

フィールドは攻撃に耐えながら、再び魔法発生装置を使う。

フィールド「クウウ！ “シ、システム・十万ボルト”！」

いくら“シールド”によって物流耐久を向上させたといっても無敵になったわけではない。

フィールドの体にはマシンピストルによる無数の傷が出来ていた。だが、フィールドは反撃した。激痛に耐えながら十万ボルトを繰り返し出したのだ。

サルリファス「ギャアアッ！」

サルリファスはその場に倒れる。彼女の後ろには壁。後退は出来ない。

フィールド「次で最後だ……」

アサルトソードを右手に持ち、ゆっくりとサルリファスに近づく。

サルリファス「……………！ ま、まさか、殺す？」

フィールド「ああ、死ね」

サルリファス「そ、そんな！ 待つて！ 私を殺しても大暗黒帝の計画は止まらない！

私は大暗黒帝に命令されただけで……………！」

フィールド「そんな事は分かってる！ でも、お前を許す事は出来ない！ 絆を切り裂いた罪だ！！」

フィールドはアサルトソードを振り上げる。

サルリファス「止めてッ！ お願い！ まだ死にたくは……………！」

フィールド「消えろ！」

サルリファス「サレファト……！！！」

\*

アサルトソードは斬った。縦に深い斬り込みが入っている。

フィールド」……………」

フィールドは斬った物を眺めていた。

ドルク「逃げられたか……………」

ヒューズ「時間と空間を操る、ね。まさか、“ワープ”するとは……………」

フィールドが斬ったのは“壁”だった。

サレファトとサルリファスの姿はどこにもなかった。

## 第48話 別れ

スリ「フィールド閣下！ 精鋭軍が到着しました」

そう言うのはPARUM親衛部隊長官、パナート・スリ。

フィールド「……負傷者を救助しろ」

スリ「イエッサー！」

そう言い、スリはその場を離れていく。  
残されたのはフィールドとドルクとヒューズ。

フィールド「……ドルク」

ヒューズ「……」

ドルク「……」

フィールド「……すまなかった。私の判断ミスだ」

ドルク「そんなに気にするなよ。お前は天才じゃないし、誰だって間違いを犯す事はあるさ」

フィールド「……」

ドルク「間違えるのは悪い事じゃない。大切なのは次どうするか、だ」

その時、ドルクの体が光に包まれる。

国際政府精鋭兵A「オイ！ アレを見る！！！」

国際政府精鋭兵B「な、何だ？」

国際政府精鋭兵C「ドルクさんが……」

国際政府親衛兵「どうしたんだ！？」

アルカリ「……元の世界に戻るのか」

ユーロ「もう、彼の元気な声を聞く事もなくなるんですね」

PARUM特務兵「ほ、ホントに異世界から来てたのか……！！」

PARUM親衛兵「マジかよ」

レイズ「オ、オイ！ 異世界については是非教えて……」

ホーガム「PARUM長官レイズ、黙っている」

国際政府軍事総督、ホーガム。

レイズ「ホーガム総督……！！」

ドルク「もう、時間か」

フィールド「……帰るのか、元の世界に」



ドルク「そうらしいな。アイツ（＝サルリファス）の説明だよ」

金色の光に包まれたドルクの体は宙に浮び上がる。

フィールド「私はお前と出会えてよかったよ」

ドルク「出会ってからそろそろ1年か？俺も一緒に冒険出来てよかったぜ」

宙に浮いたドルクの体は次第に薄くなっていく。

ドルク「フィールド、後少しだな、悪の財閥連合を倒して……戦いを終わらせ……」

フィールド「ああ、テトラルシティで死んだ仲間やドルクの頑張りをムダにはしない

必ず、財閥連合を倒し、大暗黒帝を倒す！」

ドルク「……頑張れ……元の世界から……応援して……」

ドルクの姿は徐々に、そして確実に消えていった。

戦闘で傷ついた部屋は少しだけ広く寒かった。

テトラルシティではツタージャとアリナス。グリードシティではドルク。両方とも失った仲間。

でも出会いがあるから別れがある。それが分っていても悲しくなる。

冷たい風が吹き抜けるグリードシティ。彼女の目から一筋の涙が頬を伝った。

深夜、グリードシティの軍事総本部を襲った事件。

ヨの策略どおりドルクは消えた。後に残されたのはヒューズとフィールド。

ヨは常にお前達の動きを監視している。

今日までずいぶん苦勞したな、フィールド。今度ばかりはお前にとつて“最高のアメ”をやるうではないか

世界最大の民間企業である“財閥連合の終焉”という名のアメを、な

第48話 別れ（後書き）

そつえばこんな展開は書いた事がなかったですねW

## 第49話 とある兄妹の物語

話は現在に戻る。

【グリードシティ インタータワー】

マグフェルト「そんな事があったのか……」

フィールド「……はい」

マグフェルト「それではドルクの事をムダにしない為にも我々は総力を上げて財閥連合を討たねばな」

フィールド「ええ、私もそう思います」

マグフェルト「私も全力でサポートしよう。政治面での話だがな」

そう言つと彼は立ち上がる。

フィールド「どうしましたか？」

マグフェルト「早いとこ頭の固い政治家を説得しないとダメだろ？」

そう言つとマグフェルトは少し微笑む。

フィールド「……有難う御座います。ご協力感謝いたします」

そう言つてフィールドは深々と頭を下げたのだった。

【コスーム大陸 ポートフォレスト】

グリードシティから遠く離れたポートシティ。その北部に位置するのは自然豊かなポートフォレスト。

そこに、大量の血を流している少女とオロオロする少年がいた。そして、少し離れた所には別の女性が立っていた。

????「やあ…… サルリファスにサレファト」

サレファト「あなたはケイレイトさん!？」

立っているのは財閥連合の暗殺部隊副長官ケイレイトだった。

サルリファス「な、何しに、ゲホッ！ 何しに来たッ！」

大量の血を吐きながら、ケイレイトを睨みつけるサルリファス。

ケイレイト「フフフ、ダメじゃない。“ワープ”したら……

アレは強力な魔法で下手したら死ぬよ？」

サルリファス「ハア、ハア…… しなかつたら死んでたよ……」

高い体温。傷口からは止まらない血。荒い呼吸。サルリファスは瀕死といってもいいような状態だった。

ケイレイト「ところで任務は？」

サルリファス「……か、完了……した」

サレファト「姉さん、大丈夫……？ 早く手当てしないと死んじゃうよ」

ケイレイト「へー、そう。まあ、大暗黒帝陛下はご存知のようだけど」

サルリファス「ふ、ふざけるなッ！ ゴホッ、ゴホッ！」

再び口から血を吐く。

ケイレイト「死にかけね。楽にして上げるわ」

そう言うと2本のブーメランを取り出す。

ケイレイトは大暗黒帝の命令でサレファトとサルリファスを殺しに来たのだ。

もう、この二人は必要ない。もし、裏切ったら危険だ。そう判断したのでろう。

ケイレイト「私のブーメランが人をスパスパ斬るのはね」

サルリファス達に向かって風が吹き始める。

ケイレイト「私が“風の特殊能力者”だからよ」  
パーフェクター

サルリファス「な、なんだと……!?」

ケイレイト「風を操りブーメランを操る、それが私」

サレファト「消えろオ！ “エレキロケットランチャー”!!」

サレファトは電気で構成されるロケットランチャーを飛ばす。  
だが、ケイレイトは簡単に避けてしまった。

ケイレイト「遅いね。ロケットランチャーは」

サレファト「だったら…… “エレキレーザー”！ “十万ボルト”!!」

ケイレイト「“逆風”!!」

サレファトの飛ばした攻撃はなんと強烈な逆風により、戻ってきたのだ。

その攻撃はサレファトに当たり、また逆風で後方に飛ばされる。飛んでしまったサレファトの体を受け止めたのはサルリファスだった。

サレファト「姉さん!？」

ケイレイト「まだ動けたの？」

サルリファス「ハア、ハア…… 大丈夫？」

サレファト「それはボクのセリフだよ……」

ケイレイト「まあいいわ。私のブーメランは連続で人の首を八ネる事も可能だしね。二人で仲良く死になさい」

ケイレイトはブーメランを持ち、投げよつとする。

サルリファス「バカな女ね、ケイレイト。アナタは大暗黒帝によって……いつか殺されるわ」

ケイレイト「……それが遺言？ バカな女ね、サルリファス」

サルリファス「アハハ、私は死ぬけど……アナタは任務失敗よ」

ケイレイト「ボケるのはあの世でしなさい」

サルリファス「……サレファト、もし私が死んだら、ちゃんと地面に埋めてね」

サルリファスはサレファトを抱きかかえる。



彼女の高い体温はサレファトにも伝わる。

サレファト「姉さん!? ま、まさか」

ケイレイト「死ぬのなら首だけ置いてってほしいわ！」

ケイレイトはブーメランを投げる。

サルリファス「バイバイ サレファト」

サルリファスはサレファトを抱きかかえ、消えた。

空間と時間を操る特殊能力者だからこそ出来る大技、  
“瞬間移動”。

一度使えば瀕死。その状態でもう一度使えば……

ケイレイトは大木に刺さったブーメランを抜く。

???「ピピツ！ 任務は完了したか？」

ケイレイト「……大暗黒帝閣下、失敗しました。サルリファスはワープで逃げました」

パトフォー「ワープか？ なら間違いなくサルリファスは死んだであろっ」

ケイレイト「恐らく……」

パトフォー「まあいい。お前はそのままパスリユー本部に戻れ」

ケイレイト「はい、陛下」

パトフォー「……始めるぞ。“財閥連合崩壊計画”を、な」

ケイレイトは歩き出す。財閥連合本部パスリユーに行く為に。

青空は曇り始める。冷たい風は吹き始めた。辺りの木の葉が揺れ動く。

財閥連合という名の巨大民間企業の崩壊は近い。

テトラルシティを消し、エスパ号の事件、グランドシティ壊滅、その他諸々の事件を引き起こした財閥連合。

まだ誰も知らない。財閥連合より凶悪で強大な組織が地下で動くことに。

そして、国際政府の死守してきた平和と安定が消え去り、コスロム大陸全土が血で染まる未来を……

第49話 とある兄妹の物語（後書き）

サルリファスはどっなくなってしまったのでしょうねw

第50話 オーロラ支部（前書き）

長い間お読み頂いて有難う御座いました  
本作品はいよいよ最終章です

## 第50話 オーロラ支部

世界最大の民間企業である財閥連合。その政治的・経済的な力は底知れない。

コスーム大陸内の家庭にある物の60%から70%がこの企業の製品で、それは信頼の大きさを表すには十分だった。

> i21418—1537<

だが、エスパ号の事件によって生物兵器や遺伝子実験が遂に世間に晒された。

売り上げは急激に落ち、株価は大暴落し、世界最大の民間企業・財閥連合は崩壊の危機に立たされた。

財閥連合の幹部は裁判を長期化させた。

“生物兵器や遺伝子実験は国際政府の命令だった”

“その証拠に国際政府は8年前、遺伝子実験がバレそうになってテトラル支部を核ミサイルで消滅させた”

裁判を長期化させるのは彼らが「伝説の秘宝」を持っていたからである。

それを調査しに、息の根を止める為に、「伝説の秘宝」を破壊する為に、“彼ら”は向かった。

遙か北方の、極寒の地にある財閥連合の支部に。“財閥連合オーロラ支部に”

### 【財閥連合 オーロラ支部】

「コントロールシステムに異常発生！ コントロールシステムに異常発生！」

所員93%死亡！ 生存者7%未満！ LEVEL・Sの非常事態！」

警報が鳴り響く部屋で一人の男がコンピューターを操作する。

「生物兵器暴走！ コントロール不能！」

パトフォー「……………」

「南西の方角に国際政府の飛空艇出現！」

パトフォー「ククク…… もう財閥連合は沈みかけた船だな

ヨは沈む前に脱出しようじゃないか……」

コンピューターを操作しながらパトフォーが言う。

「全データをパシリューに退避させます 作業、開始……」

パトフォー「“ハンターC型”はくれてやる……」

????「待ちたまえ」

パトフォー「……………？ 誰だ貴様は？」

ネストール「財閥連合副総督ネストールと言えば分るか？」

パトフォー「ああ、貴様か。“ヨが暴走させた生物兵器”の餌食になつてないとは……。ところで何の用だ？」

ネストール「ふっふっふっふ、倒れる時は一緒に倒れようぜ。仲間

よ

パトフォー「……………」

ネストール「データを持ち出して何をする気だ？ 長年利用してきた財閥連合を棄てるのか？」

パトフォー「ククク…… 財閥連合はヨの野望を叶える道具にすぎん。得たデータはヨの率いる組織に使わせて貰おう」

ネストール「………… 財閥連合以外の組織を持っているとは」

パトフォー「世界最大の軍事力と資金を隠し持つ“国際分離連合軍”だよ。ネストール」

ネストール「パトフォーよ、我が友人達の相手をしてくれないかね？」

そういつとネストールの背後から黒服の大男が姿を現す。  
財閥連合の生物兵器ハンターA型であった。

パトフォー「………… 「友人達」？」

パトフォーは後ろを振り返る。そこにもまたハンターA型。  
つまり、パトフォーは今、前後をハンターA型に挟まれているのだ。

ネストール「はっはっはっはっ………… 外部からの侵入者は「ハンターC型」に消させよう。そしてこの私が財閥連合を再生させてやる」

ネストールはそう言うと奥の部屋へと消えていった。  
残ったのはパトフォーとハンターA型のみ。

パトフォー「ククク…… 余計な置き土産だな。ネストール」



第50話 オーロラ支部（後書き）

途中の挿絵は財閥連合社のロゴ（マーク）です

## 第51話 突入！ オーロラ支部

【コスーム大陸北部 コールド地方 上空】

吹雪の中、暗き空の下を飛ぶのは2つの国際政府の大型ヘリ。

乗っているのは国際政府の精鋭兵とポケット団のピカチュウとキモリ。そしてPARUM副長官のフィールドであった。

パイロット「フィールド副長官、財閥連合の飛行型バトルドroid、  
“小型防衛機キヤモメ”です」

ヘリの前方から飛んで来るのは財閥連合の小型防衛機キヤモメであった。

羽の付け根には全自動ハンドガンが装備されていて敵を発見すると発砲して来る。

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

フィールド「やれ！」

パイロット「イエッサー」

ヘリに取り付けられているガトリングガンから大量の弾が発射され、小型防衛機キヤモメを瞬時に木っ端微塵にする。

所詮、小型の防衛機。軍用大型ヘリの敵ではない。

フィールド「全員降下！ 財閥連合の最後の秘宝を砕いてやれ！！」

ピカチュウ「おっし。まかせろ」

キモリ「お前じゃ世界が不安になるわ」

ピカチュウ「オイ！！」

ピカチュウやキモリを含め、2つのへりから大勢の国際政府精鋭兵が降下していく。

「非常事態発生！ 非常事態発生！」

建物からバトルドロイドや生物兵器が次々と現れる。  
今、国際政府と財閥連合の最後の戦いが幕を開けたのだった。

【財閥連合オーロラ支部 地上】

キモリ「こちらキモリ曹長。前方に生物兵器を確認！ 戦闘を開始する」

キモリとピカチュウの前方にいるのは改造されたポケモン達。ゴルバットが4体。ダゲキが3体。ゴローンが2体であった。

ピカチュウ「バトルしまゝす」

キモリ「いや、マジメにやれ！！」

ピカチュウ「へ〜い」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

キモリ「 エナジーボール”！”

ピカチュウ「 十万ボルト”！”

キモリがエナジーボールでゴローンを、ピカチュウが十万ボルトでゴルバットを破壊する。

残ったのは警備衛兵機ダゲキだけであった。

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

キモリ「 リーフブレード”！”

「攻撃セ……………！ ビツ！」

「破壊……………！……………！」

キモリの攻撃によって警備衛兵機ダゲキは倒される。

ピカチュウ「フハハハ！ 雑魚だね〜」

キモリ（お前だけには言われたくないと思うぞ）

ピカチュウ「ん？ 何かね？」

キモリ「いや、別に」

「グエツ！」

「敵が多すぎる！ 第3小隊壊滅状態です！！」

キモリ「全員大丈夫か!？」

ピカチュウ「オイ! コツチもヤバイぞ!！」

ピカチュウは叫ぶ。遠くの方から2体の地中襲撃機ドリユウズがやってくる。

キモリ「ああ、地面タイプは苦手だったな。でもお前なら大丈夫だろ」

ピカチュウ「はあ、簡単に言うなって」

ピカチュウは装備していた手榴弾を5メートル先に投げる。それは地中襲撃機ドリユウズが近づいた途端、爆発した。

彼らは爆音と共に一瞬で吹き飛び、辺りは煙で覆われる。

キモリ「ほらな」

ピカチュウ「武器と俺の投げ方のおかげだな」

極寒の中、キモリとピカチュウは言った。

そして彼らはオーロラ支部を進む。「伝説の秘宝」を破壊する為に。

## 第52話 オーロラ支部の戦い

星暦2010/12/20 3:15:09

財閥連合オーロラ支部/財閥連合系所員数:85

外部-X3エリア/オーロラメインロード

生命反応:有り「5367」/アルカリ「ユーザID:ブルックリスト-7534」

アルカリ「かかれ! 全兵、進め!!」

アルカリ將軍の号令で国際政府精鋭兵が次々と進んで行く。兵士達は建物の影に身を隠しながら、僅かな隙間から銃撃を行う。

アサルトライフルの銃口からは凄まじい銃声。連続で銃弾が飛び、生物兵器やバトルドroidを地面に倒す。

だが、財閥連合側のバトルドroidや生物兵器も攻撃を続ける。射撃、砲撃、爆撃。それによって政府兵士も次々と倒れる。

「攻撃セヨ! 破壊セヨ!」

国際政府精鋭兵A「ギアアツ!」

国際政府精鋭兵B「怯むな!」

「攻撃セヨ! 破壊セヨ!」

国際政府精鋭兵C「衛生兵! 来てくれ! 重傷者だ!」

「破壊セヨ!」

国際政府精鋭兵D「グアツ！」

国際政府精鋭特火兵「キャノン砲、行つたぞ！！」

キャノン弾が放たれ、遠くから射撃していたバトルドroidや生物兵器の大軍は業火と轟音と共に吹き飛ぶ。

その辺りには生物兵器やバトルドroidの残骸。燃える灼熱の炎。近隣の建物の一部にまで炎が燃え移る。

「功……せ」

「ムググ……」

アルカリ「今だ！ 進め！！」

国際政府精鋭兵「ハッ！」

国際政府の精鋭兵はアサルトライフルを持ったまま、一斉に進み始める。

やがて、巨大扉の前に辿り付いた。オーロラ支部の内部に通じる扉だ。

アルカリ「解析兵、扉のロックを解除しろ」

PARUM解析兵「ハッ！」

解析兵はノートパソコンを使い扉のシステムにアクセスする。そして、それを使いロック解除を始めた。

国際政府精鋭兵「將軍！ なんか来ます！！」

アルカリ「……………！」

暗く、雪の降り続ける空。そこから緑の光を放ちながら何か飛んでくる。

ドラゴン型の軍用兵器！

アルカリ「財閥連合の“反乱鎮圧機ボーマンダ”だ！ お前達は下がっている！！」

国際政府精鋭兵「また生物兵器ですか！？」

アルカリ「失せるッ！」

アルカリはマグナムを二丁取り出し、それを両手に持ち、発砲する。

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

アルカリ「システム・火炎放射”！」

アルカリ將軍は魔法発生装置を使い、炎を放つ。赤く光る炎は反乱鎮圧機ボーマンダの顔に直撃する。

炎を喰らった彼は首を激しく振ながら後退する。

「破壊セヨ！ “レーザーカッター”」

反乱鎮圧機ボーマンダの口内から赤く光るレーザーが放たれ、それは不規則に動き、アルカリを切り刻もうとする。



アルカリ「マズな！ “システム・冷凍ビーム”！」

僅かな隙を狙ってボーマンダの口に冷凍ビームを打ち込む。

「ピピツ！ “スロウ弾”！」

冷凍ビームはボーマンダの口に命中。レーザーカッターは消滅した。

だが、今度はアルカリが隙を衝かれたのだ。行動を鈍らせる“スロウ弾”を撃ち込まれた。

「“ヘイスト”、“物理UP”、“特殊UP”、“防御UP”、“特防UP”」

国際政府精鋭兵「オイ、ヤバイぞ！ 自分を強化しやがった」

アルカリ「クツ………！」

「“システム・デス”！」

反乱鎮圧機ボーマンダは一撃必殺の強力魔法“デス”を使い、アルカリ將軍を即死させようとする。

アルカリ「グアツ………！」

国際政府精鋭大佐「いかん！ 特火部隊ヤツを殺せ！」

国際政府精鋭特火兵A「ハッ！」

国際政府精鋭特火兵B「ロケットランチャー準備完了！」

国際政府精鋭特火兵C「発射します！」

ロケットランチャーを持った3人の特火兵士が一斉にロケット弾を放つ。

ロケット弾は全弾、ボーマンダに命中。彼は木っ端微塵になり、燃えた破片が辺りに飛び散る。

アルカリ「クッ」

国際政府精鋭衛生兵「大丈夫ですか？」

アルカリ「う、うむ」

PARUM解析兵「ロック解除！」

アルカリ「よし、内部に潜入するぞ！」

国際政府精鋭兵「イエッサー！」

開いた正門。大勢の国際政府精鋭兵は次々と内部に入っていった。

## 第53話 地上エリア突破

【財閥連合オーロラ支部 地上】

フィールドは迫り来る敵、つまり財閥連合の生物兵器を次々と倒していく。

「攻撃セヨ！ 破壊……！」

両手に持ったマグナムガン。そこから放たれるマグナム弾。それは回転しながら生物兵器たちの体を砕いていく。

フィールド「どけッ！ 邪魔だッ！」

また、彼女の近くで戦う男はチルス・ヒューズ。

彼もまた9年前に起きたテトラル事件の数少ない生き残り。

この戦い何としてでも勝たねばならなかった。

ヒューズ「ヒューズさん100ポイント突破！」

フィールド「ポイントの決め方は!？」

フィールドがマグナムで生物兵器を撃ちながら言う。

ヒューズ「どの生物兵器も5ポイントだあ！ 文句あるか!？」

フィールド「ない！ 私も参加させて貰う!！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

ヒューズ「おらッ！ 参加了解だ！！」

ヒューズもまた敵と戦いながら返事をする。

数限りない生物兵器。そのほとんどが改造されたポケモンだった。

【オーロラ支部 工場外部通路】

ピカチュウ「寒い！」

キモリ「炎ポケモンと友達になっておくべきだったな」

ピカチュウ「そこら辺の建物に入ろうぜ！」

キモリ「あと少し先だ！ 我慢しろ」

キモリとピカチュウは追ってくる生物兵器を、立ちふさがる生物兵器を倒しながら進む。

だが、数が多すぎる。一体一体相手にはいられない。

だから、階段を壊したり、壁を壊してバリケード代わりにして追っ手を少しでも減らす。

【オーロラ支部 内部 大型エレベーター前】

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

フィールド「どけッ！」

ヒューズ「あと少しだ！」

「攻撃セヨ！ 破壊セヨ！」

ピカチュウ「邪魔だア！ “でんきあたく”」

突然ピカチュウとキモリが扉を壊し飛び込んで来る。

キモリ「内部も生物兵器だらけか」

ヒューズ「みんな、急いで乗れッ！」

既に奥の大型エレベーターに乗り込んだヒューズが叫ぶ。

ピカチュウ「ん？ 今度はドコに行くんだ？」

フィールド「オーロラ支部は地下に造られた施設だ。そこに行くにはエレベーターを使うしかないのさ」

ピカチュウ「なんでまた地下に!？」

キモリ「見られたくない物がたくさんあるからだろうな」

ピカチュウ「見られたくない物？ 0点のテストとか」

フィールド「……行くぞ」

エレベーターの扉が閉まり、彼らは地下へと向かう。

財閥連合の秘密研究所及び非政府軍事施設に、である。

今、彼らは“冥界”へと向かう。地下の施設で待ち受ける冥界の王は果たして……

未許可 大型エレベーター 稼働中  
警戒LEVEL・5

## 第54話 サイエネット研究所にて

### 【オーロラ支部 地下施設】

扉が静かに開き、白く暗い廊下が現れる。上階とは違い、物音一つしない不気味な所だ。

ピカチュウ「ここにあるのか？」

フィールド「間違いなく」

ヒューズ「むう、なんか嫌な予感がするぜ」

キモリ「マジかよ」

ヒューズ「背中がゾクゾクして、妙に落ちつかない」

彼らは静かに歩き、辺りを見回しながら慎重に進んで行く。

### 【オーロラ支部 集会所】

パトフォー「ハンターA型2匹とは……」

パトフォーは口から流れる血を拭いながら言う。

前方からハンターA型が2匹。パトフォーはゆっくりと後退する。

ハンターA型「グオオオオ！」

パトフォー「来るか！」

片方のハンターA型は口を開け、冷凍ビームと飛ばして来る。

パトフォー「システム・シールド」

魔法発生装置により、冷凍ビームをシャットアウトする。

だが、もう片方のハンターA型は防いでいる隙にパトフォーの近くまで寄って来る。

ハンターA型「グオオ！」

パトフォー「……………！」

ハンターA型の冷凍ビーム。とっさに右手を顔の前に動かして守る。しかし、確かに冷凍ビームを防いだが、右手は凍りつき、まともに動かなくなる。

パトフォー「クツ……………！」

【オーロラ支部 最高司令室】

ネストール「ふっふっふ…………… 苦しんで死ぬパトフォー」

監視カメラからの映像を見ながら呟くネストール。

ネストール「自分の腕が凍らされるはどんな気分なのかねえ……………」

ネストールは別の画面に目を移す。そこにはピカチュウ達が映っ



ていた。

ネストール「……サイエンネット研究所だな。システム“オーロラ”よ」

「ネストール閣下、御用件ヲ言ツテ下サイ」

財閥連合メインコンピューター“オーロラ”

全てのデータを管理し、多くの権限を有するこのコンピューターは人工知能と呼ばれる物であった。

状況を的確に判断し、命令を下すだけでなく、感情や欲求をもち、まさに人間のような物であった。

ネストール「サイエンネット研究所に“ハンターC型”を放て」

「申シ訳有リマセンガ、成功体デアル“OQTD-3659”ヲ傷ツケル可能性ガ高スギマス

ヨツテ、ハンターC型ヲ投入スル事ハ出来マセン」

ネストール「その確率は？」

「87.9%デス」

ネストール「ヤツラがOQTD-3659を破壊する可能性は？」

「12.4%デスガ解放サレル確率ハ……」

【オーロラ支部 サイエンネット研究所】

ピカチュウ達はOQT D・3659とプレートがある水槽を見ていた。

中にはまだ13〜14歳ぐらいの少年が入っていた。

ピカチュウ「なんだコレは？」

ヒューズ「たぶん財閥連合によって実験体にされちゃったんだろ」

フィルド「大人、子供関係なしか……」

ピカチュウ「よし、出そう」

キモリ「は？」

ピカチュウは側にあつたイスを持ち上げ、それを水槽に強く当てる。

水槽は割れ、大量の液体と共に少年は滑るように落ちてくる。

全員「オイ!!」

ピカチュウ「どうした？」

【オーロラ支部 最高司令室】

「……90%です」

ネストール「だろつな。今、出しやがった。OQT D・3659はどのような状態だ？」

「記憶が無い状態です」

ネストール「なるほど。そろそろヤツラを討とうではないか……  
オーロラ」

「賛成です。彼ら生物実験エリアに誘導シマス。ハンターC型、起  
動準備開始シマス」

第55話 オーロラ支部の最深部へ……

【オーロラ支部 サイエネット研究所】

ピカチュウ「出したはいいが動かない……」

ヒューズ「やり方ってモンがあるだろ」

少年「うッ……」

ピカチュウ「あ、動いた。やっぱり俺のやり方はあっていたんだなあ」

ヒューズ「それは絶対ない」

フィールド「オイ、大丈夫か？」

少年「こ、ココは……？」

フィールド「言っても分んないかも知れないけど、北のオーロラ支部だ」

少年「オーロラ支部……」

【オーロラ支部 集会所】

横たわる敗北した2つの巨体。両方ともハンターA型。一方、全身赤い血をつけて立つ勝者はパトフォーであった。

パトフォー「ハア、ハア…… いくら頑丈になっても所詮元は人間。首の骨を折ったり剣で頭を刺せばそれまでだ」

横たわるハンターB型の死体。

片方は首を折られ、もう片方は頭に剣がねじ込まれていた。

パトフォー「ククク、後はネストールだけだな」

#### 【オーロラ支部 最高司令室】

ネストール「結局、ハンターA型は役に立たなかったか……」

「M・パトフォー、最高司令室二向カッティマス」

ネストール「だが、かなりの重症を負ったようだ。ここで殺してやるさ」

「私モ戦イマス。共ニM・パトフォーヲ殺シマシヨウ」

#### 【オーロラ支部 通路】

パトフォーの行く手を遮る機械化された生物兵器。右から順にボーマンダ、カイリユ、サザンドラ、ガブリアス。

彼らの腕や口には血がべっとりとついている。そして、足元には死んだ兵士や研究員の死体。誰が殺ったのかは容易に想像がつく。

パトフォー「“オーロラ”の指令で動いている訳ではなさそうだな。

という事はヨが暴走させた連中だな」

ボーマンダ「ギャオオオツ！」

サザンドラ「ガアアアアツ！」

パトフォー「苦しいか？ お前達を苦しめ上げた財閥連合を憎め」

パトフォーは機械化されたボーマンダの顔を目掛けて飛び、その顔を蹴り飛ばす。

ボーマンダは壁に頭を打ち、呻き声を上げる。

パトフォー「死ねッ！」

呻き声を上げてのた打ち回るボーマンダを目掛けて、手榴弾を投げる。それは数秒で爆破し、ボーマンダは動かなくなる。

更にパトフォーはサブマシンガンを取り出し、残りの生物兵器に対し射撃する。

彼らの体出来る無数の穴。僅か数秒で全ての生物兵器は床に倒れこむ。

パトフォー「……お前達をそんな体にしたヤツもすぐに同じところに送ってやるから安心しな」

サブマシンガンに弾を詰めながら彼は呟いた。

【オーロラ支部 通路 生物実験エリア前】

謎の少年を加えた彼らは遂にこの部屋の前に来た。オーロラとネ

ストールの思惑を知らずに。

少年「あの、コレどうも」

ピカチュウ「ああ、その白衣ね。お礼なら今度……」

キモリ「コラ、お礼を求めるな。しかもソレを持ってきたのは俺だ」

ヒューズ「……その白衣と武器はどっから持ってきたんだ？」

キモリ「通路の研究員が持ってたヤツだ」

ヒューズ「奪ったのか？」

キモリ「いや、もうソイツは何者かに殺された後だった」

フィールド「たぶん、暴走した生物兵器だろうな。何で暴走しているのか気になるが……」

生物実験エリアの扉を開けたフィールドは中に進む。その後にピカチュウ達も続いた。

彼らは知らない。この部屋の奥に財閥連合の最後の希望である“ハンターC型”が待ち構えて居る事に。

「ハンターC型、起動シマシタ」

## 第56話 ハンターC型降臨（前書き）

オーロラ支部の地下エリア。

そこは想像を絶する研究所と生物兵器量産工場。

オーロラ支部は財閥連合の悪の力を増幅する施設群だったのだ。

そして、その奥に眠るのは財閥連合の秘宝・ハンターC型。

パトフォー、フィールド。決戦の時は近い……



## 第56話 ハンターC型降臨

【オーロラ支部 生物実験エリア】

広く白色の部屋。ここが生物実験エリアであった。

ネストール「ようこそ、愚かなる者よ……」

ピカチュウ「誰だ？」

ネストール「私こそ財閥連合の副総督、ネストールだ。今から最強の生物兵器ハンターC型と宴を始めようではないか」

ヒューズ「ハンターC型だと!？」

ヒューズがそう言った途端、奥の扉から真つ黒な鎧を着た大男が現れる。

時折、所々から青い光のラインが発せられる。

【オーロラ支部 最高司令室】

ネストール「……殺戮の宴を、な」

ネストールはマイクから口を離し、扉の方向を見る。  
そこにはパトフォーがいた。

パトフォー「後はお前だけだ…… ハンターC型は彼らがやってくるさ」

ネストール「敵であるフィールドらに期待しているのか？ バカだな。お前も」

「ハンターC型、戦闘開始。ハンターC型ノ行動ハ私ガ管理シマス」

パトフォー「財閥連合のメインコンピューター・オーロラか」

ネストール「オーロラとハンターC型があればもう何もいらん

研究と開発はオーロラが行い、警護はハンターC型が行うのだ」

パトフォー「全て消してやるさ……」

パトフォーはサブマシンガンを取り出し、銃口をネストールに向けた。

### 【生物実験エリア】

ハンターC型「才前達ニ勝率ナドナイ！」

ピカチュウ（喋った！！）

フィールド「それはどうかな？ “システム・火炎放射”！」

ヒューズ「“ハート抜き”！」

キモリ「“エナジーボール”！」

フィールドが火炎放射を放ち、ヒューズが銃弾を飛ばし、キモリはエナジーボールを飛ばす。

ハンターC型の知能であるオーロラは素早くそれらを解析する。

『魔法発生装置 火炎放射 / 95

特殊マグナムガン マグナム弾 / 200

生体(草) エナジーボール / 80』

ハンターC型「問題ナシ」

ハンターは目にも止まらぬ速さで避ける。火炎放射やエナジーボールは白い壁に傷を付けただけでしかなかった。

しかも、消えたハンターC型が次に現れたのは火炎放射やエナジーボールが壁につく前。現れた所はピカチュウの前だった。

ピカチュウ「……………!?!」

ハンターC型「破壊スル!」

ハンターC型はピカチュウの頭を目掛けて拳を振り下ろす。火炎放射が壁を焦がしている時だった。

フィールドらがそれに気づいた時、ピカチュウの体はすでに床に横たわっていた。

キモリ「ピカチュ……………!」

驚いたキモリがピカチュウの側に駆け寄ろうとした時、すでにハンターC型はキモリの後方で拳を振り下ろしていた。

それに気づく事なくキモリは攻撃を喰らい、床に叩き付けられる。白い床に赤い血が流れる。

フィールド「キモリ、ピカチュウ！」

ヒューズ「“A”や“B”とはまるで実力が違いすぎるぜ……！」

ハンターC型「残り、二人！」

## 第57話 窮地

【オーロラ支部 生物実験室】

ハンターC型「消エテ無クナレ！ “サイコキネシス”！！」

ハンターC型はサイコキネシスを放って攻撃する。

フィルド「システム・守る”！」

ヒューズ「“火炎銃弾”！」

ヒューズの放った炎の銃弾はハンターC型の胸に直撃する。

だが、ダメージを与えられたワケではない。何故ならこのハンターC型は装甲服を装着しているからだ。

ヒューズ「あのアーマーを何とかしないと……」

フィルド「“システム・サンダーランス電撃銃”」

一本の電撃がハンターC型の胸を貫く。

胸の装甲にヒビが入る。

ヒューズ「あのアーマーを破壊しろ！」

フィルド「分かってる！ “システム・ヘイスト”」

素早さを上げた彼女は目にも留まらぬ速さでサブマシンガンを取り出し、射撃する。

何十発もの銃弾がハンターC型の装甲を突き、やがて、胸の装甲の一部は崩れ落ちる。

ヒューズ「おっしゃ！」

フィールド「喰らえ！」

フィールドは更に攻撃を行う。一気にハンターC型を倒すつもりなのだ。

アサルトソードをハンターC型の胸に突き刺そうと、アサルトソードの先端を彼に向け、その胸に飛び込む。

ヒューズ「おお！」

フィールド「消えろッ！」

だが、簡単にはいかない。従来のハンターならともかくこのハンターは“速かった”

ハンターC型は素早く伏せた。フィールドの体はハンターC型の上を通り過ぎただけだった。

いや、違う。通り過ぎただけではない。彼女の脚を掴んだのだ。

フィールド「……………！」

ハンターC型「残念ダツタナ！」

そのまま彼女の脚を掴んだまま、グルグルと振り回し、拳句の果てには放り投げられる。

彼女の体は宙を舞い、白い壁の高い位置で叩き付けられる。

フィールド「　　ッ！」

ハンターC型「マダ終ワラナイ！」

ハンターC型の更なる追撃が始まった

壁に叩きつけられた彼女の体は当然の事ながら下に落ち始める。

だが、ハンターC型は落ちてきた彼女を強く殴り、天井に打ち上げたのだ。

フィールド「ウアアッ！」

フィールドは天井に叩きつけられ、また落ちてくる。

ハンターC型は落ちてきた彼女をまた打ち上げて天井に叩き付けられる。

天井とハンターC型の周囲には血が飛び散る。

ハンターC型「ハハハハ！　死ネエ！！！」

ヒューズ「テメエが死にやがれ！」

ヒューズはハンターC型に向かって走りながらマグナムを撃ちまくる。

だが、ハンターC型は全く気にせず、フィールドを打ち上げる。

ハンターC型「人八生キルカラ苦シイ！　解放シテヤル！　死コソ最高ノ幸福ダ！！！」

フィールド「ウッ……！！　アアッ！」

ハンターC型「痛ミカラ解放シテヤル！　ネスト・フィールド！！！」

ヒューズ「ざけんなア!!!」

ヒューズが跳び蹴りを喰らわす。ハンターC型は吹っ飛び、壁に叩きつけられた。

一方、フィールドは床にようやく落ちた。その体は傷だらけとなり、本人は意識を失いかけていた。

ハンターC型「何故？ 彼女八苦シンデイル。何故、解放シテヤラナイ？」

ヒューズ「黙れ！」

ヒューズはフィールドを抱えながらハンターC型に向かって叫ぶ。

ハンターC型「私カラ見レバ彼女八苦シンデイル。肉体的ニモ、精神的ニモ、ダ」

\*

テトラルシティデ仲間ヲ失イ、彼女八人ト接スルノヲ恐レタ。

信用デキナイ。仲間ヲ作りタクナイ。失ウノガ怖イ。アノ時ノ恐怖ハ嫌ダ。

ダケド、本当ハ仲間ガ欲シイ。イツモ一緒ニイテクレテ苦楽ヲ共ニスル仲間ガ。

デモ、ソナ仲間ヲ得テ、ソノ後ソレヲ失ツタラ？

モシ、裏切ラレタラ？ ソノ仲間ガ財閥連合ノ人間ダツタラ？

自分ヲ狙ウ人間ダツタラ？

恐怖！ 恐怖!!! 恐怖!!!! 仲間ニ向ケラレルノ八疑心ノ目！  
ソニア日々ガ8年。モウ、限界ナノサ。



\*

ヒューズ「だから、何だ？」

ハンターC型「楽ニシテヤリナ…… ソノ手デ」

## 第58話 フィールドVSハンターC型

ハンターC型「殺せ。解放シテヤレ！」

ヒューズ「……ずいぶんとふざけたハンターだな」

ハンターC型「……………」

ヒューズ「あんまり人間様をおちよくもんじゃねえぞ……………」

ハンターC型「ヤハリダメカ。マア期待シテナカッタガナ。イイデシヨウ、私ガ解放シテヤロウ」

そう言うつとハンターC型はゆっくりと歩いてくる。

ヒューズ「ヒューズさんの正念場だな！」

マグナムの銃口を向け、発砲する。

ハンターC型「喰ラエ！」

瞬間移動と言ってもいいような素早さでヒューズの前に移動し、装甲で覆われた拳をヒューズに突き出す。

ヒューズは吹っ飛ばされ、壁に直撃した。

一方、フィールドはハンターC型の足元に転がった彼女を見る。彼女は気を失っていた。

ハンターC型「マズハ一人目ダ」

ハンターC型は彼女の顔に足を乗せる。

ヒューズ「ク、クソ……俺って役にたたねえなあ……」

ヒューズはなんとか彼女を助けようと必死で動こうとするがその度に激痛が襲う。

ハンターC型「楽ニナレ……」

フィールド「……………！」

フィールドは八つと意識を取り戻す。  
だが、その時にはハンターC型は脚を振り上げていた。

ヒューズ「避けるオ！」

ヒューズは声を張り上げる。

その声と共にフィールドは素早く動く。

ハンターC型「チィ！」

ヒューズ「よっしゃ！」

ハンターC型の足は床を砕いただけとなる。

ハンターC型「貴様ア！」

ハンターC型は砕けた床の破片を拾い上げ、それをヒューズに投げつける。

それはヒューズの頭に直撃し、彼は意識を失う。

ハンターC型「クタバツタカ！」

フィールド「お前ッ！」

フィールドは“また”アサルトソードを突き刺そうと飛び掛る。怒りで冷静さを失っている。仲間を傷つけられた怒りで。

ハンターC型「学習シロ！」

同じようにハンターC型は彼女の脚を掴み、今度は床に叩きつけた。

フィールド「クアアッ　！」

ハンターC型はフィールドの首を絞めながら持ち上げる。

ハンターC型「ハハハ！　苦シミノ先ハ解放！　窒息死シナサイ！」

フィールド「クツ！　“シ、システム・クロスサンダー”！！」

ハンターC型「……………！」

ハンターC型の頭上から巨大な電気の雷が降る。当然、ハンターC型はダメージを受ける。

しかし、首を持たれていたフィールドも感電してしまった。

ハンターC型「ウギギ……………」

フィールド「ウアアアッ！」

フィルドの首からハンターC型の手が離れ、彼女は床に倒れる。

ハンターC型「クソッ！ テメエ八殺シテ……！！」

横たわるフィルドを踏み殺そうと、ハンターC型は脚を上げた時だった

キモリ「システム・ハードプラント”！」

ピカチュウ「でんきあたく”！」

ヒューズ「ギガント・ダイナマイショット”！」

復活した彼らの全ての攻撃はハンターC型に直撃する。

ハンターC型「グエエツッ！」

フィルド「これで終わりだ！ “紅風斬滅剣”！！」

フィルドは素早く回転しながら何度もハンターC型を斬りつける。ハンターC型の体から大量の血が噴出し、空中に赤い液体が飛び散る。

白かった床やフィルドの服や顔にもそれは容赦なく降りかかる。

ハンターC型「グアアアア！ ギヤアアア！！」

ハンターC型の体からは爆炎が上がり、装甲は吹き飛ぶ。また、体の関節部分が次々と爆発し、彼の体は崩れていく。

ハンターC型「ウガアアア……！！」

激しい雄叫びと爆発。火花を散らしながら、彼の体は壊れていく。やがて膝をつき、腕は取れ、首は折れ、彼は業火に包まれ、燃える。

これが財閥連合最後の希望であったハンターC型の最期だった。

## 第59話 パトフォーVSネストール

【オーロラ支部 最高司令部】

ネストール「オーロラは全世界を支配するだけの力がある」

パトフォー「何ッ？」

パトフォーはネストールの持つマグナムから放たれる弾をよけながら言う。

ネストール「最高の頭脳を持つオーロラの力は無限！」

パトフォー「オーロラは“物”にすぎん…… 使う者によってはただのガラクタで終わる」

ネストール「オーロラは“物”じゃない」

パトフォー「は？」

ネストール「オーロラは“神”だ」

パトフォー「人が“物”の部下に成り下がっているとは……」

ネストール「オーロラは無……！！！」

パトフォーのマグナム弾がネストールの脇腹に当たる。

ネストール「ガッ……！！ ハッ……！！」

パトフォー「オーロラは破壊する。アレはヨにとっても、人類にとっても有害だ」

ネストール「そうはせん！」

ネストールはどこからもなく水を繰り出す。

パトフォー「何だ、コレは？」

ネストール「私は“水のパーフェクター”なのだよ」

パトフォー「ほお」

ネストール「つまりは無敵なのだ！ 全ての物理攻撃を無に返す私に銃撃は効かない」

よく見れば銃撃で受けた傷は消えている。

パトフォー「ハハハハッ！ ヤキが回ったようだな」

ネストール「無敵の私に対する負け惜しみか？」

パトフォー「それがお前の能力か！」

ネストール「……………」

パトフォー「まだ、サレファトやサルリファスの能力の方が厄介だったよ」



ネストール「……「苦しみのウオタボール」」

大量の水は球状になり、パトフォーを中心に閉じ込める。

ネストール「窒息死しろ、カス」

パトフォー「……………」

水の球体に閉じ込められたパトフォー。ネストールは勝利を確信していたのだが……

パトフォー（……………そろそろだな、「エネルギーチャージ」はもういだらう）

この時、ネストールは水球を維持する為、パトフォーを包んでいる水の塊を直接触っていた。いや、ネストールの腕と水球は「繋がっていた」

ネストール「フッフ、もう限界じゃないか？」「アッチ」も片付いたかな？」

彼は知らない。ハンターC型がこの世にいない事を。

自らが作り出した最高の生物兵器が負けるとは考えもしなかったのだ。

パトフォー（内側から電撃を喰らったらどうなるんだろっなア、ネストール）

ネストール「オーロラ！ハンターC型は勝利したか」

「……残念ナガラハンターC型八、敗北シマシタ」

ネストール「……は？」

パトフォー（消える、“システム・守る”！ “システム・S放電”！）

パトフォーは大量の水に包まれたまま、放電を行った。それもかなり強力な。

一瞬だった。電気は水を伝い、ネストールをも感電させた。これがパトフォーの作戦だ。

彼にはそれを知る術などなかった。何故ならそれに気づいた瞬間、この世から消えたからだ。

「……………！」

一瞬で水は空気となり消えた。つまり、体が水であったネストールも同じ。

パトフォー「フーツ！ 手こずらせやがった……」

「財閥連合、ネストール……死亡」

パトフォー「さて、長きに渡り財閥連合のメインコンピューターだったオーロラよ」

パトフォーはキーボードを使い何かを打ち込んでいく。

パトフォー「今までご苦労だった」

「アナタハ私ヲ消スヨウデスネ  
私ハアナタノ最終目的ヲ知ツテイマス。私ノ計算デハソレハ実現  
不可能」

パトフォー「ああ、そうか。ではもう休め。二度と喋るな」

パトフォーは最後のボタンを押した。

「全データ削除開始……」

本システムハ初期状態トナリマス」

パトフォー「ヨはやってやるさ…… 今まで人類が出来なかったコ  
トを、な」

## 第59話 パトフォーVSネストール（後書き）

『オーロラ』

財閥連合社のメイン・コンピューター。最先端の科学を駆使して作り出された人工知能。

「オーロラ」という名前はオーロラ支部で作られ、保管されている事に由来する。

### 【財閥連合ノダーク・クロニクルズ】

クロア・パネルが管理権を有していた。彼の死に際に管理権はティルとネストールに渡った。（パトフォーは管理権を持ってない）余談だがパネルが“クロア邸”で操作していたコンピューターはオーロラではなく、普通のコンピューター。つまり、普通のコンピューターを使ってオーロラ支部のオーロラにアクセスしていた。

### 【怪盗ポケット団 〜デンセツノヒホウ〜】

唯一の管理権を持つネストールが使うコンピューター。ハンターC型を操っていたのもこのシステム。財閥連合の全データを管理していたが全てパトフォーに引き出され、データは削除された。

データが全て削除された為、事実上、オーロラはこの世から消えてなくなった。

第60話 脱出のパトフォー（前書き）

すいません

今章が最終です

あと、話が重くなります）？

## 第60話 脱出のパトフォー

「全データ削除開始シマス。本システムハ初期状態トナリマス」

ピカチュウ「……………?」

キモリ「何が起きた?」

ヒューズ「こ、今度は何だ!?!」

\*

「全データ削除 全生物兵器機能停止…………… 完了シマシタ」

国際政府精鋭兵A「な、何だ?」

国際政府精鋭兵B「何が起きたんだ?」

\*

「全バトルドroid機能停止…………… 完了シマシタ」

アルカリ「……………敵のドroid兵が止まった?」

ユーロ「何が起きたんですか!?!」

\*

「全セキュリティシステム機能停止…………… 完了シマシタ」

PARUM解析兵「な、何だ？ データが簡単に見えるようになったぞ」

国際政府精鋭兵「機能停止？」

\*

「全ロック解除解除…… 完了シマシタ」

デロー「ロックが解除されたぞ！ 突撃せよ！！」

国際政府精鋭兵「イエッサー！」

\*

パトフォー「ククク…… 最後の勝者はヨのようだな」

そう言っただけは歩く。向かった先は……

【オーロラ支部 サイエネット・メモリーカード保管室】

もう、ロック機能は停止している。トラップも同じ。

以前、ポケット団から奪った秘伝技マシン「X」「Y」「Z」

それに記録されているデータを組み合わせると「サイエネットのメモリーカード」となるのだ。

それには無限の力を得る化学薬品サイエネットのデータが詰まっている。パトフォーの最後の狙いはそれであった。

パトフォー「……むう、この辺りにあったハズだが」

パトフォーは探る。しかし、それは一向に出てこない。  
ふと窓に目を向ける。……割れていた。

パトフォー「……………！」

寒い外。まだ暗い外。そこから誰かが入ってきて誰かが「メモリカード」を盗んだ。

しばらく眺めていると遠くからヘリの飛び立つ音が聞こえてくる。

パトフォー「誰の仕業か知らんがあまりふざけるなよ……………！」

パトフォーは無線機を取り出す。

パトフォー「テイワード！」

テイワード「はい、陛下」

パトフォー「財閥連合の人工衛星を使い、オーロラ支部から飛び立つヘリをマークしろ」

テイワード「イエッサー」

パトフォーは通信をきる。僅かにニヤリと笑う。

パトフォー「さて、ヨもそろそろパスリユーに帰還せねば……………」

そう言って再び歩き始める。



【オーロラ支部 ヘリ格納庫】

ケイレイト「お待ちしておりました陛下」

パトフォー「作戦は終了だ。ヘリを出発させる」

ケイレイト「はい」

パトフォーとケイレイトは事前に用意していた大型ヘリに乗り込む。

やがて、ヘリはプロペラを回しながら床から離れ、うっすらと明るくなり始めた空に向かって飛ぶ。

パトフォー「……………」

パトフォーはヘリの窓から巨大なオーロラ支部を見下していた。

だが、それは突然、止められる。誰かが彼の後ろから頭にマグナムを突きつけたのだ。

パトフォー「……………!?!」

ケイレイト「お前は……………!」

????「動くな! 大暗黒帝!!」

パトフォー「ああ、お前か」

パトフォーは今の声で誰かとすぐに分った。

パトフォー「まさか、乗り込んでいたとはな……」

ケイレイト「いつの間に……！」

パトフォー「ククク、恐ろしき女だな…… “ネスト・フィールド”」

鋭い目でパトフォーを睨み、マグナムの銃口を向けているのはフィールドだった！

## 第60話 脱出のパトフォー（後書き）

『ネスト・フィールド ファイル1』

元々は国際政府のPARUM軍副長官。

彼女にはテトラル事件で仲間を失った過去があり、人間関係に悩まされる事が多々ある。仲間は欲しいのだが、そのせいで財閥連合によつて消されてしまうのではと危惧している。「仲間が出来た事でその仲間も狙われかねない」そう思っているのだ。

テトラル事件以前から彼女は人付き合いが苦手だったのに更に苦手になつてしまった。

第61話 逆襲のパトフォー（前書き）

残酷描写あり……かな？

## 第61話 逆襲のパトフォー

フィールドは待ち続けた。全ての元凶であるパトフォーを倒す日を

8年前、テトラルシティを消し去った原因の男。ドルクをこの世界から追放するように差し向けた男。常にあらゆる者を利用し、大勢の人々の人生を狂わした男。

その男の生死のカギを遂に握った。フィールドは震える手でマグナムを持ち、銃口をパトフォーに向ける。

フィールド「……遺言は？」

パトフォー「お前、勝った気でいるのか？」

フィールド「バカな事を！ お前は今から死ぬんだよ！ 私に頭、撃たれてな！！」

パトフォー「ククク……」

フィールド「テトラルの人々、お前が利用した連中、生物兵器……」

お前の腐った野望で何人巻き込んだ！ お前さえ存在しなければ多くの人々が幸せだった」

パトフォー「……」

フィールド「財閥連合の総督や幹部も、あの兄妹も、使われた生物兵器

お前がいなかったらもつといい人生を送れた！！」

ケイレイト「……」

フィールド「お前の愚かな野望に惹かれて何人死んだ！ どれだけの人を利用した！」

パトフォー「……………」

フィールド「いや、もういい。死んだ人達の為にもお前を葬る！」

フィールドはマグナムの引き金を引こうとした。

だが、突然パトフォーはフィールドの腕を握り、マグナムを叩き落としてしまう。

パトフォーを窮地に追い込み、気が動転していたのかも知れない。だが、もう後の祭り。

パトフォー「フンッ！」

パトフォーはフィールドの腹に強烈なパンチを喰らわす。彼女はその衝撃で壁に背中を打つ。激しく咳き込む。

だが、そんな事は知ったことではない。彼は素早くフィールドのアサルトソードを奪った。更に追い討ちとばかりに蹴りを喰らわす。

フィールド「ガハッ ……」

蹴りで口を切ったのか血が口から出てくる。フィールドは倒れこんだままパトフォーを睨む。

パトフォー「残念だったな」

フィールド「ウワァア！」

フィールドはパトフォーを殴り倒そうと飛び掛るが彼は避け、フィールドの腕を掴む。

彼女はその手を振りほどこうとするが何故か全く動かない。

フィールド「クツ……！」

パトフォー「少し静かにして貰おうか！」

そう言うとフィールドから奪ったアサルトソードをなんと彼女の右腕に刺し込んだ！

フィールド「……………！！！」

パトフォー「ククク…… さぞ痛いだろ…… これでお前はヨを殺せなくなった」

フィールド「グッ！ お前ッ！ クウッ！」

パトフォー「さて、お前はヨの部下となって貰う……」

フィールド「だ、誰がッ！ グッ！ お前のッ！！！」

アサルトソードの刺さった腕を握りながらパトフォーを睨む。

そのパトフォーは別のアサルトソードを握っていた。恐らくパトフォーも持っていたのだろう。

パトフォー「お前は“普通の人間”ではない」

アサルトソードの先端をフィールドの腹筋に当てながら言う。もう、彼女は立っているのがやっとだった。

パトフォー「8年前、我々に捕まった時の事を覚えているか？」

フィールドは8年前の事を思い出そうとする。

\*

????「……からだ」

????「もう少し少なく……」

????「ネストー……」

????「サイエンネット……」

????「……リユールの例を……」

????「よし、やれ！」

フィールド「止めるッ！」

数人の白衣を着た人間達。何かを言っている。それを自分はベツドに横たわり、眺めている。何かを拒絶する自分。

だが、思い出せるのはそれだけだった。何を拒絶していたのかも思い出せない。

\*

フィールド「し、知らない……!」



パトフォー「やはりな…… 何故ならその時の記憶は我々が消したからだ」

フィールド「だから……何だ！」

パトフォー「ククク…… “実験”の結果を共に見ようじゃないか……」

そう言うとパトフォーはフィールドの腹筋に当てていたアサルトソードに入れる力を強めた。

その瞬間、刺さし込まれると理解した。だが、それを防ごうと行動するよりも腹筋に激痛が走った方が先だった。

目を落として見れば、アサルトソードが刺さり、そこから大量の血が流れ出ている。

この時、すでにアサルトソードはフィールドの腹部を貫いていた。つまり、背中からアサルトソードの先端が見えている有様なのだ。

フィールド「 ! パトフォ……ッ! ! 」

背中を向け、去っていくパトフォーの姿を最後にフィールドの意識は途絶えた。

第61話 逆襲の帕特フォー（後書き）

ストーリーが重くなってきましたねw  
ごめんなさい><

## 第62話 連合軍

【グリードシティ フィルド邸】

フィルドはいないが勝手に上がり込むのはヒューズとピカチュウ、キモリ、オーロラ支部の少年、PARUM親衛長官のパナート・スリであった。

ピカチュウ「んで、どこ行っただ？ フィルドは？」

ヒューズ「今、政府の軍が必死の捜査をしているが見つからないらしい……」

スリ「私も心配です」

キモリ「確かにハンターC型戦まではいたのだが……」

ピカチュウ「なあ、少年」

少年「なんですか？ ところで僕の名前は……？」

スリ「そういえばこの子どうしたんですか？」

ヒューズ「ああ、コイツは……」

ヒューズはオーロラ支部での事を話す。

スリ「そうだったんですか……」

キモリ「で、どうするんだ？ コイツは？」

ヒューズ「俺も考えていたんだが…… そうだな、公共施設はマズい」

ピカチユウ「え？ 何で？」

ヒューズ「ホラ、助け出したのは財閥連合の研究所だぜ？ 俺の勘だが、彼は何らかの“研究体”だ」

少年「僕が！？」

スリ「有り得ますね……」

ヒューズ「んで、俺の提案だがスリ、お前が養子として引き取ってくれねえか？」

スリ「……はい？」

少年「ええ！？」

ヒューズ「本来ならフィールドが一番いいんだがアイツは今行方不明だしな」

スリ「でも……」

ヒューズ「いや、法律上、養子として引き取った方がいいじゃねえか。それに財閥連合の連中が彼を狙っているかもしれない

それを考えれば政府内で権力を持ったヤツのほうがいい」

キモリ「なるほど、な」

スリ「……なら仕方ない、かな？」

少年「……ですね」

スリ「ところで君の名前は？」

少年「……………」

ヒューズ「名前はないらしいからお前が決めてやれ」

ピカチュウ「よし、まかせろ」

キモリ「お前じゃねえよ」

スリ「ん〜…… “ヒョール” でいいかな？」

少年「え、あ、はい。いいですよ」

ヒューズ「よし、決まりだな！ 俺はヒューズだ！ 宜しくな！  
ヒョール君」

ヒョール「はい、宜しくお願ひします！」

ピカチュウ「俺様は世界最大の英雄……………」

キモリ「俺はキモリだ」

ピカチュウ「いや、俺の自己紹介中だろうが！」

フィールドの家には笑い声が溢れる。  
だが、そこから遠く離れた場所ではある組織が早くも動き出して  
いた。

【とある組織の本部パスリユール】

パトフォーはコンピューターを操作する。

「全データパスリユール本部二退避完了」

パトフォー「ククク…… これで“最悪の世界大戦”の準備が出来る……」

ティワード「陛下！ 大変です」

パトフォー「どうした？」

ティワード「例のサイエンネットメモリーカードの件ですが……」

\*

【トレジャータウン】

例のヘリコプターを追って我々、“国際分離主義連合警備軍（連合軍）”はトレジャータウンにたどり着きました。

その日の天候はとて悪く雷が鳴り響いていました。

ティワード「メモリーカードを持っていったヤツを追え！」

連合兵「はッ！」

メモリーカードを持って逃走していたのは少年でした。恐らく、名前はグレン。

彼の持つメモリーカードを奪おうとしていたのですが……

ティワード「サルリファス人工衛星”を使い、ヤツを消せ！」

連合兵「イエツサー！」

グレン「ハアハア…… まだ追ってくる」

回収ドロイド「降伏セヨ！ 降伏セヨ！」

グレン「ああッ……！」

彼は走るのを止めました。何故なら前は崖で、崖の下は海が広がっていたからです。

回収ドロイド「寄越セ！ 寄越スノダ！」

グレン「嫌だ！ これは渡さない……！」

財閥連合兵「システム…… ON！」

恐らくそれが原因でした。

サルリファス人工衛星はサルリファスの魔力を使うシステムです。つまり、人工衛星からの攻撃を受けた彼はその場で消えてしまいました。

彼を動きを止めるつもりでしたが、間違っ……

ティワード「ヤツはどうした!」

連合兵「そ、それが……」

ティワード「はっきり言え!」

連合兵「推測ですが、彼は彼の“前世”である“ピカチュウ”になった可能性が高いです」

ティワード「何ッ!? つまり、彼の時間を戻し、彼は前世の姿になったのか!？」

連合兵「はい……」

ティワード「それで本人はどうした?」

連合兵「恐らく別の場所に転送されたかと……」

\*

パトフォー「なるほど、な」

ティワード「申し訳ありません」

パトフォー「まあいい。お前はトレジャータウン近くのサフェルト支部に駐屯し、確実に捕まえよ」

ティワード「はッ!」



ティワードは部屋から出て行く。

パトフォー「それにしてもあのティワードが失敗するとはな……  
運がいいなグレン」

## 第62話 連合軍（後書き）

### 【サルリファス人工衛星】

パーフェクター・サルリファスの持つ魔法エネルギーを元に連合軍が開発・製造した装置。簡単にいえば魔法発生装置の発展バージョン。失敗が相次ぎ、実用化されることはなかった。

今回、全てのエネルギーを使ってしまった為、サルリファス人工衛星はもう使えない。（充電には彼女の魔法エネルギーが必要だが、彼女は既に死んでいる）

### 第63話 本拠に新生せし英雄

【連合軍本部パスリユー 研究室F】

巨大な円柱型水槽に入れられた一人の女性。彼女はパトフォーを憎むネスト・フィールドであった。

その周囲には白衣を着た研究員。連合軍の総督であるティワード。そして、黒い装甲服を装着しているパトフォー。

水槽に入れられたフィールドは意識を失っている。顔には呼吸の為に付けられたプラスチックのマスク。

研究員「陛下、お待ちしておりました」

パトフォー「ククク…… 大丈夫なんだろうな？」

研究員「……恐らく」

パトフォー「よし、彼女を“起動”し、水槽から解放してやれ」

研究員「イエッサー！」

数人の研究員はコンピューターを操作する。

ガコンという音と共に水槽のガラスが下がり、大量の液体と共にフィールドは水槽から転げ落ちるように出た。

パトフォー「……………」

フィールド「……………？ ドコだ？ ここは……………？」

パトフォー「ククク、ここはパスリユーさ」

フィルド「パス、リユー？」

パトフォー「そうだ。パスリユーだ」

フィルドの目はぼんやりとパトフォーの方に向いていた。

そして、次の瞬間、衝撃の発言をする。いや、計画の“成功発言”と言ってもいいだろう。

フィルド「……“アナタは誰”？」

彼女はパトフォーの事を覚えていなかった。

ティワード「成功ですな」

ケイレイト「そのようね」

パトフォー「ククク……」

フィルド「………??？」

パトフォー「ヨは大暗黒帝さ。後ろの連中はヨの部下だ」

フィルド「………はい」

パトフォー「オイ、自己紹介をしてやれ」

ケイレイト「私は連合軍のケイレイト。宜しくね」

ティワード「同組織の総督であるティワードだ」

フィールド「わ、私は……」

私はダレ？ ダレだっけ？

パトフォー「君の名前はフィールドだ」

フィールド「……フィ、ルド？」

フィールド？ 以前もどこかで……

「フィールド……軍が……しまし……！」

パトフォー「君は長い間意識を失っていた」

フィールド「意識……？ 失って……？」

パトフォー「そうだよ…… “国際政府とポケット団という悪の組織によって殺されかけた”」

フィールド「国際……？ ポケット？」

パトフォーは白衣をフィールドに着せ、手を取って立たせる。

フィールド「殺され……」

パトフォー「でも、君は生き延びたんだ…… “全てヨのお陰でな”」

この人は誰だった？ 思い出せない。何も……

パトフォー「特にポケット団は酷かったよ…… 彼らは悪魔そのものだ」

ティワード「……………」

フィールド「ポケット団……………」

パトフォー「悪魔の集い、かもな」

フィールド「……………ソレは？」

フィールドはパトフォーのダークブレードを指差す。

パトフォー「剣だ」

フィールド「け、ん……………」

パトフォー「使ってみるか？」

そう言ってフィールドにダークブレードを手渡す。

フィールド「……………」

パトフォー「ああ、それは君に上げるよ……」

どうだい？ 早速、ソレを使いたくないか？」

ティワード「陛下……………」

パトフォー「うむ、“ヤツ”を連れて来い」

ティワード「はッ！」

パトフォー「さて、フィールド君は一度部屋に戻りたまえ…… ケイレイト、案内しろ」

ケイレイト「はい、陛下」

フィールド「……………」

ケイレイト「さア……………」

ケイレイトはまだぼんやりとしているフィールドの手を取り、部屋へと向かった。

パトフォー（ククク…… フィールド、自らの手で味方を殺すがいい  
最初はアイツだが、やがては全員を殺せ！ それが終わったら真相を教えてやるっ……………）

ヨの計画の完了と共に記憶を呼び覚ましてやる……………  
そして、絶望の淵で嘆き、悲しみ、苦しみ、壊れてしまえ！

パトフォーは少しだけ微笑む。

フィールドはそれに気づかない……………

## 第64話 忘却の記憶

【パスリユー本部 フィルド私室】

この部屋に案内されて数時間

漆黒の装甲服とマントを纏い、黒き鋼の剣を帯刀したフィルド。彼女の以前の服装は白などの明るい色が多かった。だが、今着ている服は間逆。闇の色、黒だった。

魔法発生装置を内蔵した硬い装甲服。色は黒が基本。剣も持つ部分は黒。だが、刃に部分は白色であった。

漆黒の騎士ネスト・フィルド。彼女はそこにいた。

パトフォー「やア！ 気分はどうかな？」

パトフォーが突然入ってくる。

フィルド「ええ、問題ない」

パトフォー「ククク…… そうか、なら良い」

フィルド「ところでどうしました？ パトフォー閣下」

パトフォー「実はお前の“敵”を一人連れてきた」

フィルド「敵？ 誰ですか？ ヒューズ？ ピカチュウ？ ドルク？」

パトフォー「残念だがそんな大物ではない」



フィールド「フッフ、さっき私が言ったのは小物ですよ」

パトフォー「何？」

フィールド「ヒューズもドルクも所詮は“ちょっと強い凡人”

ましてやピカチュウ達は“アタマの悪いザコ”だ」

もう彼女の記憶からは消えてしまったのだろうか？

ヒューズやドルクといった大切な仲間との思い出。財閥連合との戦い。パトフォーを仇とし、戦った日々……

パトフォー「ククク、ハハハハハ！」

ティワード「陛下、連れてきました」

パトフォー「そうか……」

????「クツ！ 離せ！！」

パトフォー「さて、フィールドよ」

フィールド「……何か用で？」

パトフォー「お前の敵だ。……殺せ」

フィールド「………？」

ティワード「よし、歩け」

ティワードにマグナムを突きつけられて現れたのは……

フィールド「…………お前か」

ケイレイト「……………」

フィールド「財閥連合創始者メンバーの末裔“エルレイド”！」

ポケット団の、財閥連合創始者メンバーの末裔であったエルレイドだった。

エルレイド「…………フィールドさん？」

フィールドはダークブレードを引き抜き、その先端をエルレイドの首に当てる。

エルレイド「なッ……………！」

フィールド「…………“世界を滅ぼす悪魔の一人”だな」

エルレイド「何を言っているんですか？」

フィールド「ケイレイトから聞いた…………… 全て、な」

エルレイド「バカな事を言わないで下さいよ……………」

フィールド「私はお前を殺す。どうだ？ 怖いだろ？」

エルレイド「……………どうしてそんなに変わってしまったんですか？」

フィールド「……………」

エルレイド「ヒューズさんも捜していますよ…… アナタを心配して」

フィールド「ウソつけ」

エルレイド「ヒューズさんとドルクさんとの冒険も、何もかも忘れてاندですか!？」

フィールド「……………!」

エルレイド「テトラルシティの事は!？ グリードシティで離れてしまったドルクさんは!？ オーロラ支部の戦いは!？」

フィールド「テ、ト、ラル……？ ドル、ク……？」

そうアナタ達凡人共には勝てない

ボクらはね、“鍛え上げられたパーフェクター”なのさ

出会ってからそろそろ1年か？ 俺も一緒に冒険出来てよかったぜ

パトフォー「殺すんだ!」

私こそ財閥連合の副総督、ネストールだ。今から最強の生物兵器ハンターC型と宴を始めようではないか

人八生キルカラ苦シイ！ 解放シテヤル！ 死コソ最高ノ幸福ダ!!

フィールド「ハン、ター……………C… オー……………ロラ」

パトフォー「早くしろ！ このヨの命令が聞けないのか！」

動くな！ 大暗黒帝！！

フィルド「財閥連合…… 大、暗黒……」

パトフォー「……………！ フィルド！！」

フィルド「……………！」

フィルドはダークブレードを強く握る。

エルレイド「フィルドさん…… いつかきつと戻れる時が来るのを……………」

パトフォー「殺せ！」

……………信じています

フィルド「ウワァァァ！！」

フィルドはダークブレードを振り下ろす。

部屋に飛び散る血。それはフィルドの装甲服にもつく。

アンタ！ ダメだ！ 逃げるぞ！ 俺の車に乗れ！！

攻撃セヨ！ 破壊セヨ！

テトラル除去計画が実行された

ククク……………

パトフォー「それでいいのだ……………」

フィールド「……殺したらいけなかった」

パトフォー「いや、生かしておいては危険だ」

フィールド「分からないケド……私は、間違えたんだ」

パトフォー「しばらく一人にさせてやる……」

そういつてパトフォー達は出て行く。

残されたのはフィールドと死んだエルレイド。

フィールド「お前は誰だったんだ……」

そう言いながらエルレイドを抱きかかえ、その顔を見る。

その途端、ポケット団や国際政府、財閥連合との記憶が蘇る。

フィールド「エルレイド……！」

ドルクやヒューズとの冒険の日々や財閥連合を滅ぼそうと世界を飛び回った日々。

ラドー支部、氷覇支部、グラスト支部、エスパ号、オーロラ支部。コスーム大陸を駆け回り、財閥連合と戦った。

苦しい時も楽しい時もあった。でも、一つの目的の為に感情を捨て、ただひたすら走った。

フィールド「ドルク、ヒューズ……」

テトラルにて出会った陽気なヒューズ。出会いは突然、別れも突然だったドルク。自分を信頼し、慕ってきたパナート・スリヤその

他の部下。

フィルドの目から一筋の涙が頬を伝って金属質な床に落ちる。

フィルド「パトフォー…… いや、大暗黒帝…… お前はホントに大暗黒帝だな」

彼女は拳を握り締め、下唇を強く噛む。

フィルド「私の記憶を闇に暗黒に葬ったつもりかッ」

ダークブレードを握り、部屋を飛び出し、手当たり次第に暴れてやりたい。この施設で破壊の限りを尽くし、死んでしまいたい。

でも、彼女はその感情を抑えた。今はまだ戦う時じゃない。全ての元凶を断ち切るチャンスを待つ時だ。

フィルド「……私は連合軍の二セ中將だ。アイツを殺し、サイエンネットと連合軍を闇に葬ってやる」

フィルドはそう堅く決意した。時が来るその時まで耐え忍ぶのだ。時が来る日まで……

## 第65話 財閥連合の終焉

オーロラ支部の戦いから数カ月後。

歡喜のニュースがコスーム大陸全土を駆け巡る！

### 【交通都市ポートシティ】

『臨時ニュースをお伝えします』

突然、番組が変わり、ニュースが始まる。

道を歩く人々はその足を止め、TVに目がいく。

### 【産業都市グランドシティ】

『つい先ほど、最高裁は財閥連合社に対して有罪判決を下しました』

復興作業員や市民は喜びの声を上げる。

中には抱き合い、喜びを確かめ合っている人まで。

### 【トレジャータウン】

『この判決により財閥連合社は業務停止となり事実上、倒産となりました』

多くのポケモンが暮らすトレジャータウンでは喜びが大きかった。

財閥連合の生物兵器の件で怨嗟の声は大きかったのだ。

その姿を海上に出来た連合軍支部・サフェルト支部の所員はどんな目で眺めているのだろうか？

#### 【政府首都グリードシティ】

『また、国際政府はティワード総督を始めとする行方の分からない財閥連合幹部らを指名手配する事を発表しました』

長きに渡り世界を混乱させ、暗躍し続けてきた財閥連合。

財閥連合社の研究員グラントル、トゲボムの暗殺。同じ研究員のハミツク、トロイアの反乱

テトラルシティの惨劇。テトラル支部、ラスガン支部、氷覇支部の社員殺戮。

グランドシティの動乱。そこで繰り広げられたミュウツー・タイプ2との戦い。

そして、エスパ号の混乱。オーロラ支部の戦い。

あらゆる事件にも隠ぺいと保身を続け、コスーム大陸に波乱を起こしてきた財閥連合社。

世界最大の民間企業であったその組織は星暦2010年にその生命を絶たれる事となった。

戦いは終わり、凶悪な組織は滅び去った。

だが、新たな組織による新たな戦いがこの後、数年後に起こることはまだ誰も知らない。



パスリユー本部/地下639M地点

「第8自動データ改変室 使用者：M・パトフォー」

ヨの計画は進む。サイエンネット計画もハンター計画も全てはヨの“偉大なる計画”の為だ。  
もう、誰にも止められない。ククク……

「テトラル・ファイル4」

全ては一つとなり、繋がるのだ。

「ラストピース・ファイル4」

繋がった先にあるのはヨの統治する最強の帝国。無限の力でヨは神となり、世界を支配するのだ。

「ドリームストーン - ファイル3」

真の勝者はこのヨなのだ。それを知りたいのなら生き残る事だ  
……

「世界大戦計画データを再編成中……」

力なき者は逃げる。それでいいのだ。それは悪い事ではない。  
真に悪いのはヨに逆らい、帝国の到来を遅らせる事だ。

「世界大戦計画データ再編成完了」

遅かれ早かれヨの帝国はやって来る……  
ヨの偉大なる計画はもうかなり進んだ。

「コード：テトラル - 終了確認」

もう、止められない。

「コード：ラストピース - 終了確認」

グラントルのドリームストーン。  
テトラルシティのサイエンネット。  
グランドシティのミュウツー・タイプ2  
財閥連合の生物兵器とその戦闘データ。

「コード：ドリームストーン - 実行して下さい」

ヨには全て揃っている。世界支配に必要な物が全て、な。  
まずはコード：ドリームストーンを実行しようじゃないか。

そして、最後には  
……

「コード・フィールド - まだ実行出来ません」

## 第66話 終極に向かう世界

【パスリユー本部 兵団格納エリア】

一糸乱れぬ兵団。全ての兵士はアサルトライフルを装備し、次々と飛空艇に入って行く。

歩いているのは人間の兵士ではない。財閥連合社が量産した軍用兵器バトルドロイドであった。

彼らはどこに行くのだろうか？ 何を始めるのだろうか？ 命令を受け、動くしかない彼らにはわからない。

分かるのはその兵団を見ている連合軍幹部とその中心にいるパトフォー。そして、連合幹部に成りすましているフィールド。

ティワード「第16軍はポート支部に！ 第17軍はティト支部に向かえ！ 合図と共に各都市・街を襲撃しろ！」

パトフォー「……………」

ティワード「国際政府との“全面戦争”を開始する！！」

ケイレイト「……………」

ティワード「発端の地はティトシティ！ 俺が総指揮を執り、傘下の将軍はレンド将軍とグランドロイド将軍とする！」

大量のバトルドロイド、大量の生物兵器を満載した大型飛空艇艦隊が暗くなり始めた空に消えて行く。

太陽は西の地平線に消える。東からは漆黒の暗闇と凍えるような冷たい風。それは平和の終焉と戦争の勃発を暗示しているかのよう

であつた。

消えゆく平和と安全。国際政府という名の巨大国家が1800年間守つてきた全てが音を立てて崩れゆく。

始まる世界大戦。それはテトラルの何十倍もの惨劇を各地で生む事になるだろう。

そして、コスーム大陸は暗黒の時代を迎えることになる。破壊と憎しみ。闇の連鎖は全てを壊していく。

誰にも止められない。血と涙がコスームの土を染め、爆撃と砲撃が世界を包み込む。

友情は引き裂かれ、笑いは葬られ、安全は伝説となり、平和は非常識となる。

多くの犠牲の先、戦争の果てに待つのはどんな世界なのだろうか？

戦争、野望、破壊、憎悪、混乱、惨劇 …… それらの終極も

また到来する。

終極とは物事の最後であり、物事の果てでもある。

パトフォーとフィールド。彼らの戦いもいずれは終極を迎える。

戦争に準優勝など存在しない。どちらかが死に、どちらかが生き延びる。

ただ、それだけなのだ ……

『怪盗ポケット団 くデンセツノヒホウ』

完結』

## あとがき

あとがきのページです  
まずは最初に最後まで読んで下さって有難う御座いました！  
お礼申し上げます！

さて、この小説はどうだったでしょうか？

え？ コメディーはどこ行ったか、ですって？

コメディーは最初だけでしたね。途中からシリアス路線突っ走って  
しまいましたw

ごめんなさい><

はい、次ッ！ ……え？ 伝説の秘宝って何かって？

ご想像にお任せしますw

フィルドの伝説の秘宝は「仲間（＝ドルク、ヒューズなど）との絆」  
財閥連合社の伝説の秘宝は「ハンターC型」でしたけどね

では次！ ふむ、サルリファスとサレファトのその後ですか  
結論から言うとサルリファスは死にました  
サレファトは生きています。行方不明ですが

ではでは次です！ 今度はポケット団のその後ですか  
彼らは財閥連合崩壊後に解散しました

各団員の詳しいその後は「国際政府情報総合局」を見てくださいね

さて、次は…… グレンって誰かって？

「極秘任務遂行者」の主人公で「ポケモン不思議のダンジョン アホの探検隊」の主人公です

え？ 作者はアホの探検隊員にピッタリ??  
たぶん、バッチリフィットするかもしれません

さてさて、この小説には実は続編があります  
直接的な続編は「ポケモン不思議のダンジョン アホの探検隊」です  
間接的(?)な続編は「最悪の世界大戦と世界の黒幕」です  
まあ、僕の他小説との詳しい関係は下の表をご覧ください

#### 【黑夜風の世界大戦シリーズ一覧】

星暦1945～2002年

「財閥連合ノダーククロニクルズ」：パトフォーと財閥連合の過去話【完結済み】

星暦2002年

「救世主を迎える門 バトルシティ」：フィールドの過去話【完結済み】

「守りたいモノ ラスト・テトラル」：パトフォーとレス

トルの話【完結済み】

『逃げる旅』：ケイレイトとメタルメカの過去話【完結済み】

星暦2009年

「極秘任務遂行者」：グレンとシロナの話【完結済み】

星暦2010年

「オーロラ支部 秘密の尋問」：パトラーの話【連載中】

「怪盗ポケット団 くデンセツノヒホウ」：財閥連合社の崩壊【完結済み】

星暦2011年

「ニュー・スーパールイージ」：さらわれたピーチ姫を助け出す話【完結済み】

星暦2012年

世界大戦勃発！

星暦2013年

「ポケモン不思議のダンジョン アホの探検隊」：グレンとフィールドの話【完結済み】

「七大神宝を巡る旅」：マリオの話【完結済み】

星暦2014年

「最悪の世界大戦と世界の黒幕」：ヒョールとフィールドの話【完結済み】

「僕とアノ人とのイケナイ関係」：サレファトとパトラーの話【連載中】

星暦2017年

「野望の終極 コワレタ英雄（仮）」：このシリーズの最終ス

トリー【未投稿】

それではこの小説を読んで下さって有難う御座いました！！



ちなみに「野望の終極」 コワレタ英雄（仮）「はまだ投稿して  
いません」

でもこの話でパトフォーやフィールドの話は完結させます  
投稿されたら是非読んでほしいです

パトフォーとフィールドの戦いの終極を見ようではないですかw

え？ 最悪の世界大戦とか読んでない？

大丈夫です！ 話が分からなくなる、なんて事はないのでw

それではこの小説を読んで下さって有難う御座いました！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8136k/>

---

怪盗ポケット団 ~デンセツノヒホウ~

2011年10月9日20時29分発行